

第4章 井戸

1. 概観 (第5～9図)

今回の調査で検出された井戸は、中世末が1基、それ以外はいずれも近世で、多くは後半以降のものと考えられる。分布については、あまり一ヶ所にまとまることなく調査区の周囲に位置しており、溝で囲まれた方形区画に1基ないし2基という状況が読みとれる。なお、土壌としたY-11区SK-55 (19世紀前半) については、井戸となる可能性が高い。

また、井戸に関連した上屋構造などははっきりしないが、SE-03については隣接する溝SD-32あるいはSD-51が周囲を巡るように延びているため何らかの関連性が推測できる。

2. 井戸 (第34図)

SE-01 (第34図)

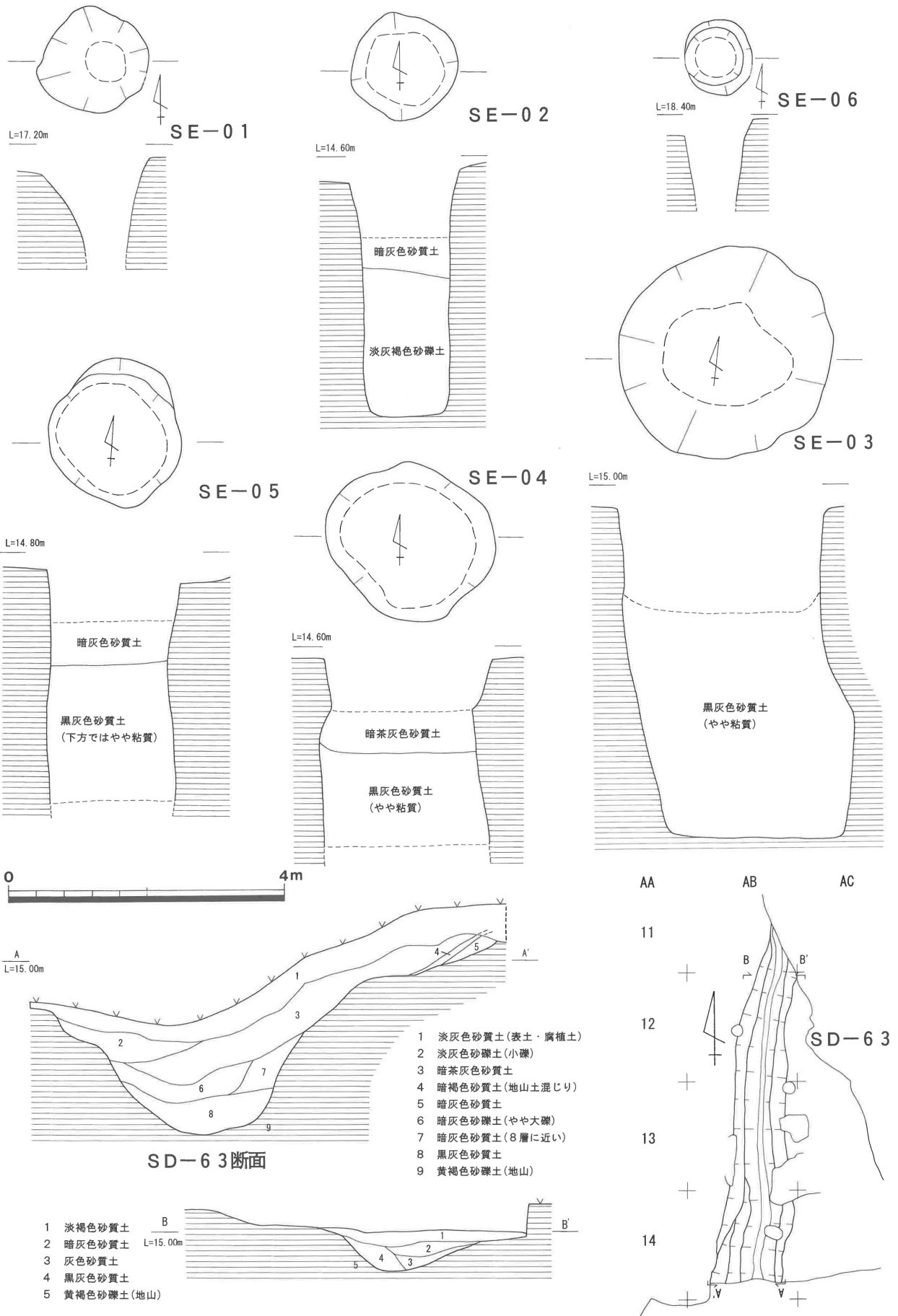
調査区北西隅のW-8区で検出された井戸で、竪穴住居SB-02を壊している。平面形はやや不整な円形で、規模は径約1.5m、深さは1.5m程まで確認しているが、それ以上は掘り下げていない。断面は漏斗状で、深くなるにつれて窄まっている。掘り下げた部分の埋土は、灰色砂質土である。出土遺物には、陶器碗・皿・壺、土師器鍋、平瓦など(第35図1～3)があり、遺構は19世紀前半頃と推測される。

SE-02 (第34図)

調査区西端ほぼ中央のU-11区で検出された素掘りの井戸である。平面形はほぼ円形で、規模は径約1.5m、深さは重機による断割りによって検出面から3.7m程下で底を確認している。井戸は筒状に比較的垂直に掘られ、底では平坦となる。埋土は、上から1.5m程までが暗灰色砂質土で、その下は淡灰褐色砂礫土が底まで続いており、短期間で埋めた可能性が考えられる。出土遺物には、灰釉系陶器碗、陶器皿・播鉢、土師器鍋・焙烙・小皿、棧瓦など(第35図4～8)があり、遺構は17～18世紀と推測される。

SE-03 (第34図)

調査区南西のU-14区で検出された素掘りの井戸である。平面形はほぼ円形で、規模は径約3.1mと非常に大きく、深さは重機による断割りによって検出面から4.9m程下で底を確認している。井戸は筒状に比較的垂直に掘られ、底では平坦となる。埋土は、黒灰色砂質土が上から続くようで、下では粘質となる。また、井戸の上部からは多くの土器が出土しており、廃棄土壌的な状態で埋まったと考えられる。出土遺物には、須恵器高坏・壺、灰釉系陶器碗・小皿、陶器碗・皿・甕、土師器鍋・小皿など(第35図9～30)があり、遺構は16世紀代と推測される。



第34図 遺構実測図-13 (1/80)

SE-04 (第34図)

調査区南端ほぼ中央のZ-15区で検出された素掘りの井戸である。平面形は不整な円形で、規模は径約2.3mで、深さは重機による断割りによって検出面から2.8m程下まで掘り下げたが底は確認できていない。井戸は筒状に比較的垂直に掘られている。埋土は、上から1.4m程まで暗茶灰色砂質土が続き、その下はやや粘質で水分を含んだ黒灰色砂質土が続く。出土遺物には、灰釉系陶器碗・甕、陶器碗・播鉢、磁器碗、土師器鍋など（第35図31～33）があり、遺構は18世紀後半頃と推測される。

SE-05 (第34図)

調査区南端のやや東側AA-14区で検出された素掘りの井戸である。平面形は楕円形で、規模は長径約2.2m×短径1.9mで、深さは重機による断割りによって検出面から3.4m程下まで掘り下げたが底は確認できていない。井戸は筒状にほぼ垂直に掘られている。埋土は、上から1.4m程までが暗灰色砂質土で、その下は黒灰色砂質土が続くが、下では粘質となる。出土遺物には、陶器碗・鉢、磁器碗、土師器鍋などがあり、遺構は18世紀後半～19世紀頃と推測される。

SE-06 (第34図)

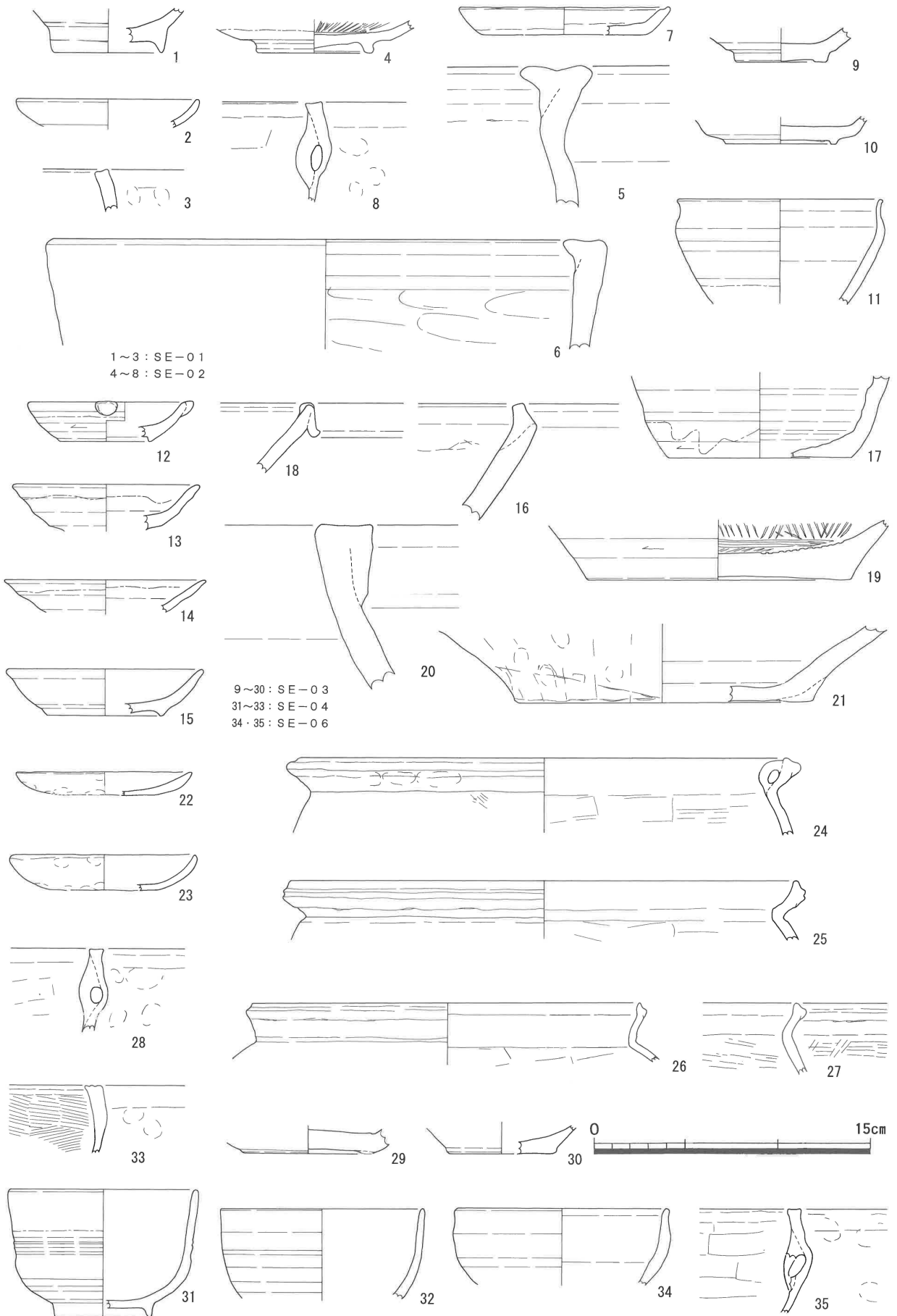
調査区北側ほぼ中央のY-9区で検出された井戸である。平面形は円形で、規模は径約1.1mのやや狭いもので、深さは1.2m程まで確認しているが、それ以上は掘り下げていない。断面は漏斗状にやや窄まっている。掘り下げた部分の埋土は淡灰色砂質土で、上部には廃棄されたと思われるガラス片なども入っていた。出土遺物には、灰釉系陶器碗、陶器碗・皿、土師器鍋・小皿など（第35図34・35）があり、遺構は18世紀代と推測される。

3. 井戸出土の遺物 (第35図)**SE-01 (1～3)**

1は陶器広東碗で、高台部は削り出し。外面に染付。2は陶器灯明皿で、口縁部は短く内弯気味で、端部は丸く収める。体部外面下半は回転ヘラケズリ、これ以外は回転ナデ。内外面に錆釉。これらは19世紀前半のものであろう（注1）。3は土師器半球形鍋で、口縁部は内弯し端部は平坦面となる。口縁端部ヨコナデ。時期ははっきりしない。

SE-02 (4～8)

4は陶器灰釉菊皿で、高台部は削り出し。高台部を除いて灰釉が掛かる。5は常滑窯産甕で、口縁端部は肥厚して平坦面となる。内外面回転ナデ。6は素焼き風の陶器火鉢で、口縁端部は肥厚し平坦面となる。口縁端部回転ナデ、体部内面ナデで、内面には煤が付着する。7は土師器皿で、底部は平坦で口縁部は小さく立ち上がる。口縁部ヨコナデ、これ以外はナデである。8は土師器半球形鍋で、口縁部は垂直気味に立ち上がり端部は平坦面となる。口縁端部ヨコナデ、体部内面板ナデ、外面ナデ



第35図 出土遺物実測図-12 (1 / 3)

・指押さえで煤が付着する。これらは、17～18世紀のものであろう。

SE-03 (9～30)

9～21は陶器である。9は平碗の高台部と考えられ、底部糸切り後に高台を削り出している。内面に灰釉が見られる。10は皿で、高台部削り出し。底部外面を除いて灰釉が掛かる。底部外面に輪ドチ痕が見られる。11は天目茶碗で、口縁端部は小さく屈曲させる。内外面は鉄釉で、高台周辺は露胎。12は灯明皿で、口縁部は小さく立ち上がり、端部に芯受けが付く。高台部は削り込み。内外面に鉄釉が掛かる。13・14は縁釉小皿で、口縁部は小さく立ち上がり端部は丸く収める。口縁端部に灰釉が掛かる。15は丸皿で、高台部削り出し。内外全面に灰釉。16は常滑窯産と考えられる片口鉢で、口縁部はやや丸味を帯び、端部は上方へ摘み上げている。内外面は回転ナデ。17は徳利と考えられる底部片で、底部外面糸切り。内外面に鉄釉が掛かる。18・19は播鉢で、口縁端部は外に折返し、端部は丸く収める(18)。底部は平坦で、体部外面は回転ヘラケズリ(19)。内外面はいずれも鉄釉。20・21は常滑窯産甕で、口縁部は折返し端部に広い面を作る(20)。底部は平坦で、体部は大きく広がる(21)。これら陶器は、古瀬戸後期から大窯第4段階あたりのもと考えられ、16世紀代のものであろう。

22～28は土師器である。22・23は小皿で、内面ナデ・外面ナデ・指押さえによる調整。24～27はくの字形鍋で、頸部を比較的大きく屈曲させる。口縁部ヨコナデ、体部外面ハケメ(27)やナデ、内面板ナデ・ナデによる調整。外面には煤が付着するもの(24・26)も見られる。28は半球形鍋で、口縁部は垂直気味に立ち上がり、端部は平坦面となる。口縁端部ヨコナデ、体部外面ナデ・指押さえ、内面板ナデによる調整。外面には煤が付着する。これらは、9～21に伴う時期のものであろう。

29・30は灰釉系陶器である。29は碗で、高台は低く偏平となる。30は小皿で、底部外面に糸切り痕が残る。いずれも13世紀後半～14世紀のもので混入であろう。

SE-04 (31～33)

31は陶器腰鍔茶碗で、高台部は削り出しとなる。内面及び口縁部外面に灰釉、これ以外は鉄釉が掛かる。32は同丸碗で、口縁部は内弯気味に立ち上がり端部は丸く収める。体部外面下半回転ヘラケズリ、これ以外は回転ナデで、全面に鉄釉が掛かる。33は土師器半球形鍋で、口縁部はやや内弯し端部は平坦面となる。口縁端部ヨコナデ、内面板ナデ、外面はナデ・指押さえで煤が付着する。これらは、いずれも18世紀代のものであろう。

SE-06 (34・35)

34は陶器天目茶碗で、体部はやや偏平で口縁端部は緩やかな屈曲となる。内外面回転ナデで、鉄釉が掛かる。35は土師器半球形鍋で、口縁部は内弯気味に立ち上がり端部は平坦面となる。口縁端部ヨコナデ、内面板ナデ、外面はナデ・指押さえ。外面には煤が付着する。これらは、いずれも18世紀代のものであろう。

注1 出土遺物の編年的な位置付けについては、第3章3の注1に示した文献を主に参考している。

第2表 出土遺物(SE) 観察表

図版-遺物No.	地区	遺構	器種	分類	口径	器高	底径	その他	胎土	焼成	色調	調整等	備考
35-	1	W-8 SE-01	T	広東碗		(2.4)	5.8		密	良好	淡褐色	高台部削り出し	内外面に灰釉、染付
	2	W-8 SE-01	T	灯明皿	9.8	(1.5)			密	良好	淡灰色	内外面回転ナデ	内外面に錆釉
	3	W-8 SE-01	H	鍋		(2.3)			密	やや不良	淡赤褐色	口縁部ナデ	半球形鍋
	4	U-11 SE-02	T	菊皿		(1.8)	6.3		密	良好	淡黄灰色	底部外面回転ヘラケズリ	内外面に灰釉
	5	U-11 SE-02	T	甕		(7.6)			密	良好	赤褐色	口縁部回転ナデ	常滑窯産
	6	U-11 SE-02	T	火鉢	30.6	(6.0)			密	良好	淡褐色	体部内面ナデ	内面に煤付着・素焼き
	7	U-11 SE-02	H	皿	11.4	1.5			密	良好	淡赤褐色	口縁部ヨコナデ	
	8	U-11 SE-02	H	鍋		(5.4)			密	良好	淡褐色	口縁部ヨコナデ	体部外面に煤付着
	9	U-14 SE-03	T	平碗		(1.8)	4.8		密	良好	淡灰褐色	高台部削り出し	内面に灰釉
	10	U-14 SE-03	T	皿		(1.5)	6.0		密	良好	淡灰色	高台部削り出し	内外面に灰釉
	11	U-14 SE-03	T	天目茶碗	11.0	(5.7)			密	良好	淡灰白色	内外面回転ナデ	内外面に鉄釉
	12	U-14 SE-03	T	灯明皿	8.5	2.2	4.8		密	良好	淡乳褐色	体部外面回転ヘラケズリ	内外面に鉄釉
	13	U-14 SE-03	T	縁釉小皿	10.0	(2.5)			密	良好	淡灰色	内外面回転ナデ	口縁端部に灰釉
	14	U-14 SE-03	T	縁釉小皿	10.7	(1.7)			密	良好	灰色	内外面回転ナデ	口縁端部に灰釉
	15	U-14 SE-03	T	丸皿	10.5	2.6	6.3		密	良好	淡灰色	高台部削り出し	内外面に灰釉
	16	U-14 SE-03	T	片口鉢		(6.3)			密	良好	暗茶褐色	内外面回転ナデ	常滑窯産?
	17	U-14 SE-03	T	德利?		(4.4)	9.9		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	外面に鉄釉
	18	U-14 SE-03	T	搦鉢		(3.8)			密	良好	淡褐色	内外面回転ナデ	内外面に鉄釉
	19	U-14 SE-03	T	搦鉢		(3.3)	14.2		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	
	20	U-14 SE-03	T	甕		(9.0)			密	良好	淡赤褐色	内外面回転ナデ	常滑窯産
	21	U-14 SE-03	T	甕		(4.2)	16.2		やや粗雑	良好	灰色	体部外面ナデ・板ナデ	
	22	U-14 SE-03	H	小皿	9.5	(1.3)			密	良好	淡灰白色	外面ナデ・指押さえ	
	23	U-14 SE-03	H	小皿	9.8	(1.9)			密	良好	淡褐色	外面ナデ・指押さえ	
	24	U-14 SE-03	H	鍋	26.2	(4.2)		頸部径25.4	密	良好	淡褐色	口縁部ヨコナデ	口縁部外面に煤付着
	25	U-14 SE-03	H	鍋	27.2	(3.2)		頸部径25.8	密	良好	淡褐色	口縁部ヨコナデ	
	26	U-14 SE-03	H	鍋	21.0	(3.0)		頸部径20.7	密	良好	淡褐色	口縁部ヨコナデ	口縁部外面に煤付着
	27	U-14 SE-03	H	鍋		(3.8)			密	良好	淡乳褐色	体部外面にハケメ	
	28	U-14 SE-03	H	鍋		(4.5)			密	良好	淡茶褐色	口縁部ヨコナデ	半球形鍋
	29	U-14 SE-03	P	碗		(1.3)	7.0		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	
	30	U-14 SE-03	P	小皿		(1.6)	5.7		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	
	31	Z-15 SE-04	T	腰鎗茶碗	10.1	6.9	5.2		密	良好	淡灰色	高台部削り出し	灰釉+鉄釉
	32	Z-15 SE-04	T	丸碗	10.8	(4.9)			密	良好	淡灰色	体部外面下半回転ヘラケズリ	内外面に鉄釉
	33	Z-15 SE-04	H	鍋		(3.6)			密	良好	淡褐色	体部内面ナデ	外面に煤付着
	34	Y-9 SE-06	T	天目茶碗	11.3	(4.1)			密	良好	淡灰褐色	内外面回転ナデ	内外面に鉄釉
	35	Y-9 SE-06	H	鍋		(5.6)			密	良好	淡褐色	口縁部ヨコナデ	半球形鍋

※器種記号 H-土師器 S-須恵器 K-灰釉陶器 D-土製品 R-石器・石製品 P-灰釉系陶器 T-陶器 Z-磁器 I-金属製品
J-縄文土器・条痕文土器 Y-弥生土器

法量の単位はcm、()は残存数値。底径には、脚部径や高台径を含む。

第5章 溝

1. 概観 (第5～9図)

溝は、調査区全体に60条以上が確認されており、排水の目的以外に区画や防御目的と考えられるものも存在する。溝の傾斜については、調査区全体の地形が北から南へ低くなっているため、これに沿ったものが多い。東西方向についても、調査区北側では東から西へ、調査区南側では西から東へ地形が傾斜しているためそれに沿ったものとなる。

屋敷地などの区画溝と推測させるものとして、

- ①-1：SD-09 + SD-23…東西20m以上×南北8m以上
- ①-2：SD-18 + SD-13（またはSD-44） + SD-05（またはSD-04）…東西35～40m×南北20mの長方形
- ②：SD-17…東西15m以上×南北10m以上
- ③：SD-22 + SD-25…東西15m×南北20mの長方形
- ④-1：SD-28-2 + SD-29 + SD-31 + (SK-95、SK-167) + SD-33…東西25m×南北30mの長方形
- ④-2：SD-28 + (SD-29) + SD-30 + (SD-33)…東西25m×南北30mの長方形
- ⑤：SD-34（またはSD-37） + SD-38 + SD-41（またはSD-40）…東西20m以上×南北20mの長方形
- ⑥：SD-45（またはSD-55） + SD-58 + SD-56…東西40m×南北40mの方形

などがあり、方形あるいは長方形に巡っている。これらの多くは中世～近世の溝で、区画内に存在する掘立柱建物などに関連する可能性が高い。また、①や④・⑤は溝の重複が見られ、長い期間の使用が推測される。

SD-63については、幅や深さなどの規模が他と大きく異なり、居館などを区画し防御するための溝と推測される。類例に公文遺跡SD-1や白山Ⅱ遺跡SD-1（注1）などがあり、いずれも多量の灰釉系陶器が出土している。但しSD-63の場合、南側に比べて北側が非常に浅くなっており、防御という点において若干の不安が残る。

注1 豊橋市教育委員会 1988『豊橋市埋蔵文化財調査報告書第8集 公文遺跡（Ⅰ）』

豊橋市教育委員会 2003『豊橋市埋蔵文化財調査報告書第72集 白山Ⅰ・Ⅱ遺跡他』

2. 溝 (第5～9・34・36図)

SD-01 (第7・36図)

調査区北東隅のAB-8・9区で検出されたもので、南北方向にSD-02やSD-03とほぼ並行して直線的に延びているが、ほとんどは調査区外となる。

規模は、幅0.8～1.0m以上、長さは約12.5mを測る。溝の断面は「U」字状と推測され、深さは50cm前後となる。北端と南端との高低差は58cmで、北から南に向かって低くなる。埋土は、灰色砂質土である。出土した遺物には、灰釉系陶器碗・鉢・甕、陶器碗・瓶類、土師器半球形鍋・小皿など（第37図1～9）があり、遺構は17世紀前半のものであろう。

SD-02（第7・36図）

調査区北東隅のAB-8・9区で検出されたもので、北側では溝の端が確認できる。南北方向にSD-01やSD-03とほぼ並行して直線的に延びており、南端ではSD-04と接する。

規模は、幅最大1.1m、最小0.55m、平均0.8mで、長さは約12.5mを測る。溝の断面は皿状から浅い「U」字状で、深さは30cm前後となる。北端と南端との高低差は31cmで、北から南に向かって少しずつ低くなる。埋土は、暗灰色砂質土である。出土した遺物には須恵器片、灰釉系陶器碗、陶器壺・播鉢、土師器焙烙、瓦片などがあり、遺構は18～19世紀のものであろう。

SD-03（第7・36図）

調査区北東隅のAB-8区からAA-8・9区にかけて検出されたもので、南北方向にSD-01やSD-02とほぼ並行して、途中からやや西に向かって延びている。SD-04には切られている。

規模は、幅最大1.0m、最小0.4m、平均0.7mで、長さは約15.5mを測る。溝の断面は浅い「U」字状で、深さは10～15cm程となる。溝底は、両端よりも中央付近が15cm程低くなる。埋土は、灰色砂質土である。出土した遺物は灰釉系陶器小皿片と陶器皿片のみで、遺構の時期ははっきりしないが、切り合い関係から18世紀代のものであろう。

SD-04（第7図）

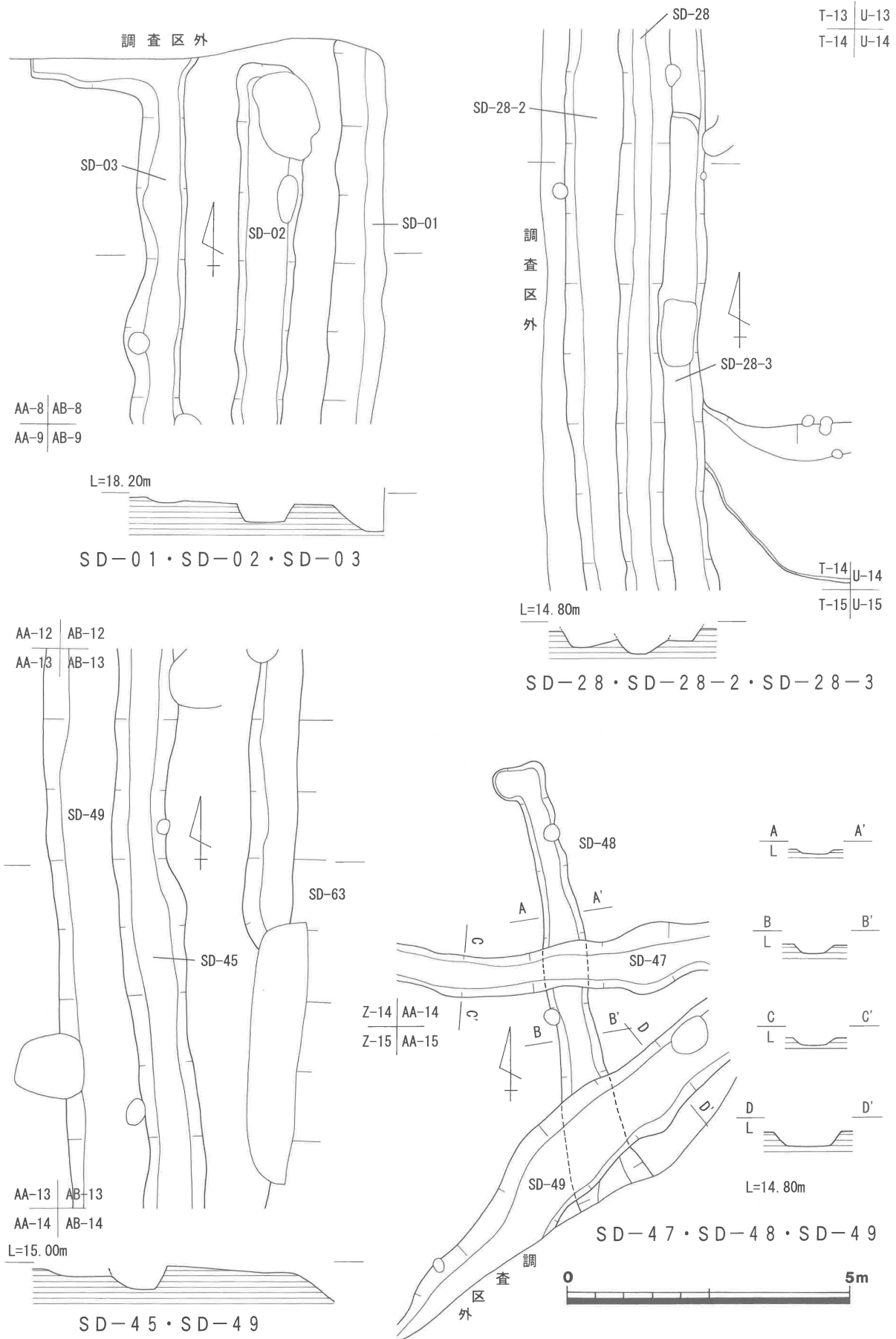
調査区北東隅のZ-8区からAB-9区にかけて検出されたもので、東西方向から南北方向へ、そしてまた東西方向へと屈曲しながら延びている。SD-05と接し、SD-03を切っている。

規模は、幅最大2.1m、最小0.6m、平均0.8mで、長さは約30mを測る。溝の断面は浅い「U」字状で、深さは30cm前後となるが、中央付近では10cm程と浅くなる。北西端と南東端との高低差は100cmを測り、北西から南東に向かって少しずつ低くなる。埋土は、灰色砂質土である。出土した遺物には灰釉系陶器碗、陶器碗・皿・蓋・播鉢・甕、磁器碗、瓦片など（第37図10～16）があり、遺構は19世紀前半のものであろう。

SD-05（第7図）

調査区北東隅のAA-8・9区で検出されたもので、南北方向に緩やかに曲がりながら延びている。SD-04から分岐するようであり、SD-07を切っている。

規模は、幅最大1.5m、最小0.7m、平均1.0mで、長さは約14mを測る。溝の断面は浅い「U」字状で、深さは10～20cm程となる。北端と南端との高低差は23cmを測り、北から南に向かって少しずつ低くなる。埋土は、灰色砂質土である。出土遺物には灰釉系陶器碗、陶器碗・播鉢・德利、磁器碗、土



第36図 遺構実測図-14 (1/100)

師器半球形鍋・焙烙、瓦など（第37図17～22）があり、遺構は19世紀前半であろう。

SD-06（第7図）

調査区北東隅のAA-8・9区で検出されたもので、南北方向に緩やかに曲がりながら延びている。SD-04・05と接するが、前後関係ははっきりしない。

規模は、幅最大0.7m、最小0.4m、平均0.5mで、長さは約4.5mを測る。溝の断面は浅い「U」字状で、深さは8cm前後となる。北端と南端との高低差は11cmで、北から南に向かって少しずつ低くなっている。埋土は、暗灰色砂質土である。出土した遺物は土師器小片のみで、遺構の時期ははっきりしない。

SD-07（第7図）

調査区北東のAB-9区で検出されたもので、東西方向に緩やかに曲がりながら延びている。SD-05に切られている。

規模は、幅最大0.7m、最小0.3m、平均0.4mで、長さは約6.5mを測る。溝の断面は浅い「U」字状で、深さは5～10cm程となる。西端と東端との高低差は24cmで、西から東に向かって少しずつ低くなり、土壇AA-9区SK-32に繋がっているようである。埋土は、暗灰色砂質土である。出土した遺物には灰釉系陶器碗、陶器碗・甕などがあり、遺構は18世紀代のものであろう。

SD-09（第7図）

調査区北端やや東側のX～Z-9区で検出されたもので、東西方向に比較的まっすぐに延びている。溝の西側ではSD-23やSD-15を、また中央付近ではSD-10をそれぞれ切っている。

規模は、幅最大1.2m、最小0.5m、平均0.8mで、長さは約21mを測る。溝の断面は浅い皿状で、深さは5～15cm程となる。東端と西端との高低差は17cmで、東から西に向かって少しずつ低くなる。埋土は、灰色砂質土である。出土した遺物には剥片石器、灰釉系陶器碗・皿、陶器碗、土師器鍋など（第38図23・24）が僅かにある。遺構の切り合いなども考慮して、溝の時期は16世紀以降であろう。

SD-10（第7図）

調査区北端やや東側のY・Z-9区で検出されたもので、SD-09にほぼ沿うように東西方向に延びている。SD-09には切られている。

規模は、幅最大0.4m、最小0.25m、平均0.35mで、長さは約11mを測る。溝の断面は浅い「U」字状で、深さは5～10cm程となる。西端と東端との高低差は6cmで、西から東に向かって少しずつ低くなっており、SD-09とは傾斜が逆になる。埋土は、淡灰色砂質土である。出土した遺物は灰釉系陶器碗・甕など小片が僅かで、遺構の時期は12～15世紀のものであろう。

SD-11（第7図）

調査区北端ほぼ中央のX・Y-8区で検出されたもので、ほぼ東西方向に延びている。

規模は、幅最大1.1m、最小0.6m、平均0.8mで、長さは約9mを測る。溝の断面は浅い皿状で、深さは10～20cm程となる。東端と西端との高低差は19cmで、東から西に向かって少しずつ低くなる。埋土は、暗灰色砂質土である。出土した遺物には陶器小皿、土師器くの字形鍋・半球形鍋・小皿、丸瓦片などがあり、遺構は18～19世紀のものであろう。

SD-12 (第7図)

調査区北端ほぼ中央のW-9区からZ-9区で検出されたもので、東西方向に緩やかに曲がりながら延びている。SD-18やSD-23に切られる。

規模は、幅最大2.5m、最小0.5m、平均0.6mで、長さは約33mを測る。溝の断面は浅い皿状から「U」字状で、深さは10～20cm程となる。東端と西端との高低差は130cmで、東から西に向かって低くなる。埋土は、灰色砂質土や淡灰色砂質土である。出土した遺物には灰釉系陶器碗・鉢、陶器皿・播鉢、土師器半球形鍋・小皿など(第38図25～28)があり、遺構は17世紀代のものであろう。

SD-13 (第6・7図)

調査区北側ほぼ中央のX～Z-9・10区で検出されたもので、SD-09とはほぼ並行するように東西方向に延びている。西端ではSD-18と接する。

規模は、幅最大1.4m、最小0.6m、平均1.1mで、長さは約19mを測る。溝の断面は浅い皿状で、深さは10～20cm程となる。東端と西端との高低差は12cmで、東から西に向かって少しずつ低くなる。埋土は、灰色砂質土である。出土した遺物は須恵器片、陶器碗・皿、土師器鍋などの小片で、遺構は近世と推測される。

SD-15 (第6・7図)

調査区北側ほぼ中央のX・Y-9区で検出されたもので、南北方向に延びた溝が途中で「L」字状に折れ曲がり西に向かって延びている。SD-09やSD-23に切られる。

規模は、幅最大0.8m、最小0.4m、平均0.6mで、長さは約13.5mを測る。溝の断面は浅い「U」字状で、深さは5～8cm程となる。北端と西端との高低差は20cmで、北から西に向かって少しずつ低くなる。埋土は、暗灰色砂質土である。遺物は出土しておらず、遺構の切り合いから溝の時期は16世紀かそれ以前である可能性が高い。

SD-17 (第6図)

調査区北西隅のV・W-7・8区で検出されたもので、南北方向に延びた溝が途中で「L」字状に折れ曲がり西に向かって延びている。SD-19を切っている。

規模は、幅最大1.0m、最小0.4m、平均0.8mで、長さは約21mを測る。溝の断面は比較的しっかりとした「U」字状で、深さは深い北側で40cm程、浅い西側では15cm程となる。北端と西端との高低差は60cmで、北から南そして西に向かって少しずつ低くなる。埋土は、暗灰色砂質土や灰色砂質土であ

る。出土した遺物には須恵器片、灰釉系陶器甕、陶器碗・皿・播鉢・甕、土師器くの字形鍋・半球形鍋・小皿など（第38図29～40）があり、遺構は18世紀代のものであろう。

SD-18（第6図）

調査区北端のW・X-8・9区で検出されたもので、東西方向に伸びた溝が途中で「L」字状に折れ、その後南に向かって緩やかに曲がりながら延びている。途中でSD-12を切っており、南端ではSD-13と接しているが前後関係は明らかではない。

規模は、幅最大1.2m、最小0.6m、平均0.8mで、長さは約31mを測る。溝の断面は比較的しっかりとした「U」字状で、深さは深い北側で40cm程、浅い南側では15cm程となる。溝底は、南北両端に比べて中央付近が25cm程低い。埋土は、暗灰色砂質土である。出土した遺物には灰釉系陶器碗、陶器皿・播鉢・甕、磁器片、土師器内弯形鍋・小皿、硯など（第38図41～44）があり、遺構は19世紀前半のものであろう。

SD-19（第6図）

調査区北西隅のW-8区で検出されたもので、南北方向に直線的に延びている。溝の北側ではSB-02の一部を掘り込んでいる。

規模は、幅最大0.6m、最小0.3m、平均0.5mで、長さは約7.5mを測る。溝の断面は浅い「U」字状で、深さは10cm前後となる。北端と南端との高低差は5cmで、北から南に向かって少しずつ低くなる。埋土は、灰色砂質土である。出土した遺物は土師器羽釜片のみであり、遺構は18世紀以前のものであろう。

SD-20（第6図）

調査区北側ほぼ中央のW・X-8・9区で検出されたもので、北東から南西に向かって延びている。SD-18と接するが前後関係ははっきりしない。

規模は、幅最大1.2m、最小0.3m、平均0.9mで、長さは約12.5mを測る。溝の断面は浅い皿状で、深さは10cm前後となる。北東端と南西端との高低差は57cmで、北東から南西に向かって少しずつ低くなる。埋土は、灰色砂質土である。出土した遺物には陶器碗・甕、磁器碗、土師器半球形鍋・小皿など（第38図45～50）があり、遺構は18世紀後半以降のものであろう。

SD-21（第6図）

調査区北西隅のU・V-9区で検出されたもので、南東から北西方向にやや不明瞭になりながらも延びていた溝が途中で「L」字状に折れ曲がり南西に向かっている。SD-22と接するが前後関係ははっきりしない。

規模は、幅最大0.7m、最小0.25m、平均0.4mで、長さは約8.5mを測る。溝の断面は浅い皿状で、深さは5～10cm程となる。南東端と南西端との高低差は50cmで、南東から北西そして南西に向かっ

球形鍋・小皿などの小片で、遺構は近世のものであろう。

SD-22 (第6図)

調査区北西のU~V-9~11区で検出された「コ」字状に折れ曲がるもので、屋敷地を区画するための溝と推測される。区画は東西約14m、南北17m程の規模となろう。SB-04のほぼ中央を壊して延びている。

規模は、幅最大1.8m、最小0.8m、平均1.2mで、長さは約43mを測る。溝の断面は比較的しっかりした「U」字状で、深さは20~40cm程となる。溝底は北東隅あたりが最も高く、そこから両方向に向かって低くなり、南西端との高低差は100cmを測る。埋土は、円礫混じりの暗灰色砂質土である。出土した遺物には須恵器片、灰釉系陶器碗・皿、陶器碗・播鉢・甕、土師器くの字形鍋・半球形鍋・焙烙・小皿、瓦、石臼など(第38・39図51~68)があり、遺構は17世紀代のものであろう。

SD-23 (第7図)

調査区北側ほぼ中央のX-8・9区で検出されたもので、南北方向に緩やかに曲がりながら延びている。SD-15を切っているが、SD-09には切られている。SD-13との前後関係ははっきりしない。

規模は、幅最大1.1m、最小0.4m、平均0.7mで、長さは約13.5mを測る。溝の断面は浅い「U」字状で、深さは5~15cm程となる。溝底は、南北両端に比べて中央付近が10cm程低くなっている。埋土は、灰色砂質土である。出土した遺物には灰釉系陶器碗・甕、土師器くの字形鍋・小皿などの小片があり、遺構は16世紀代のものであろう。

SD-25 (第6図)

調査区北西のU・V-11区で検出されたもので、東西方向にやや曲がりながら延びている。SD-27を切っている。SD-22とつながっていた可能性もあるが、攪乱などで確認できない。

規模は、幅最大1.4m、最小0.8m、平均1.1mで、長さは約10.5mを測る。溝の断面は浅い「U」字状で、深さは20cm前後となる。溝底は、東西両端に比べて中央付近が20cm程高くなっている。埋土は、灰色砂質土である。遺物は全く出土しておらず、遺構の時期ははっきりしない。

SD-26 (第6図)

調査区西端やや北側のT-11区で検出されたもので、東西方向に延びている。一応溝としたが、細長い土塋と考えることも可能である。

規模は、幅0.6m程で、長さは約3.5mを測る。溝の断面は浅い皿状で、深さは7cm前後となる。西端と東端との高低差は5cmで、西から東に向かって少しずつ低くなる。埋土は、黒灰色砂質土である。出土した遺物は、高台を有した灰釉系陶器碗と土師器小片のみで、遺構は12~14世紀のものであろう。

SD-27 (第6図)

調査区西側ほぼ中央のU-11・12区で検出されたもので、南北方向に比較的まっすぐに延びている。SD-25に切られている。

規模は、幅0.5m前後で、長さは約4.5mを測る。溝の断面は浅い皿状で、深さは10cm前後となる。北端と南端との高低差は20cmで、北から南に向かって少しずつ低くなる。埋土は、暗灰色砂質土である。遺物は全く出土しておらず、遺構の時期ははっきりしない。

SD-28 (第6・8・36図)

調査区の西端を沿うようにT-11~U-17区で検出されたもので、南北方向に比較的まっすぐに延びている。SD-28-2やSD-28-3、2層とした黒灰色砂質土層を掘り込む。SB-11を壊している。

規模は、幅最大1.3m、最小0.8m、平均1.0mで、長さは約55mを測る。溝の断面は「U」字状で、深さは20~50cm程となる。北端と南端との高低差は60cmで、北から南に向かって少しずつ低くなる。埋土は、円礫を含む暗灰色砂質土である。出土した遺物には灰釉系陶器碗・小皿・甕、陶器碗・皿・播鉢・甕、磁器碗、土師器くの字形鍋・半球形鍋・焙烙・小皿、棧瓦、石臼など(第39~41図69~116)があり、多時期に渡っている。遺構は19世紀前半であろう。

SD-28-2 (第6・8・36図)

調査区の西端を沿うようにT-12~15区で検出されたもので、SD-28にほぼ並行して南北方向に延びている。SD-28には切られており、SB-11を壊している。

規模について、幅は一方の肩がSD-28によって全て壊されているためははっきりしないが最大1.0m以上、最小0.6m以上、平均0.8m以上で、長さは約35mを測る。溝の断面は浅い「U」字状と推測され、深さは20cm前後となる。北端と南端との高低差は40cmで、北から南に向かって少しずつ低くなる。埋土は、黒灰色砂質土や暗茶褐色砂質土である。出土した遺物には須恵器坏類、灰釉陶器碗、灰釉系陶器碗・鉢・甕、土師器伊勢型鍋・くの字形鍋・小皿など(第41図117~124)があり、遺構は16世紀代であろう。

SD-28-3 (第8・36図)

調査区の西端を沿うようにT-13~15区で検出されたもので、SD-28にほぼ並行して南北方向に延びている。SD-28には切られており、SB-28を壊している。

規模について、幅は一方の肩がSD-28によって全て壊されているためははっきりしないが平均で0.7m以上となり、長さは約13mを測る。溝底は比較的広く平坦で、深さは10~15cm程となる。北端と南端との高低差は20cmで、北から南に向かって少しずつ低くなる。埋土は、淡灰色砂質土である。出土した遺物には須恵器片、灰釉系陶器碗、古瀬戸瓶子、土師器くの字形鍋・半球形鍋・小皿など(第41図125~129)があり、多時期に渡っている。遺構はSD-28やSD-28-2との関係から16世紀代であろう。

SD-29 (第6図)

調査区西側ほぼ中央のT~V-11・12区で検出されたもので、東西方向に比較的まっすぐに延びている。西端ではSD-28-2を切っており、SD-28やSD-31に切られている。

規模は、幅最大2.1m、最小0.7m、平均1.0mで、長さは約21mを測る。溝の断面は浅い皿字状で、深さは20cm前後となる。東端と西端との高低差は40cmで、東から西に向かって少しずつ低くなっている。埋土は、円礫混じりの暗灰色砂質土である。出土した遺物には灰釉系陶器碗・鉢・甕、陶器碗・皿・播鉢・甕、土師器くの字形鍋・内弯形鍋・小皿など(第42図130~147)があり、遺構は16世紀代のものであろう。

SD-30 (第6・8図)

調査区のやや西側のV・W-12~15区で検出されたもので、南北方向に比較的まっすぐに延びている。北側ではSD-31やSD-45を切っており、南側ではSD-33を切っている。また、SB-32を壊している。

規模は、幅最大1.2m、最小0.6m、平均0.8mで、長さは約35mを測る。溝の断面は「U」字状で、深さは10~30cm程となり、南側に向かうほど浅くなる。北端と南端との高低差は90cmで、北から南に向かって少しずつ低くなる。埋土は、円礫混じりの暗灰色砂質土や淡灰褐色砂質土である。出土した遺物には灰釉系陶器碗・小皿・甕、陶器碗・皿・壺・播鉢・甕、磁器碗、土師器くの字形鍋・半球形鍋・小皿、瓦など(第43図153~197)があり、遺構は19世紀前半のものであろう。

SD-31 (第6図)

調査区のやや西側のV・W-12・13区で検出されたもので、北西から南東に向かって比較的まっすぐに延びている。南側ではSD-30に切られている。

規模は、幅1.1m前後で、長さは約7.5mを測る。溝底は比較的広く平坦で、深さは15~20cm程となる。北西端と南東端との高低差は40cmで、北西から南東に向かって少しずつ低くなる。埋土は、黒灰色砂質土である。出土した遺物には須恵器片、灰釉系陶器碗、陶器壺・播鉢、土師器くの字形鍋・小皿など(第42図148~152)があり、遺構は16世紀代のものであろう。

SD-32 (第44図198・199)

調査区南西のT・U-14・15区で検出されたもので、「S」字状に屈曲しながら西に延びている。SD-28に切られている。SE-03に沿うように延びていることから、これに関連したものと推測される。

規模は、幅0.4~0.5m程で、長さは約14mを測る。溝の断面は浅い皿状で、深さは10cm前後となる。北端と西端との高低差は5cmで、北から西に向かって少しずつ低くなる。埋土は、灰色砂質土である。出土した遺物には須恵器片、灰釉系陶器碗、陶器小皿・甕、土師器くの字形鍋・小皿など(第44図198・199)があり、遺構は15~16世紀のものであろう。

SD-33 (第8図)

調査区南西のT~V-15区で検出されたもので、西から東に向かって比較的まっすぐに伸び、東端でやや北側に曲がる。SD-28やSD-30に切られている。

規模については、幅が0.6~0.7m程と比較的一定で、長さは約22.5mを測る。溝の断面は浅い皿状で、深さは10cm前後となる。西端と東端との高低差は15cmで、西から東に向かって少しずつ低くなる。埋土は、灰色砂質土である。出土した遺物には須恵器片、灰釉系陶器碗、陶器碗・甕、土師器くの字形鍋・半球形鍋・小皿など(第44図200~208)があり、遺構は16世紀代のものであろう。

SD-34 (第8図)

調査区南西のT~W-15区で検出されたもので、SD-33とほぼ並行するように西から東に向かって比較的まっすぐに伸びている。SB-09やSB-34を壊している。

規模については、幅が0.8~1.0m程と比較的一定で、長さは約24mを測る。溝の断面は「U」字状で、深さは20~35cm程となる。西端と東端との高低差は10cmで、西から東に向かって少しずつ低くなる。埋土は、灰色砂質土である。出土した遺物には須恵器片、灰釉系陶器碗・小皿、陶器碗・皿・鉢・播鉢・甕、磁器碗、土師器くの字形鍋・半球形鍋・小皿、砥石など(第45図209~229)があり、遺構は16~17世紀前半のものであろう。

SD-35 (第8図)

調査区西端やや南側のT-15区で検出されたもので、東西方向に比較的まっすぐに伸びている。東端でSD-28と接しているが、前後関係ははっきりしない。

規模は、幅0.3~0.35m程で、長さは約2.7mを測る。溝の断面は箱形状で、深さは10cm前後となる。東端と西端との高低差は6cmで、東から西に向かって少しずつ低くなっている。埋土は、暗灰色砂質土である。出土した遺物には灰釉系陶器・磁器・土師器などの小片があり、遺構は18世紀後半以降のものであろう。

SD-36 (第8図)

調査区西端やや南側のT-15・16区で検出されたもので、SD-35とほぼ並行するように東西方向に伸びている。東端でSD-28と接しているが、前後関係ははっきりしない。

規模は、幅0.3~0.5m程で、長さは約2.5mを測る。溝の断面は「U」字状で、深さは20cm前後となる。溝底はほぼ水平で、埋土は、暗灰色砂質土である。出土した遺物には灰釉系陶器碗、陶器碗、土師器くの字形鍋・半球形鍋などの小片があり、遺構は16世紀以降のものであろう。

SD-37 (第8図)

調査区南西のU・V-15区で検出されたもので、SD-34と溝の肩を接するように並行して東西方向に伸びている。SD-34に切られ、SB-08やSB-09を壊している。

規模は、幅最大1.1m、最小0.6m、平均0.8mで、長さは約17mを測る。溝の断面は浅い皿状で、深さは10～15cm程となる。溝底は、東西両端に比べて中央付近が10cm程高くなっている。埋土は、暗灰色砂質土である。出土した遺物には須恵器片、灰釉系陶器碗・甕、陶器碗・播鉢・甕、土師器くの字形鍋・内弯形鍋・小皿など（第46図230～236）があり、遺構は16世紀代のものであろう。

SD-38（第8図）

調査区南西端のU-16・17区で検出されたもので、SD-28とほぼ並行するように南北方向に延びているが、南端は不明瞭となる。SD-28に切られている。

規模は、幅最大1.1m、最小0.5m、平均0.7mで、長さは約15mを測る。溝の断面は浅い「U」字状で、深さは20cm前後となる。溝底は、ほとんど平坦で高低差は見られない。埋土は、暗灰色砂質土である。出土した遺物には須恵器片、灰釉系陶器碗・甕、陶器皿・播鉢・甕、土師器くの字形鍋・半球形鍋・小皿など（第46図237～240）があり、遺構は16世紀末～17世紀初頭のものであろう。

SD-40（第8図）

調査区南西端のU・V-17区で検出されたもので、東西方向に延びているが、細長い土壇となる可能性も考えられる。

規模については、幅が0.8～1.0m程で、長さは約7.5mを測る。溝の断面は浅い皿状となり、深さは5cm前後となる。東端と西端との高低差は15cmで、東から西に向かって少しずつ低くなる。埋土は、淡茶褐色砂質土である。出土した遺物には灰釉系陶器片、陶器播鉢、青磁碗、土師器くの字形鍋・半球形鍋・小皿など（第46図241～243）があり、遺構は16世紀以降のものであろう。

SD-41（第8図）

調査区南西端のU・V-17区で検出されたもので、SD-40にほぼ並行するように東西方向に比較的まっすぐに延びている。

規模については、幅が0.4～0.7m程で、長さは約14mを測る。溝の断面は浅い皿状で、深さは10cm前後となる。東端と西端との高低差は8cmで、東から西に向かって少しずつ低くなる。埋土は、淡茶褐色砂質土である。出土した遺物には灰釉系陶器碗・甕、土師器内弯形鍋・半球形鍋・小皿など（第46図244～246）があり、遺構は16世紀代のものであろう。

SD-44（第7図）

調査区北側ほぼ中央のX～Z-10区で検出されたもので、SD-13とほぼ並行するように東西方向に延びている。

規模は、幅最大1.6m、最小0.7m、平均1.1mで、長さは約16.5mを測る。溝の断面は浅い「U」字状で、深さは20cm前後となる。西端と東端との高低差は7cmで、西から東に向かって少しずつ低くなる。埋土は、淡茶褐色砂質土である。出土した遺物には灰釉系陶器片、陶器碗、磁器碗、土師器鍋、瓦などの小片があり、遺構は18世紀後半以降のものであろう。

SD-45 (第6～9・36図)

調査区ほぼ中央のW～AA-11～15区で検出されたもので、所々で屈折しながら全体的には方形に近い形で巡っている。特にX～AA-11区付近の東西方向に伸びている部分では、高低差2m前後となる崖状の部分に沿うように溝が掘られており、何かを区画している可能性が考えられる。なお、西端ではSD-30に切られている。また西側ではSD-55を、東側ではSD-49をそれぞれ掘り直すように並んで伸びている。更に南端では溝は2条に分かれており、何回か掘り直しが行われているようである。

規模については、幅が0.8～1.2m程と比較的一定で、長さは約85mを測る。溝の断面は「U」字状で、深さは20～40cm程となる。溝底は北側のZ-11区あたりが最も高く、両端に向かって低くなり、西端で70cm程低く、南端では100cm程低くなる。埋土は、礫混じりの灰色砂質土や淡灰色砂質土である。出土した遺物には須恵器片、灰釉系陶器碗・小皿・甕、陶器碗・皿・壺・播鉢・甕、磁器碗・皿、土師器くの字形鍋・半球形鍋・小皿、丸瓦・平瓦など(第47～49図280～330)があり、遺構は18世紀後半～19世紀前半のものであろう。

SD-47 (第9・36図)

調査区南東端のZ・AA-14区で検出されたもので、東西方向に比較的まっすぐに伸びている。SD-49に切れ、SE-05にも壊されている。

規模は、幅最大1.2m、最小0.5m、平均0.8mで、長さは約12mを測る。溝の断面は「U」字状で、深さは15cm前後となる。溝底は、東西両端に比べて中央付近が5cm程高くなっている。埋土は、暗灰色砂質土である。出土した遺物には須恵器片、灰釉系陶器碗・小皿・甕、土師器伊勢型鍋・小皿などの小片があり、遺構は13世紀を前後する時期のものであろう。

SD-48 (第9・36図)

調査区南東端のAA-14・15区で検出されたもので、北から南に向かって比較的まっすぐに伸びている。SD-47やSD-49に切られている。

規模は、幅最大1.4m、最小0.5m、平均0.7mで、長さは約8mを測る。溝の断面は浅い皿状で、深さは5～15cm程となる。北端と南端との高低差は56cmで、北から南に向かって少しずつ低くなる。埋土は、暗灰色砂質土である。出土した遺物には須恵器無台坏・有台坏・甕、灰釉陶器碗・壺、土師器甕など(第47図273～279)があり、遺構は9世紀前半のものであろう。

SD-49 (第7・9・36図)

調査区東側のAA・AB-11～15区で検出されたもので、北から南に向かってSD-45に沿うように伸び、途中からは西にややそれていく。SD-47やSD-48を切り、SD-45には切られる。

規模については、幅が1.3～1.5m程と比較的一定で、長さは約45mを測る。溝底は比較的広く平坦で、深さは20～30cm程となる。北端と南端との高低差は80cmで、北から南に向かって少しずつ低くな

る。埋土は、灰色砂質土である。出土した遺物には灰釉系陶器碗・甕、陶器甕、土師器くの字形鍋・小皿、銅製品など（第49図331～333）があり、遺構は16世紀代のものであろう。

SD-51（第9図）

調査区西側中央のU-14区で検出されたもので、東から西に向かって緩やかに曲がりながら延び、T-14区SK-55と接する。また、SD-32と同じようにSE-03に沿って曲がっていることから、これに関連する可能性がある。

規模については、幅が0.4～0.5m程で、長さは約4.5mを測る。溝の断面は浅い皿状で、深さは5～15cm程となる。東端と西端との高低差は18cmで、東から西に向かって少しずつ低くなる。埋土は、灰色砂質土である。出土した遺物には土師器くの字形鍋・半球形鍋・小皿などの小片があり、遺構は16世紀代のものであろう。

SD-53（第9図）

調査区南東のZ-14・15区で検出されたもので、北から南に向かって比較的まっすぐに延びている。SD-47を切っている。

規模は、幅最大0.75m、最小0.35m、平均0.6mで、長さは約8mを測る。溝底は比較的広く平坦で、深さは5～10cm程となる。北端と南端との高低差は13cmで、北から南に向かって少しずつ低くなる。埋土は、淡茶褐色砂土である。出土した遺物には灰釉系陶器碗・甕、土師器小皿などの小片があり、遺構は13世紀以降のものであろう。

SD-54（第9図）

調査区南東隅のZ-15区で検出されたもので、北西から南東に向かって比較的まっすぐに延びている。SE-04に切られている。

規模については、幅が0.2～0.4m程と比較的一定で、長さは約4mを測る。溝の断面は「U」字状で、深さは10cm前後となる。北西端と南東端との高低差は3cmで、北西から南東に向かって少しずつ低くなる。埋土は、灰色砂質土である。出土した遺物は磁器碗と土師器鍋の小片だけで、遺構は18世紀後半以降のものであろう。

SD-55（第6・8図）

調査区中央やや南寄りのW・X-12・13区で検出されたもので、SD-45に沿うように北から南に向かって比較的まっすぐに延び、途中でSD-45と同じように西に折れ曲がる。SD-45には切られ、SD-56を切る。

規模については、幅が1.8～2.0m程と比較的一定で、長さは約12.5mを測る。溝底は比較的広く平坦で、深さは30～40cm程となる。北端と西端との高低差は30cmで、北から南そして西に向かって少しずつ低くなる。埋土は、灰色砂質土である。出土した遺物には灰釉系陶器碗、陶器碗・皿・鉢・甕、磁器碗、土師器くの字形鍋・半球形鍋・小皿、瓦など（第46図253～261）があり、遺構は18世紀後半

以降のものであろう。

SD-56 (第8図)

調査区中央やや南寄りのW-13・14区で検出されたもので、北から南に向かって比較的まっすぐに延びている。北端はSD-55に切られ、SB-24を壊している。

規模は、幅最大0.9m、最小0.5m、平均0.6mで、長さは約11.5mを測る。溝の断面は浅い「U」字状で、深さは10cm前後となる。北端と南端との高低差は22cmで、北から南に向かって少しずつ低くなる。埋土は、灰色砂質土である。出土した遺物には灰釉系陶器碗・甕、陶器播鉢・甕、磁器碗、土師器鍋・小皿など(第46図262~264)があり、遺構は18世紀後半のものであろう。

SD-58 (第8・9図)

調査区南端ほぼ中央のW~Z-15区で検出されたもので、西から東に向かって比較的まっすぐに延びている。西側の溝は広く深く、東側では狭く浅いため、別々の溝であった可能性もある。西側ではSB-27を壊している。

規模については、西側では幅が1.9~2.2mと比較的一定で、深さは10~20cm程、長さは約9.5mを測る。東側では幅が0.4~1.1mとあまり一定せず、深さは5~10cm程、長さは約20mを測る。溝の断面はいずれも浅い皿状で、西端と東端との高低差は26cmで、西から東に向かって少しずつ低くなる。埋土は、灰色砂質土や暗茶褐色砂質土である。出土した遺物には灰釉系陶器碗・小皿、陶器碗・皿・播鉢・甕、磁器碗、土師器くの字形鍋・半球形鍋・小皿、石臼、砥石など(第47図265~272)があり、遺構は18世紀後半以降のものであろう。

SD-59 (第7図)

調査区中央やや北寄りのZ-10・11区で検出されたもので、北から南に向かって比較的まっすぐに延びている。

規模は、幅最大1.0m、最小0.3m、平均0.8mで、長さは約7mを測る。溝の断面は浅い「U」字状で、深さは10cm前後となる。北端と南端との高低差は68cmで、北から南に向かって少しずつ低くなる。埋土は、暗灰色砂質土である。出土した遺物には須恵器坏類・甕、灰釉陶器碗、土師器小片など(第46図247)があり、遺構は9世紀後半のものであろう。

SD-60 (第7図)

調査区東側ほぼ中央のZ・AA-11区で検出されたもので、西から東に向かって緩やかに曲がりながら延びている。SD-61と接している。

規模については、幅が0.35~0.55m程と比較的一定で、長さは約8.5mを測る。溝の断面は浅い「U」字状で、深さは10~20cm程となる。西端と東端との高低差は22cmで、西から東に向かって少しずつ低くなる。埋土は、淡灰褐色砂質土である。遺物が全く出土していないため、遺構の時期についてははっきりしない。

SD-61 (第7図)

調査区東側ほぼ中央のAA・AB-10・11区で検出されたもので、溝の両端がいずれも南東を向いた平面形が「U」字状となる。SD-60と接している。

規模については、幅が中央部分でかなり広く3.5m程、狭い両端では0.4m程となり、長さは約18mを測る。溝の断面は浅い「U」字状で、深さは20～30cm程となる。溝底は中央部分が両端に比べて35～50cm程高くなっている。埋土は、淡灰褐色砂質土である。出土した遺物には灰釉系陶器碗・小皿・甕、陶器碗・皿・壺・鉢・甕、磁器皿、土師器焙烙・小皿など(第46図248～252)があり、遺構は18世紀後半以降のものであろう。

SD-63 (第7・9・34図)

調査区東端のAB-11～14区で検出されたもので、南北方向に比較的まっすぐ延びている。SD-45に切られている。検出前からこの溝は南側の深い部分で1m程窪んでおり、埋没した後も地境的な機能を有していたようである。

規模については、幅が北端で最小3.5m、南端では最大6.5mで、長さは約33mを測る。溝の断面は「U」あるいは「V」字状で、溝底にはやや平坦となる部分がある。深さは浅い部分で50～80cm程、最も深い部分では2.8mとなる。北端と南端との高低差は3.2mで、北から南に向かって低くなる。埋土は、上層に腐植土や暗灰色砂質土など、下層には黒灰色砂質土などが見られる。出土した遺物には須恵器片、灰釉系陶器碗・小皿・壺・片口鉢・甕、土師器碗・皿・羽釜など(第50～52図334～402)が多量に出土しており、遺構は13世紀後半のものであろう。

この溝は、その規模や多量に廃棄された遺物から居館などを区画する防御的な堀とも推測されるが、北側では非常に浅くなっているため、その性格ははっきりしない。

SD-64 (第7図)

調査区東端ほぼ中央のAB-10・11区で検出されたもので、南北方向に比較的まっすぐ延びている。SD-63に切られている。

規模については、幅が1.3m程で、長さは約6.5mを測る。溝の断面は「U」字状で、深さは30～40cm程となる。北端と南端との高低差は15cmで、北から南に向かって少しずつ低くなる。埋土は、暗灰色砂質土である。出土した遺物には須恵器片、灰釉系陶器碗・小碗・甕、土師器片など(第52図403～405)があり、遺構は12世紀後半のものであろう。

3. 溝出土の遺物 (第37～52図、第3表)**SD-01** (1～9)

1～4は陶器である。1は碗で、底部回転ヘラケズリ後、高台を貼り付けている。高台部を除いて灰釉が掛かる。また、内面に鉄絵が見られる。2は丸碗で、口縁部は内弯気味に立ち上がり端部は丸く収める。高台部は削り出し。内外面鉄釉で、高台付近は化粧掛け。3は天目茶碗で、口縁端部付近

を小さく屈曲させる。内外面回転ナデで、鉄釉が掛かる。4は瓶類で、高台部は削り出し。外面全体に灰釉が掛かるが、内面には見られない。1～4は17世紀前半のもの（注1）であろう。

5～9は灰釉系陶器である。5は無高台の碗で、底部は平坦で口縁部は外上方へ開く。底部外面糸切り、これ以外は回転ナデ。6は小皿で、底部は平坦で口縁部は小さく立ち上がる。底部外面糸切り後ナデ、これ以外は回転ナデによる調整。7・8は片口鉢で、底部は平坦で比較的しっかりした高台が付く（8）。口縁部は外反気味に開き、端部はやや厚く沈線を巡らすようになる（7）。体部外面下半回転ヘラケズリ、これ以外は回転ナデによる調整。9は壺と考えられ、底部は平坦で体部は外上方へ直線的に伸びている。体部外面は回転ヘラケズリ、内面回転ナデ・一部不定ナデ、底部外面は未調整で、作りや胎土は粗い。これらは、13～14世紀のものであろう。

SD-04 (10～16)

10～14は陶器、15は磁器である。10は小坏で、底部は平坦となる。体部外面下半回転ヘラケズリ、これ以外は回転ナデ。底部以外に鉄釉が掛かる。11は鬚盥で、口縁部は垂直に立ち上がる。底部外面には布目痕が見られ、ここ以外に灰釉が掛かる。12は灯明受皿で、底部外面は回転ヘラケズリで、ここ以外に錆釉が掛かる。13は土瓶の蓋と考えられ、天井部外面に鉄釉が掛かる。14は常滑窯産と考えられる鉢で、底部は平坦で口縁部を内側に屈曲させ端部を丸く収める。底部外面未調整、体部外面に板ナデ、これ以外は回転ナデ。15は染付広東碗で、高台部は削り出し。口縁部は内弯気味に伸び端部は丸く収める。16は砥石で、全面に使用した痕が認められる。これらは、15が19世紀前半、これ以外は18世紀代のものであろう。

SD-05 (17～22)

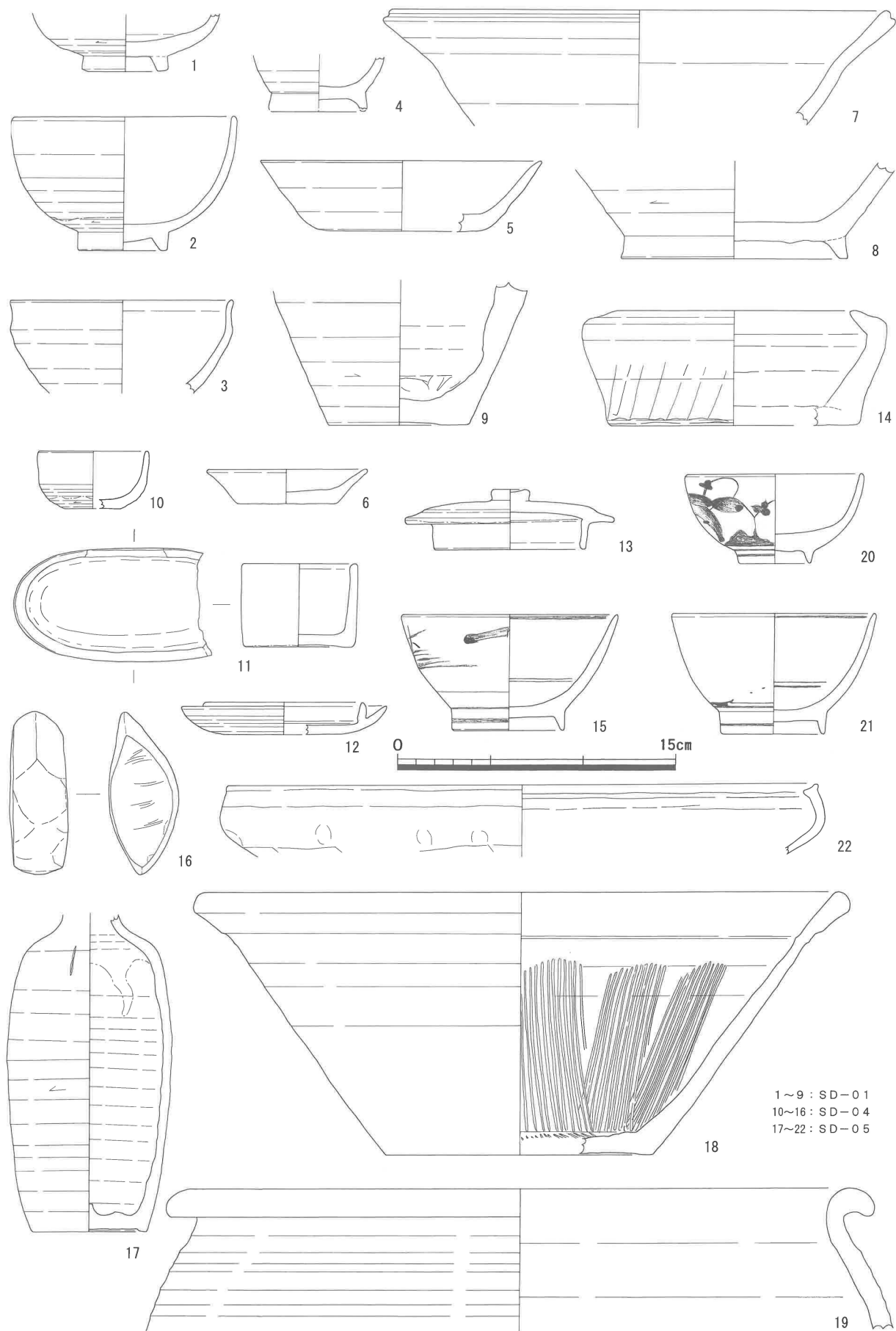
17～19は陶器、20・21は磁器である。17は灰釉徳利で、体部はやや中膨らみの筒状となる。18は挿鉢で、体部は外上方へ大きく開き、端部は肥厚して丸く収める。底部外面は糸切りである。19は練鉢で、体部はやや胴張りで、口縁端部は大きく外反して丸く収める。内外面回転ナデで、鉄釉が掛かる。20は染付丸碗で、高台部は削り出し。21は染付広東碗。高台部を垂直気味に削り出す。22は土師器焙烙で、口縁部は内側に屈曲し、端部は内傾した面となる。口縁端部ヨコナデ、体部外面にはヘラケズリが見られる。これらは、19世紀前半のものであろう。

SD-09 (23・24)

23は灰釉系陶器碗で、高台部は比較的しっかり作られ、接地面に砂粒痕が見られる。13世紀代のものであろう。24は流紋岩質凝灰岩製と推測される縦長剥片で、刃部に使用痕と考えられる剥離が見られる。旧石器時代のものであろう。

SD-12 (25～28)

25は陶器端反皿で、口縁部を大きく外反させ端部は丸く収める。底部以外に灰釉が掛かる。26～28は土師器である。26は小皿で、口縁部は内弯気味に立ち上がる。内面ナデ、外面ナデ・指押さえによ



第37図 出土遺物実測図一13 (1 / 3)

る調整。27は皿で、口縁部は外反気味となる。口縁部ヨコナデ、これ以外はナデである。28は半球形鍋で、口縁部は内弯気味に立ち上がり端部は平坦面となる。口縁端部ヨコナデ、体部内面板ナデ、外面ナデ・指押さえで外面には煤が付着する。これらは、17世紀代のものであろう。

SD-17 (29~40)

29~35は陶器である。29・30は天目茶碗で、口縁端部は小さく屈曲させる。内外面鉄釉で、高台付近は29が露胎、30は化粧掛けとなる。31・32は碗の高台部で、31は内反り高台となる。内外面鉄釉、高台付近はいずれも露胎。33は志野丸皿で、口縁部は短く立ち上がる。高台部は削り込み。34は徳利で、体部外面は回転ヘラケズリ、口縁部及び内面は回転ナデで、灰釉が掛かる。35は播鉢で、口縁部は外上方に直線的に伸び、端部はやや肥厚して外傾面となる。内外面に錆釉。34・35は18世紀代で、それ以外は17世紀代のものであろう。

36~40は土師器である。36・37は小皿で、口縁部は小さく立ち上がる。内面ナデ、外面ナデ・指押さえ。38は茶釜形鍋の体部で、鋳部は水平に張り出す。鋳部ヨコナデ、これ以外はナデによる調整。39はくの字形鍋で、口縁部の屈曲は緩く、垂直気味に立ち上がる。40は半球形鍋で、口縁部はやや内傾する。口縁端部ヨコナデ、これ以外はナデ・指押さえ。これらは、17世紀代のものであろう。

SD-18 (41~44)

41・42は陶器である。41は筒形香炉で、高台部は削り込み。高台付近を除いて鉄釉が掛かる。42は播鉢で、底部外面は糸切り。内外面に鉄釉が掛かる。これらは、19世紀前半のものであろう。

43・44は土師器である。43は小皿で、口縁部は小さく立ち上がる。内面ナデ、外面ナデ・指押さえによる調整。44は内弯形鍋で、頸部は僅かに屈曲し外面に沈線を巡らす。口縁部は垂直気味で、端部は面となる。口縁端部ヨコナデ、これ以外はナデ・板ナデによる調整。外面には煤が付着する。これらは、16世紀代のものであろう。

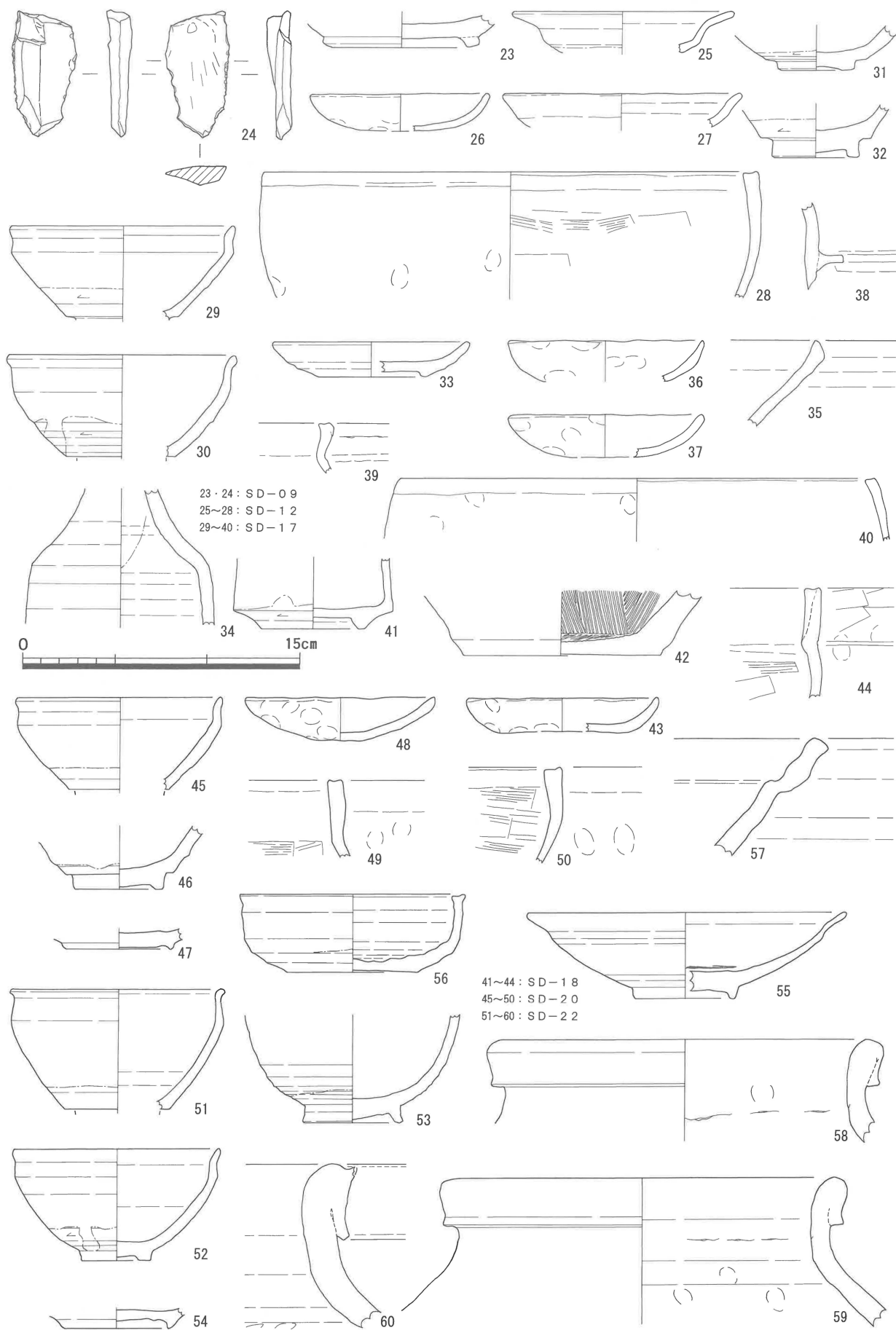
SD-20 (45~50)

45~47は陶器である。45は天目茶碗で、46もその高台部と考えられる。口縁部は外上方へ直線的に開き、端部は緩やかに屈曲させる。内外面に鉄釉が掛かり、高台付近は化粧掛けである。47は丸皿と考えられ、高台は小さく削り出す。全面に灰釉が掛かる。これらは16世紀後半のものであろう。

48~50は土師器である。48は小皿で、底部は小さく口縁部は直線的に立ち上がる。内面ナデ、外面ナデ・指押さえ。49は内弯形鍋で、口縁部は垂直気味で端部は面となる。口縁端部ヨコナデ、体部内面板ナデ。外面はナデで、煤が付着する。50は半球形鍋で、口縁部は内弯気味で端部は面となる。口縁端部ヨコナデ、内面板ナデ、外面ナデ・指押さえ。16世紀代のものであろう。

SD-22 (51~68)

51~61は陶器である。51・52は天目茶碗で、口縁部は内弯気味で端部は小さく屈曲する。内外面に鉄釉が掛かり、高台付近は51が露胎、52は化粧掛け。53は丸碗と考えられ、口縁部は内弯気味に伸び



第38図 出土遺物実測図-14 (1/3)

る。内外面鉄釉で、高台付近は化粧掛け。54は皿で、高台部削り出し。内外面に灰釉が掛かる。55は輪壳皿で、口縁端部を緩やかに屈曲させる。内外面灰釉で、内面には鉄釉も見られる。高台内側は露胎。56は香炉と考えられ、底部は平坦で口縁端部は面となる。底部外面糸切り、内外面回転ナデによる調整。口縁部外面に鉄釉が掛かる。58～61は常滑窯産と考えられる。58・59は広口壺で、口縁端部は玉縁口縁で小さく折り返して丸く収める。60は甕で、口縁端部を大きく折り返して外側に大きな面をなす。61は壺と考えられ、しっかりとした高台は貼り付けによる。58～60は16世紀前半、他は17世紀代のものであろう。

62～66は土師器である。62・63は皿で、底部は平坦で口縁部は短く立ち上がる。口縁部ヨコナデ、これ以外はナデ・指押さえ。64・65はくの字形鍋で、64の頸部は緩やかに屈曲し、端部は丸くなる。66は半球形鍋で、端部は面となる。口縁端部ヨコナデ、これ以外はナデ・指押さえ。外面に煤が付着する。これらは、16～17世紀のものであろう。

67は灰釉系陶器碗で、しっかりとした高台が付く。68は同小皿で、口縁部は外上方へ開く。これらは、13～14世紀のもので混入であらう。

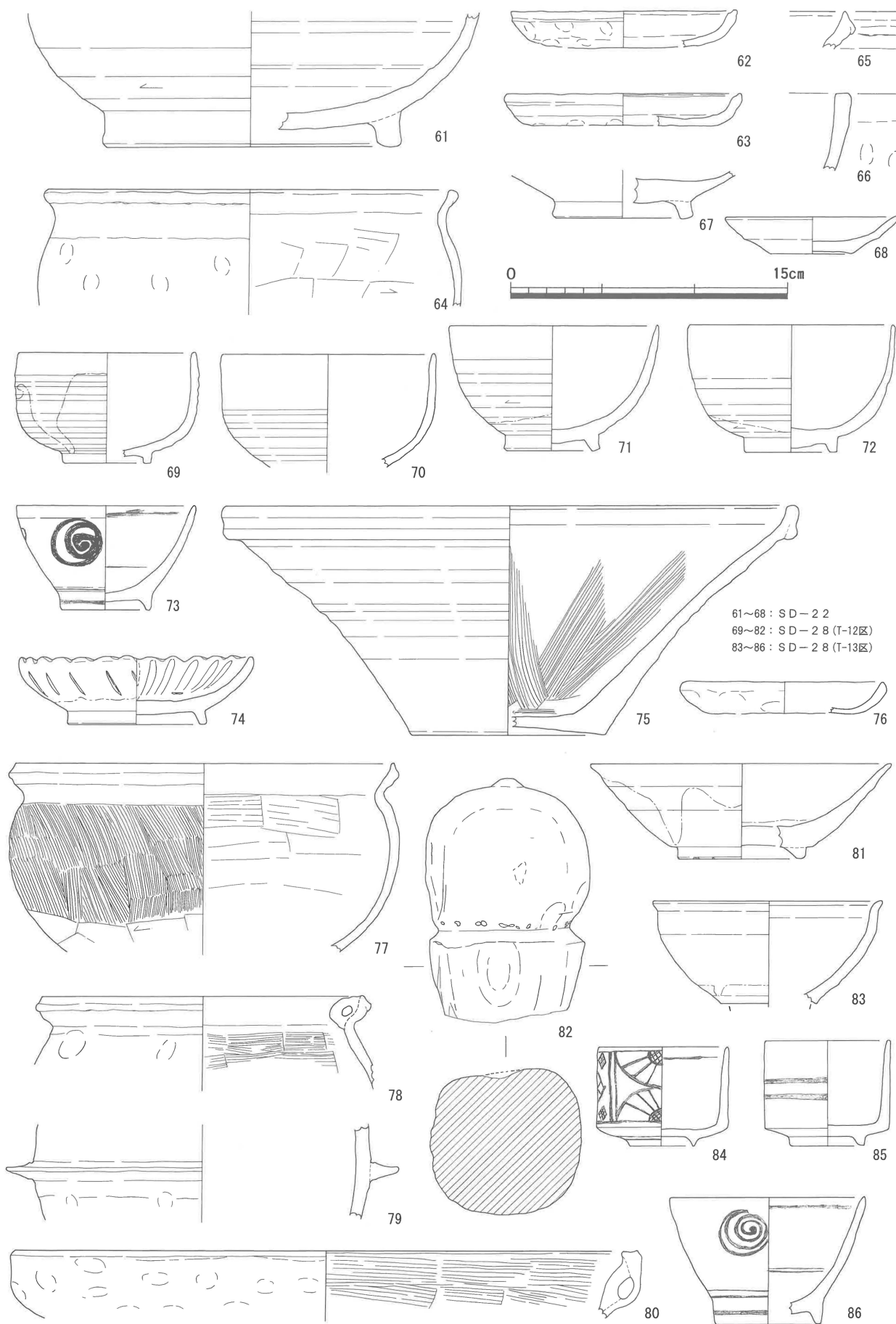
SD-28 (69～116)

69～75は陶器である。69・70は掛け分け丸碗で、緩やかに立ち上がった口縁部は垂直気味に伸びる。内面に灰釉、外面には鉄釉が掛かる。71・72は鉄釉丸碗で、緩やかに立ち上がった口縁部は垂直気味に伸びる。高台付近は71が露胎、72は化粧掛けである。73は染付広東碗で、高台部は比較的低く削り出す。74は菊皿で、高台付近を除いて灰釉が掛かる。内面にはトチン痕が見られる。75は播鉢で、口縁部は外反気味に立ち上がり、端部は外側に折り返す。播り目は比較的細かい。73は19世紀前半、他は17世紀後半のものであろう。

76～80は土師器である。76は小皿で、口縁部は小さく立ち上がる。内面ナデ、外面ナデ・指押さえによる調整。また、内面に煤が付着している。77・78はくの字形鍋で、頸部はしっかりと屈曲する。口縁部ヨコナデ、体部内面板ナデ、外面はハケメ・ヘラケズリ(77)やナデ(78)である。79は茶釜形鍋の体部片で、鏝部は水平に短く伸びる。鏝部がヨコナデ、これ以外は丁寧なナデである。80は焙烙で、口縁部は僅かに立ち上がり端部は広い平坦面となる。口縁端部ヨコナデ、内面板ナデ、外面ナデ・指押さえによる調整。これら土師器は、16世紀代のものであろう。

81は灰釉系陶器碗で、口縁部は外上方へ開く。高台には靱殻痕が見られ、口縁部には灰釉が掛かる。12世紀代のものであろう。82は石塔で、空輪と風輪が一体となる空風輪で、風輪の一部や下端のほぞが欠損している。凝灰質砂岩製である。空輪部は高さ8.2cm、径9.0cmの大きさとなる。

83～93は陶器である。83は天目茶碗で、口縁部は内弯気味に立ち上がり端部を小さく外方に曲げる。内外面鉄釉で、高台付近は化粧掛け。84・85は、染付箱形湯呑で、高台部はいずれも削り出し。86は染付広東碗で、高台部はやや高く削り出している。87は筒形香炉で、底部には脚が三方に付く。体部外面のみに鉄釉が掛かる。88は志野菊皿で、高台部は低く削り出している。全面に釉が掛かる。89は徳利で、口縁端部は帯状に厚くしている。90は乗燭で、底部は回転糸切り。内面には鉄釉が掛かるが、剥落が著しい。91は播鉢で、口縁部は直線的に外上方へ伸び、端部は緩やかな面となる。内面に「〇」



第39图 出土遺物実測図-15 (1 / 3)

のみの刻印が見られる。また、底部は使用による摩耗が著しい。92は常滑窯産広口壺で、口縁端部を小さく折り返して玉縁状とする。93は同甕で、口縁端部は大きく折返し面となる。87は18世紀代、88は16世紀末、92は15世紀後半、これ以外は19世紀前半を中心とするものであろう。

94～96は土師器である。94は小皿で、口縁端部をヨコナデしている。95は茶釜形鍋で、口縁部は小さく立ち上がり端部は面となる。口縁部ヨコナデで、頸部には沈線が巡る。体部内面板ナデ、外面ナデ・指押さえ。96は半球形鍋で、体部は比較的浅くなると推測され、口縁端部は面となる。95・96は17世紀代のものであろう。

97は灰釉系陶器小皿で、口縁部は短く立ち上がり、端部は丸く収める。13世紀代のものであろう。98は白磁碗で、口縁端部は折り返して玉縁状となる。中国製磁器で12世紀代のものであろう。

99～102は陶器である。99は天目茶碗で、口縁部は外上方へ直線的に伸び端部を垂直気味に曲げる。内外面鉄釉で、高台付近は錆釉の化粧掛け。100は天目茶碗で、口縁端部を僅かに屈曲させる。内外面に鉄釉。101は常滑窯産広口壺で、口縁端部を小さく折り返して玉縁状とする。102は常滑窯産甕で、口縁端部は受け口状に屈曲する。102は14世紀後半、これ以外は16世紀代のものであろう。

103は土師器半球形鍋で、口縁部は内弯気味で端部は面となる。口縁端部ヨコナデ、体部内面板ナデ、外面ナデ・指押さえである。104は土錘で、ナデ・指押さえによる成形。105は須恵器甕で、口縁部外面には波状文が施されており、古墳時代後期のものと考えられる。

106は陶器丸碗で、高台部は削り出し。内外面灰釉で、高台付近は露胎。18世紀代のものであろう。107は土師器くの字形鍋で、頸部の屈曲は弱い。口縁部ヨコナデ、体部内面板ナデ、外面ハケメ。16世紀代のものであろう。

108は須恵器甕で、口縁部外面に稜が巡る。7世紀代のものであろう。109は灰釉系陶器小皿で、口縁部は小さく立ち上がる。110は同甕で、口縁部は大きく外反し端部は丸く収める。口縁部から外面には灰釉が掛かる。これらは、13世紀代のものであろう。

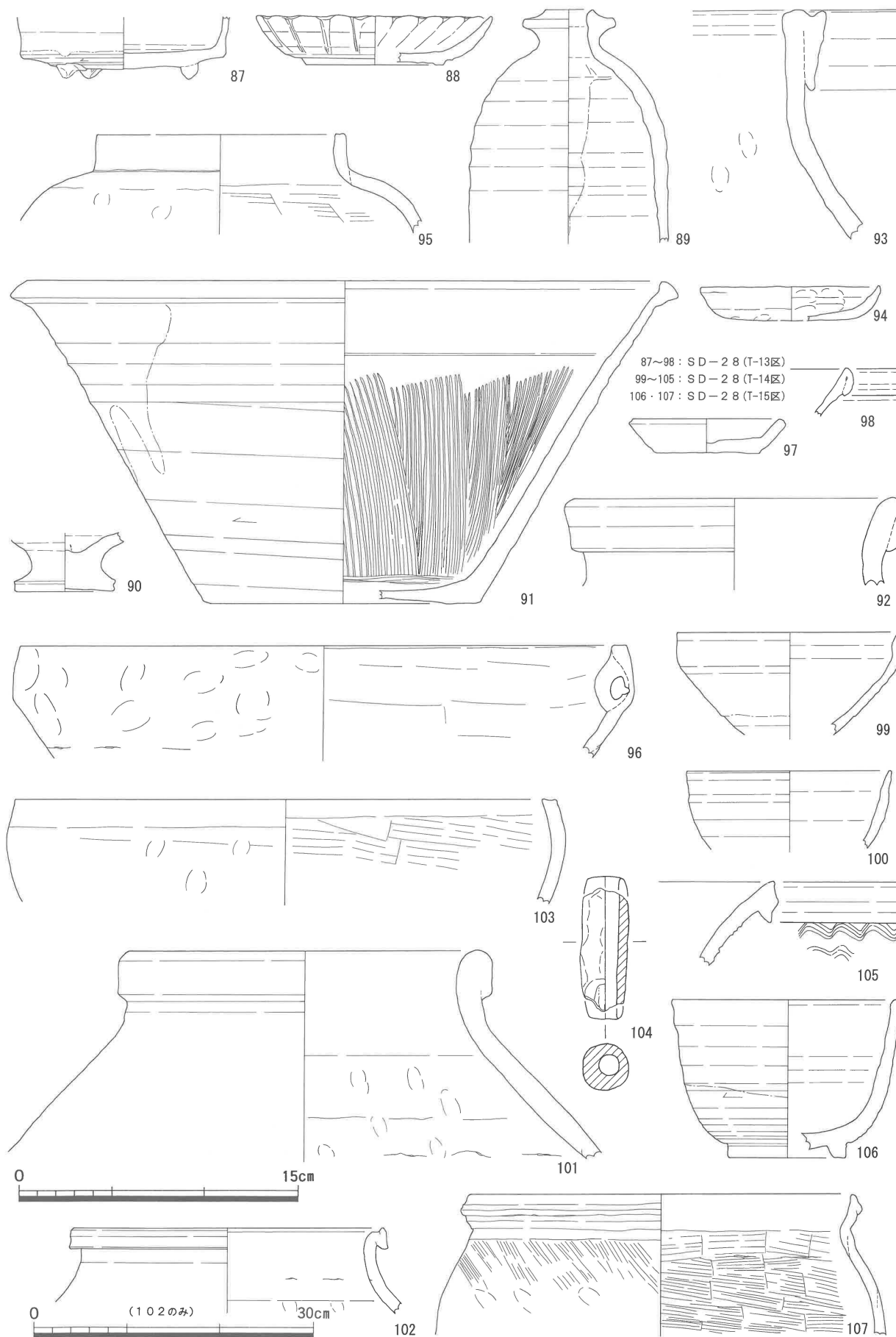
111は陶器有耳壺で、口縁部は短く端部は丸味を帯びた面となる。口縁部から外面に掛けて鉄釉が掛かる。18世紀代のものであろう。112は土師器半球形鍋で、口縁部は内弯し端部は内傾した面となる。113は土錘で、ナデ・指押さえによる成形。

114は常滑窯産甕で、体部は外反気味に開く。115は土師器くの字形鍋で、頸部の屈曲は弱く、体部は直線的で口縁部は垂直気味に伸びる。口縁部ヨコナデ、体部内面ナデ、体部外面ナデ・指押さえ。16世紀代のものであろう。116は磨製石斧で、刃部の一部を欠いている。刃部近くが研磨され、基部には敲打痕が見られる。弥生時代のものであろう。

SD-28-2 (117～124)

117は古瀬戸縁釉小皿で、口縁部は小さく立ち上がり端部はやや肥厚して丸く収める。底部外面回転系切り。古瀬戸後期のものであろう。118～120は灰釉系陶器碗で、118・119は有高台となる。120は無高台で、底部外面は系切り後ナデ調整である。これらは、13～14世紀のものであろう。121は須恵器鉄鉢で、口縁部は内弯気味で、端部はやや尖る。8世紀代のものであろう。

122・123は土師器くの字形鍋で、頸部は大きく屈曲して口縁部は受け口状になる。口縁部ヨコナデ、



第40図 出土遺物実測図-16 (1/3・1/6)

体部外面ハケメ・ナデ、内面板ナデ・ナデである。124は同半球形鍋で、口縁部は垂直気味で端部は面となる。頸部に沈線が巡る。口縁端部ヨコナデ、内面板ナデ、外面ナデ・指押さえである。これらは、16世紀代のものであろう。

SD-28-3 (125~129)

125・126は古瀬戸である。125は縁釉小皿で、口縁部は内弯気味で端部は丸く収める。古瀬戸後期のものであろう。126は瓶子で、底部は糸切り後ヘラによる調整。体部外面回転ヘラケズリ後ナデ、内面回転ナデ。外面に灰釉が掛かる。

127~129は土師器である。127は皿で、口縁部ヨコナデ、内面ナデ、外面ナデ・指押さえによる調整。128は半球形鍋で、口縁部は垂直気味で端部は面となる。頸部に沈線が巡る。口縁端部ヨコナデ、内面板ナデ、外面ナデ・指押さえである。129はくの字形鍋で、頸部は大きく屈曲し口縁端部は鋭くなる。口縁部ヨコナデ、体部外面ハケメ・ナデ、内面板ナデ・ナデである。これら土師器は、16世紀代のものであろう。

SD-29 (130~147)

130~132は陶器である。130は志野丸皿で、内外面に釉が掛かる。131は播鉢で端部は上下に伸びた面となる。132は甕と考えられ、口縁部は筒状に伸び端部は僅かに内側に摘み上げるようになる。内外面回転ナデによる調整。133は白磁皿で、口縁部は外反気味に開く。内面には陰刻文。中国製と考えられる。これらは、16世紀代のものであろう。

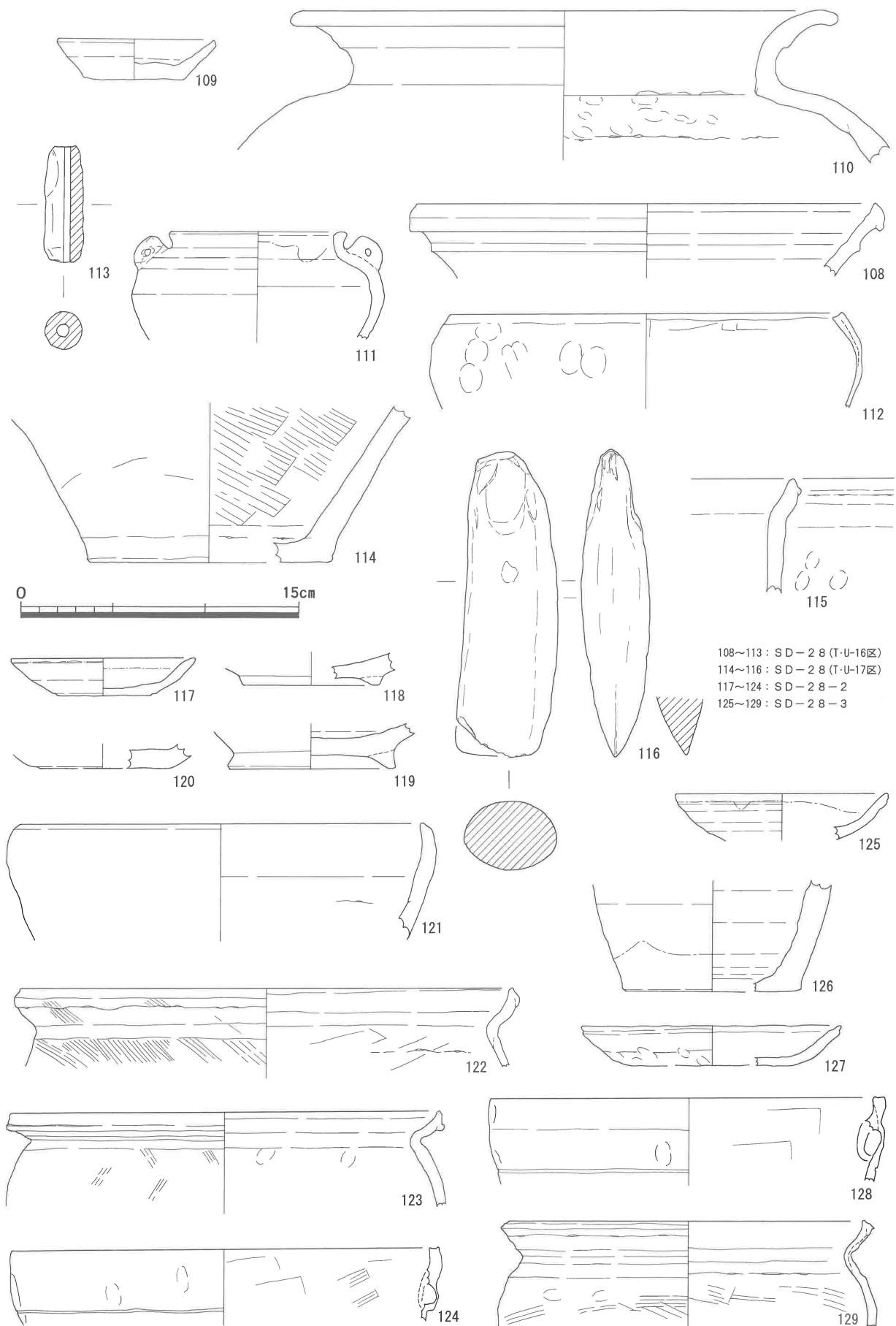
134~136は土師器である。134・135はくの字形鍋で、頸部の屈曲はやや緩やかとなる。口縁部ヨコナデ、体部内面板ナデ、外面ナデ・指押さえによる調整。いずれも外面に煤が付着する。136は内弯形鍋で、口縁部は短く立ち上がり端部は面となる。口縁端部ヨコナデ、内面板ナデ、外面ナデ・指押さえで、頸部には沈線が巡る。これら土師器は16世紀代のものであろう。

137は石製片口鉢で、外面は凹凸が著しいが、内面は丁寧な仕上げで、底部付近は使用によるためか更に平滑となる。138~140は灰釉系陶器である。138は碗で、口縁部内外面に灰釉が掛かる。12世紀中葉のものであろう。139は碗で、高台部はやや潰れた形となる。140は小皿で、底部は広く平坦である。139・140は13~14世紀のものであろう。

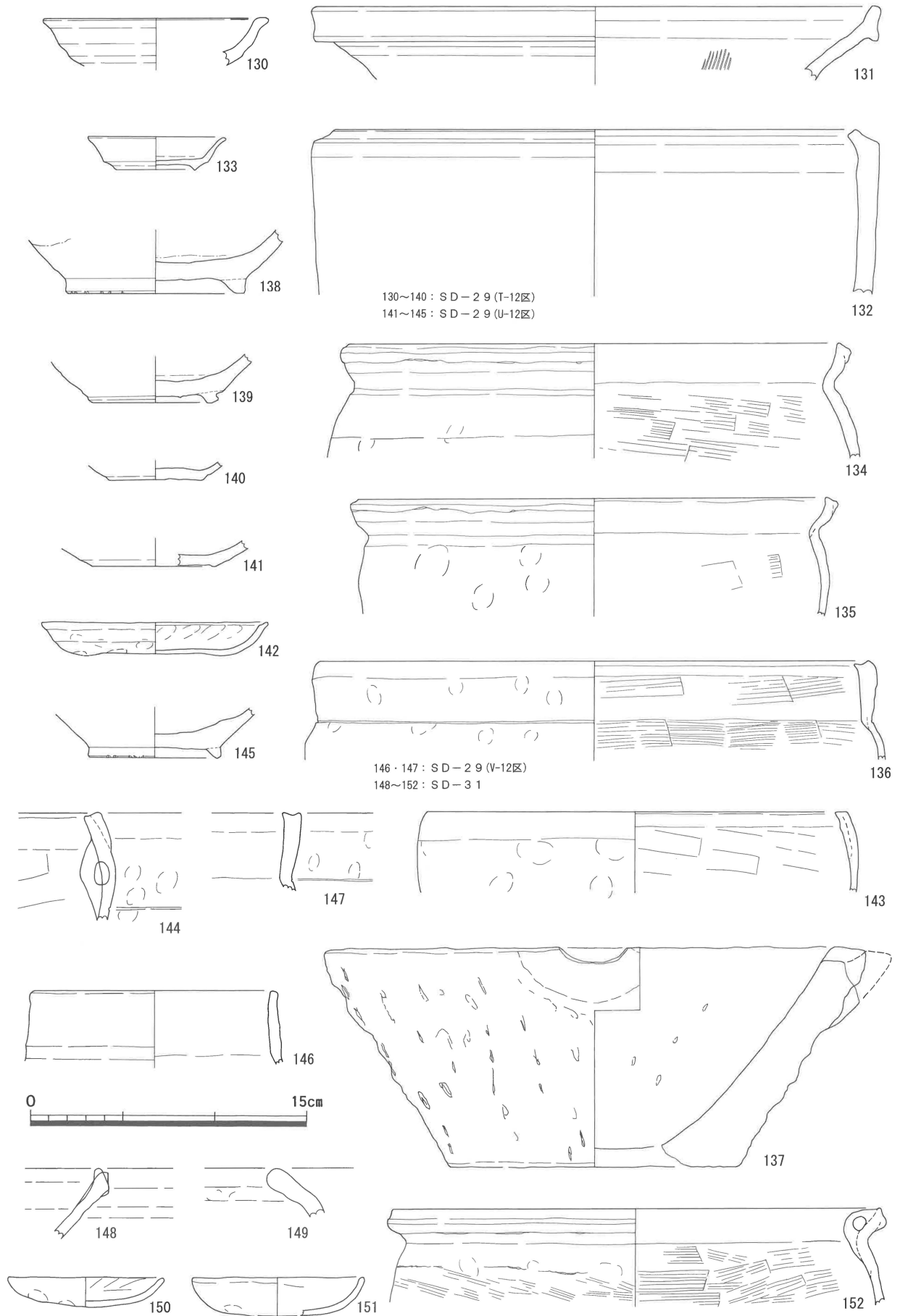
141は陶器志野丸皿と考えられ、高台部は僅かに削り出す。全面に釉が掛かる。142は土師器皿で、口縁部ヨコナデ、内面ナデ、外面ナデ・指押さえ。143は同半球形鍋で、口縁部は内弯気味に伸び端部は面となる。口縁端部ヨコナデ、内面板ナデ、外面ナデ・指押さえ。144は同半球形鍋で、口縁部は内弯気味に立ち上がり端部は内傾した面となる。口縁部ヨコナデ、内面板ナデ、外面ナデ・指押さえで、頸部には沈線が巡る。これらは、16世紀代のものであろう。

145は灰釉系陶器碗で、高台は低く角張ったもので、接地面には靱殻痕が見られる。内面には自然釉が掛かる。13世紀代のものであろう。

146・147は土師器である。146は茶釜形鍋で、口縁部は垂直気味に伸び端部は丸味を帯びた面となる。内外面はヨコナデによる調整。147は内弯形鍋で、口縁部は垂直気味に伸び端部は面となる。口



第41図 出土遺物実測図一17 (1/3)



第42図 出土遺物実測図一八 (1/3)

縁部ヨコナデ、内面ナデ、外面ナデ・指押さえで、頸部には沈線が巡る。これらは、16世紀代のものであろう。

SD-31 (148~152)

148は陶器播鉢で、口縁部は直線的に伸び端部は上下に肥厚し面となる。回転ナデによる調整。149は同火鉢で、焼成は素焼きに近く、外面には灰色に近い釉が僅かに掛かる。口縁部はヨコナデによる調整。150・151は土師器小皿で、口縁部を小さく内弯させる。内面板ナデ・ナデ、外面ナデ・指押さえによる調整。152は同くの字形鍋で、頸部は比較的屈曲する。口縁部ヨコナデ、体部内面板ナデ、体部外面ハケメ・ナデである。149は18~19世紀のものと考えられ混入の可能性があり、これ以外は16世紀代のものであろう。

SD-30 (153~197)

153~157は陶器である。153は皿で、高台部削り出し。内外面に灰釉が掛かる。154は播鉢で、口縁端部を外方に屈曲し更に上下に肥厚して面となる。155は火鉢で、焼成は素焼きに近く、外面には灰色に近い釉が僅かに掛かる。内面はヨコナデによる調整。156は常滑窯産張出口縁壺で、端部を外方に鋭く突出させる。口縁部は回転ナデ、頸部内面には指押さえが見られる。157は常滑窯産甕で、口縁端部は大きく折り返した平坦な面となる。158は磁器染付端反碗で、口縁部は小さく外反し端部は丸く収める。156・157は16世紀後半、154は18世紀代、158は19世紀前半のものであろう。

159は土師器くの字形鍋で、頸部の屈曲は緩やかである。口縁部ヨコナデ、体部内面板ナデ、外面ナデである。16世紀代のものであろう。

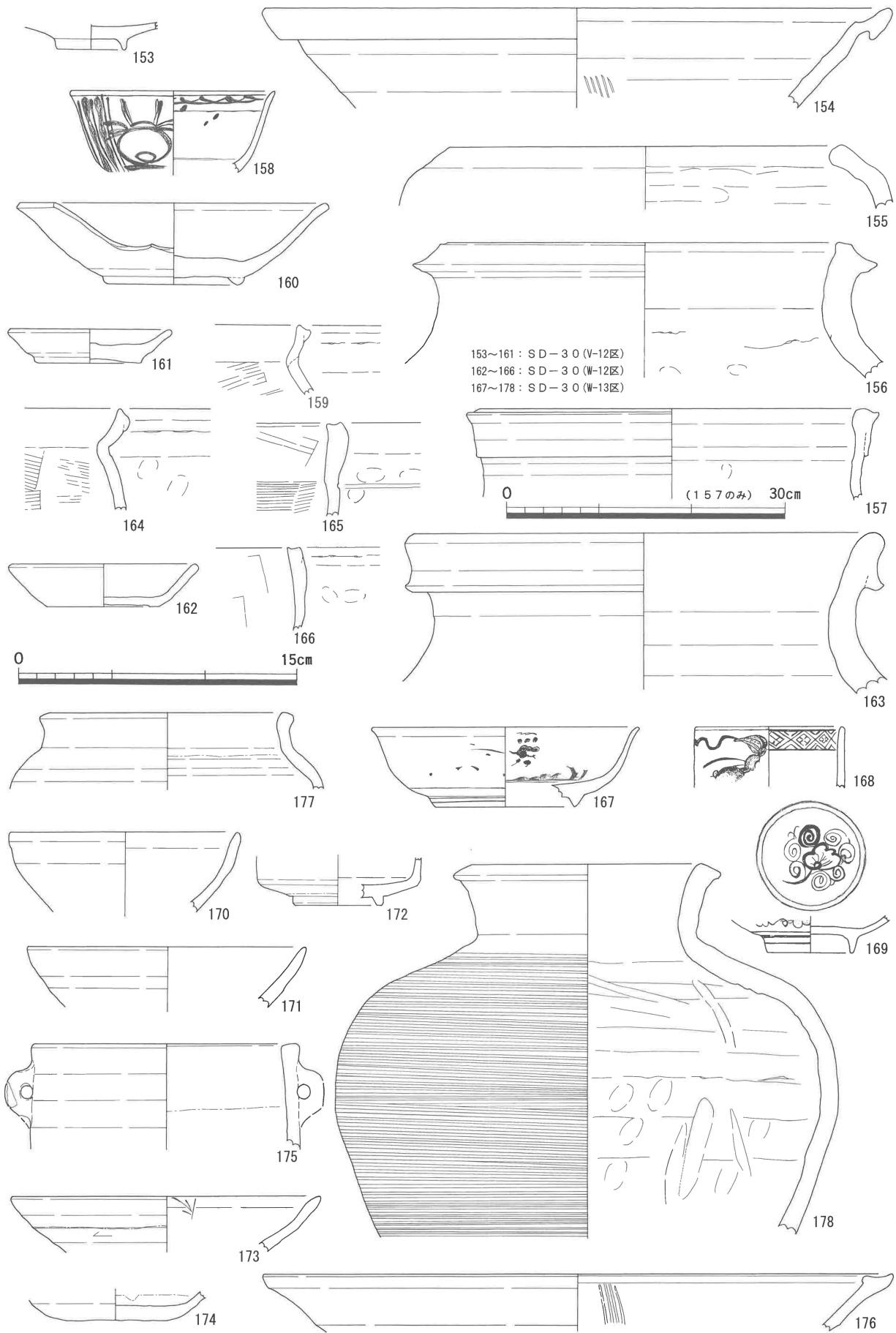
160は灰釉系陶器碗で、高台部はやや丸味を帯び口縁部は大きく開く。内面には煤が付着し口縁部は半月状に故意に割っていることから、灯明具に転用したものと考えられる。161は同小皿で、底部はやや高く作られ口縁部は小さく立ち上がる。底部は糸切り後ヘラケズリ。これらは、13世紀代のものであろう。

162は陶器稜皿で、高台部を僅かに削り出す。口縁部はやや外反し端部は丸く収める。底部に輪トチ痕が見られ、内外面に鉄釉が掛かる。16世紀中葉のものであろう。163は常滑窯産広口壺で、口縁部は外側に折返し突出させ端部は丸く収める。15世紀前半のものであろう。

164~166は土師器である。164はくの字形鍋で、頸部の屈曲は緩やかである。口縁部ヨコナデ、体部内面板ナデ、外面ナデ・指押さえ。165は内弯形鍋で、口縁部は垂直気味に伸び端部は面となる。口縁端部ヨコナデ、内面板ナデ、外面ナデ・指押さえで、頸部には沈線が巡る。166は半球形鍋で、口縁部は内弯気味に伸び端部は面となる。これらは、16~17世紀のものであろう。

167~169は磁器である。167は染付端反皿で、口縁端部は小さく外反する。168は染付筒形湯呑、169は染付碗である。これらは、18~19世紀のものであろう。

170~184は陶器である。170は天目茶碗で、口縁端部は小さく屈曲する。内外面に鉄釉が掛かる。171は平碗で、口縁部は外上方へ開き端部は丸く収める。内外面に灰釉が掛かる。172は筒形湯呑と考えられ、口縁部は垂直に立ち上がる。173は古瀬戸平碗と考えられ、口縁部は外方に大きく開く。体



第43図 出土遺物実測図-19 (1 / 3 · 1 / 6)

部外面下半を除いて灰釉が掛かる。174は古瀬戸の縁釉小皿片と考えられ、端部近くに灰釉が掛かる。底部外面糸切りである。175は壺の口縁部片と考えられ、口縁部外面に耳が付く。口縁部は鉄釉で、内面は錆釉の化粧掛け。176は搦鉢で、口縁部は外上方に大きく開き端部は受け口状となる。古瀬戸後期のものであろう。177は広口壺で、口縁部は小さく立ち上がり端部は丸く収める。178～184は常滑窯産である。178は張出口縁壺で、口縁部は小さく外反し端部を外方に張り出す。体部外面にはカキメが施される。179・181は広口壺で、口縁部は折り返して端部は玉縁状となる。180は甕で、口縁部は折り返して受け口状となる。182～184は甕で、口縁部は大きく折り返して端部は外側に広い面を作るもの(182)、端部外面が丸味を帯びるもの(183)、端部を折り返さず平坦面とするもの(184)などがある。また、183は素焼きに近いものである。173・174・176は15世紀前半、180はやや古く13世紀後半、179は14世紀前半、178・181・182は16世紀代のものであろう。

185～191は土師器である。185・186は小皿で、185は全体的に丸味を帯び、186は口縁部を小さく立ち上げる。いずれも内面ナデ、外面ナデ・指押さえ。187・188は皿で、口縁部は外反気味となり、この部分のみヨコナデしている。189は茶釜形鍋で、口縁部は内弯気味に伸び端部は丸く収める。口縁部ヨコナデ、体部内面板ナデ、外面ナデ。190はくの字形鍋で、頸部の屈曲はやや弱い。口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ・指押さえ、内面は摩滅しており不明。191は半球形鍋で、口縁部はやや内弯し端部は面となる。口縁部端部のみヨコナデ、内面板ナデ・ナデ、外面ナデでヘラ描による沈線が巡る。これら土師器は、いずれも16世紀代のものであろう。

192は弥生土器甕で、口縁部は外反気味となり、外面に粗いハケメが施される。弥生中期の瓜郷式のものであろう。193は同高坏で、脚部に櫛描横線文が施される。弥生後期寄道式のものであろう。194は須恵器高坏で、脚部に透かしは見られない。内外面回転ナデによる調整。7～8世紀のものであろう。195は灰釉陶器碗で、高台は細く高く作られる。底部に糸切りが残り内面には灰釉が掛かる。O-53窯式に併行しよう。196は古瀬戸四耳壺で、肩部には装飾のない平耳が付き、外面には灰釉が掛かる。古瀬戸後期のものであろう。197は平瓦で、凹面に布目痕、凸面に平行タタキが見られる。模骨痕はなく、一枚づくりによるものであろう。

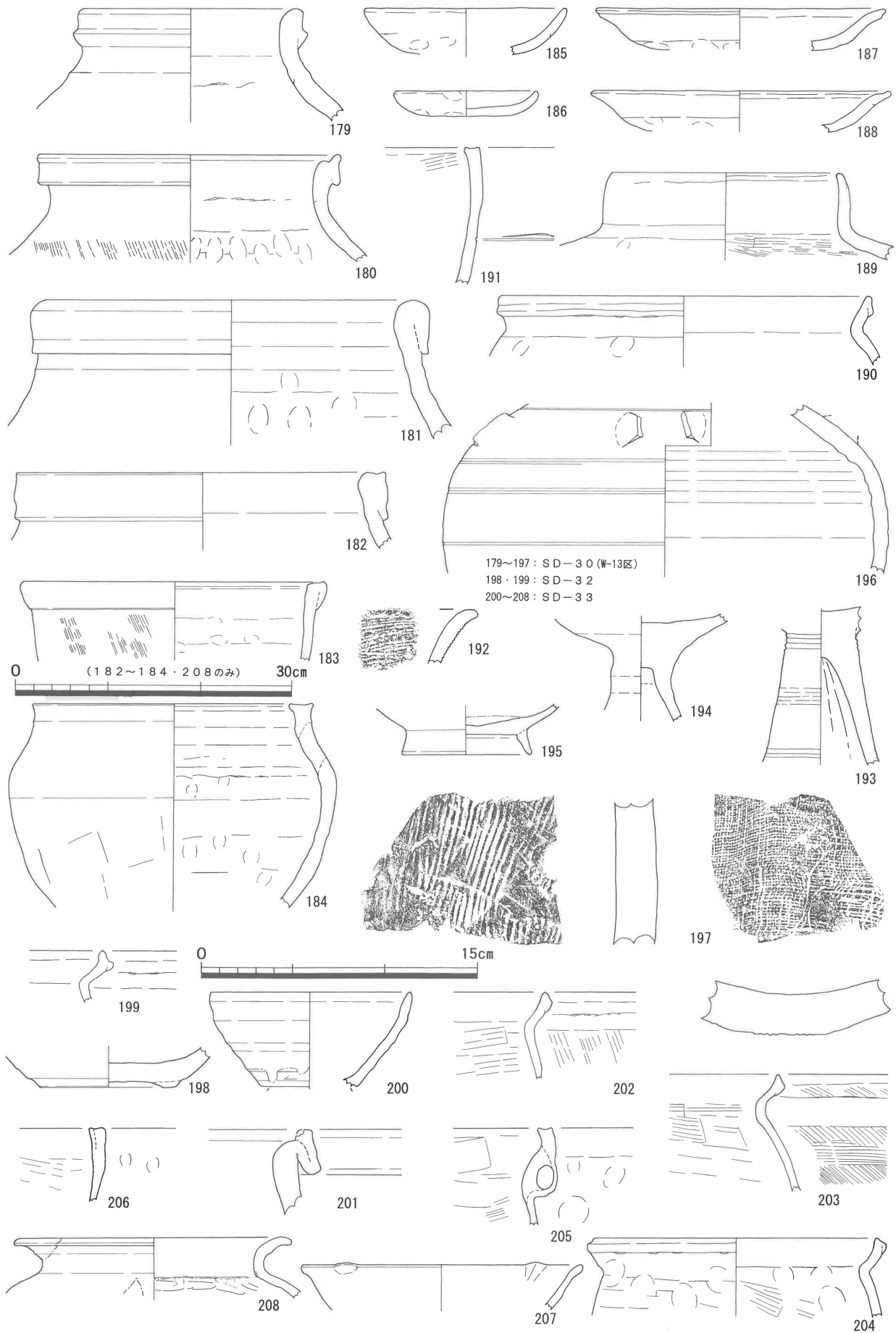
SD-32 (198・199)

198は灰釉系陶器碗で、高台は比較的偏平となる。底部外面は糸切り後ナデ。13世紀後半～14世紀初頭のものであろう。199は土師器くの字形鍋で、頸部は比較的屈曲し口縁部は受け口状となる。口縁部ヨコナデによる調整。15～16世紀のものであろう。

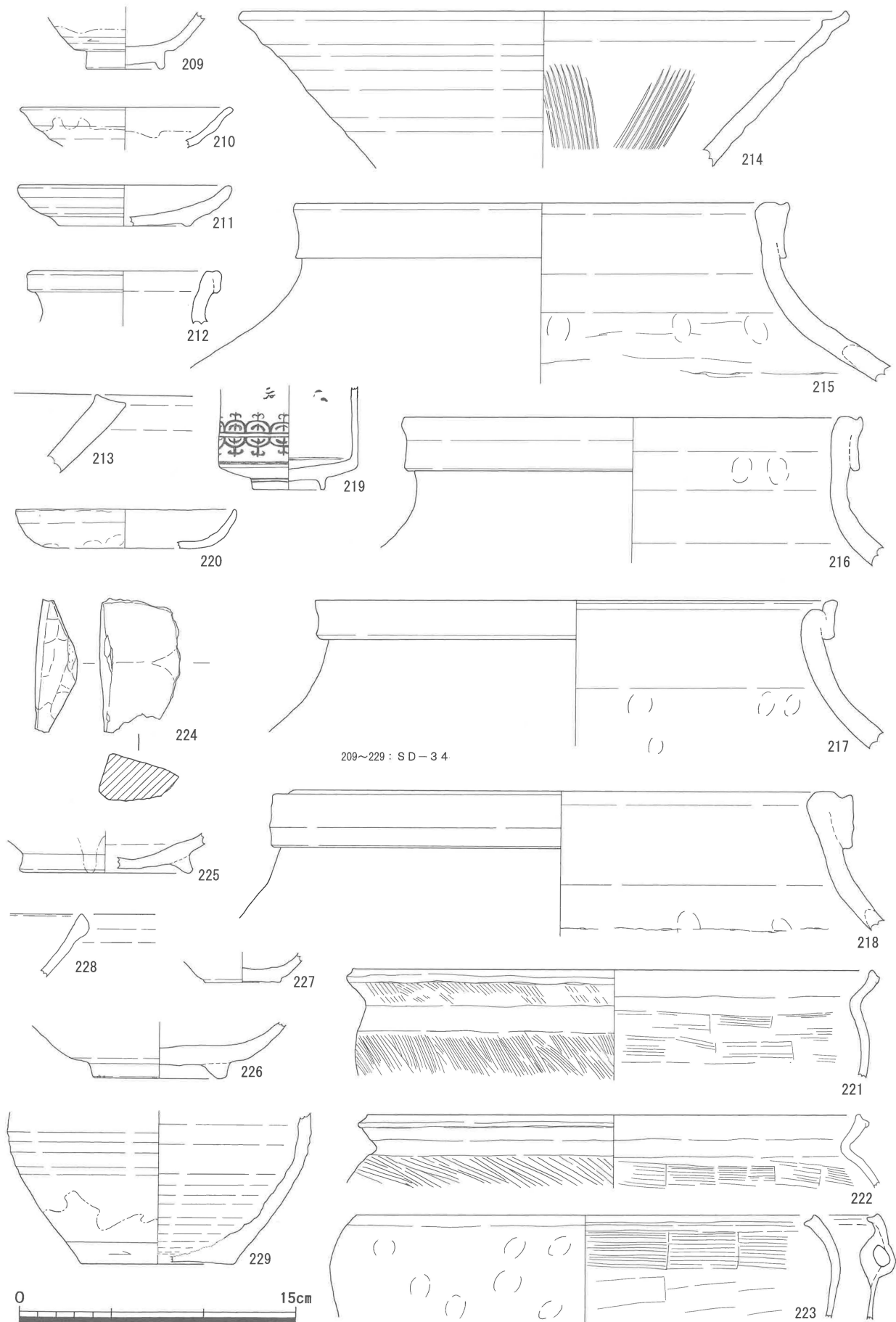
SD-33 (200～208)

200は陶器天目茶碗で、口縁端部は僅かに屈曲する。内外面は鉄釉で、高台付近は露胎。201は常滑窯産甕で、口縁端部は大きく折り返して受け口状となる。201は15世紀前半、200は16世紀代であろう。

202～206は土師器である。202～204はくの字形鍋で、頸部の屈曲は弱い。口縁部ヨコナデ、体部内面板ナデ、外面はハケメ(202・203)あるいはナデ・指押さえ(204)である。205・206は半球形鍋で、口縁部は垂直気味に伸び、端部は面となる。口縁端部ヨコナデ、内面板ナデ、外面ナデ・指押さえ。



第44図 出土遺物実測図-20 (1/3・1/6)



第45図 出土遺物実測図-21 (1/3)

これらは、16世紀代のものであろう。

207は灰釉系陶器碗で、端部近くは僅かに外反する。口縁端部に輪花が見られるが、灰釉は掛かっていない。208は同甕で、口縁部は大きく外反して端部は丸く収める。口縁部内外面に灰釉が掛かる。これらは、12世紀代のものであろう。

SD-34 (209~229)

209~218・229は陶器である。209は碗で、高台部は削り出し。高台付近は露胎、これ以外は鉄釉が掛かる。210は古瀬戸緑釉小皿で、口縁端部は丸く収める。211は志野丸皿で、高台部は僅かに削り出し。全面に長石釉が掛かる。212・213・215~218は常滑窯産である。212は壺で、端部を折り返して玉縁状にする。213は片口鉢で、口縁端部は外傾した面となる。215~218は甕で、口縁端部が折り返して受け口状となるもの(217)以外は、大きく折返し広い面を作る。214は播鉢で、口縁部が外上方へ直線的に伸び、端部は内傾した受け口状となる。229は古瀬戸壺あるいは瓶類で、底部は平坦で体部は内弯気味となる。底部外面糸切りで、体部外面に灰釉が掛かる。217は13世紀後半、210・229は15世紀後半、215・216・218は16世紀代、209・211は17世紀前半のものであろう。

219は磁器染付箱形湯呑で、口縁部は直線的に伸びる。18世紀以降のものと考えられ、この1点だけが新しい時期の混入品である可能性が高い。

220~223は土師器である。220は小皿で、口縁部は緩やかに立ち上がる。内面ナデ、外面ナデ・指押さえによる調整。221・222はくの字形鍋で、221の頸部は緩やかに屈曲し、222の頸部は屈曲が強い。いずれも口縁部ヨコナデ、体部内面板ナデ、外面ハケメ。223は半球形鍋で、口縁部は大きく内弯し端部は内傾した面となる。口縁端部ヨコナデ、内面板ナデ、外面ナデ・指押さえによる調整。これらは、16世紀代のものであろう。

224は凝灰岩製の砥石で、一面を除いて各面が使用されている。また、二次的な火を受けている。

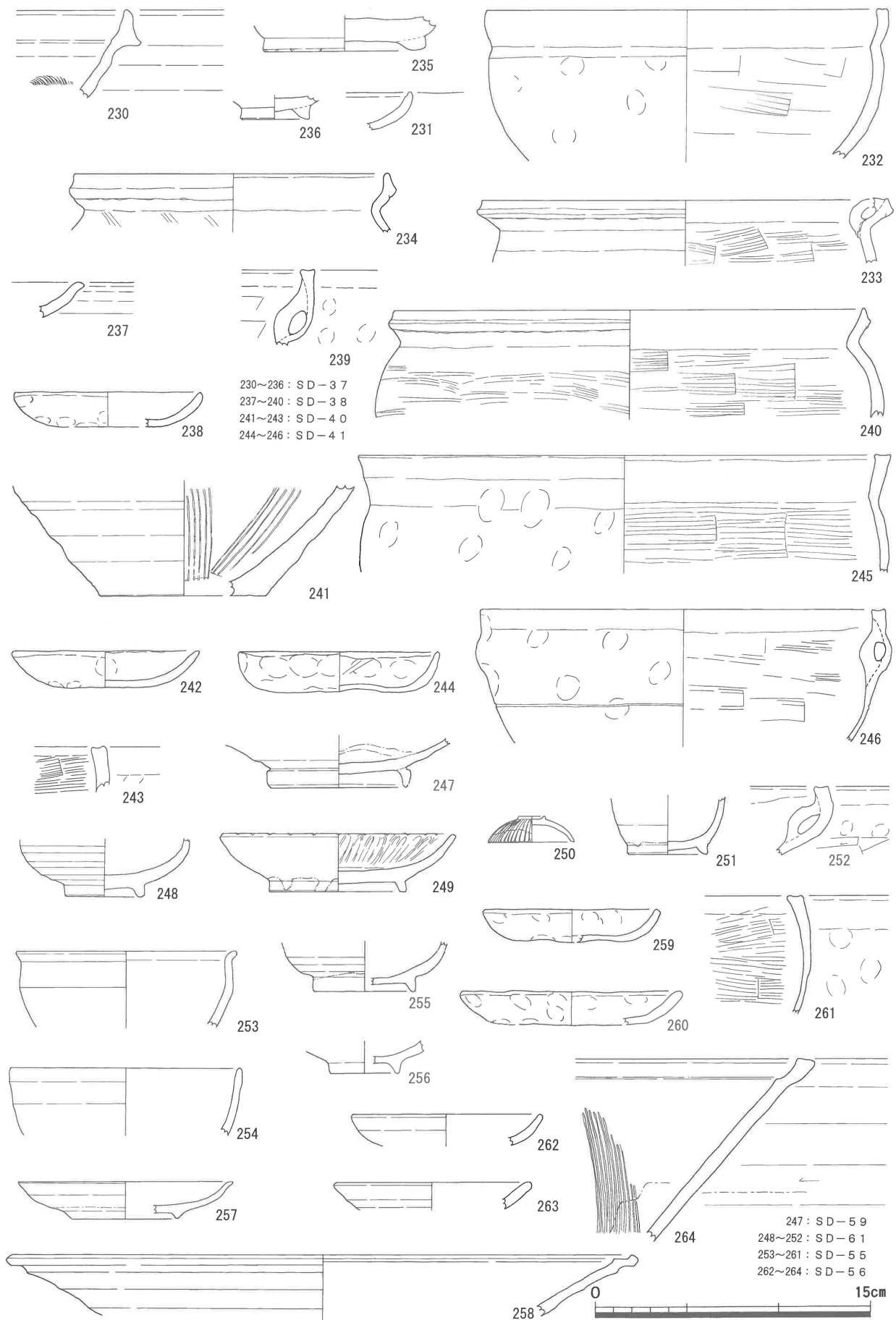
225~227は灰釉系陶器である。225・226は碗で、比較的しっかりした高台が付く。225の外面には灰釉が掛かる。226は高台部に粉殻痕。227は小皿で、底面は狭く口縁部は底部から明瞭に立ち上がる。225は12世紀代、226・227は13世紀代のものであろう。228は白磁碗で、口縁端部は僅かに玉縁状となる。中国製磁器で12世紀代のものであろう。

SD-37 (230~236)

230は陶器播鉢で、口縁端部は外傾した面となる。16世紀後半のものであろう。

231~234は土師器である。231は小皿で、口縁部は内弯気味に立ち上がる。内面ナデ、外面ナデ・指押さえ。232は内弯形鍋で、口縁部は短く内弯気味に立ち上がり端部は面となる。口縁部ヨコナデ、体部内面板ナデ、外面ナデ・指押さえによる調整。233・234はくの字形鍋で、頸部は比較的屈曲が大きく、233の口縁部は受け口状となる。調整は口縁部ヨコナデ、体部内面板ナデ、外面ナデである。これら土師器は、いずれも16世紀代のものであろう。

235は灰釉系陶器碗で、高台は低く丸味を帯びている。236は同小碗で、高台は断面三角形でしっかりしているが、灰釉は見られない。235は13世紀代、236は12世紀代であろう。



第46図 出土遺物実測図-22 (1/3)

SD-38 (237~240)

237は陶器志野丸皿で、口縁部は小さく立ち上がり、口縁端部は僅かに外方へ摘んでいる。16世紀末~17世紀初頭のものであろう。

238~240は土師器である。238は小皿で、口縁部は内弯気味に立ち上がる。内面ナデ、外面ナデ・指押さえ。239は半球形鍋で、口縁部は内弯気味に立ち上がり端部は面となる。口縁端部ヨコナデ、内面板ナデ、外面ナデ・指押さえ。240はくの字形鍋で、頸部の屈曲はやや緩やかである。口縁部ヨコナデ、体部内面板ナデ、外面ハケメである。これらは、16世紀代のものであろう。

SD-40 (241~243)

241は陶器播鉢で、底部は平坦で体部は外上方へ直線的に伸びる。242は土師器小皿で、口縁部は緩やかに立ち上がる。内面ナデ、外面ナデ・指押さえ。243は同半球形鍋で、口縁部は内弯気味に立ち上がり端部は面となる。口縁端部ヨコナデ、内面板ナデ、外面ナデ・指押さえによる調整。これらは、16世紀以降のものであろう。

SD-41 (244~246)

244~246は土師器である。244は小皿で、底部はやや広く口縁部は内弯気味に立ち上がる。内面ナデ、外面ナデ・指押さえ。245は内弯形鍋で、頸部は僅かに屈曲する。口縁部は短く立ち上がり、端部は平坦面となる。口縁部ヨコナデ、体部内面板ナデ、外面ナデ・指押さえである。246は半球形鍋で、口縁部は内弯気味に伸び端部は面となる。口縁端部ヨコナデ、内面板ナデ、外面はナデ・指押さえで、ヘラ描きによる沈線が巡る。これらは、16世紀代のものであろう。

SD-59 (247)

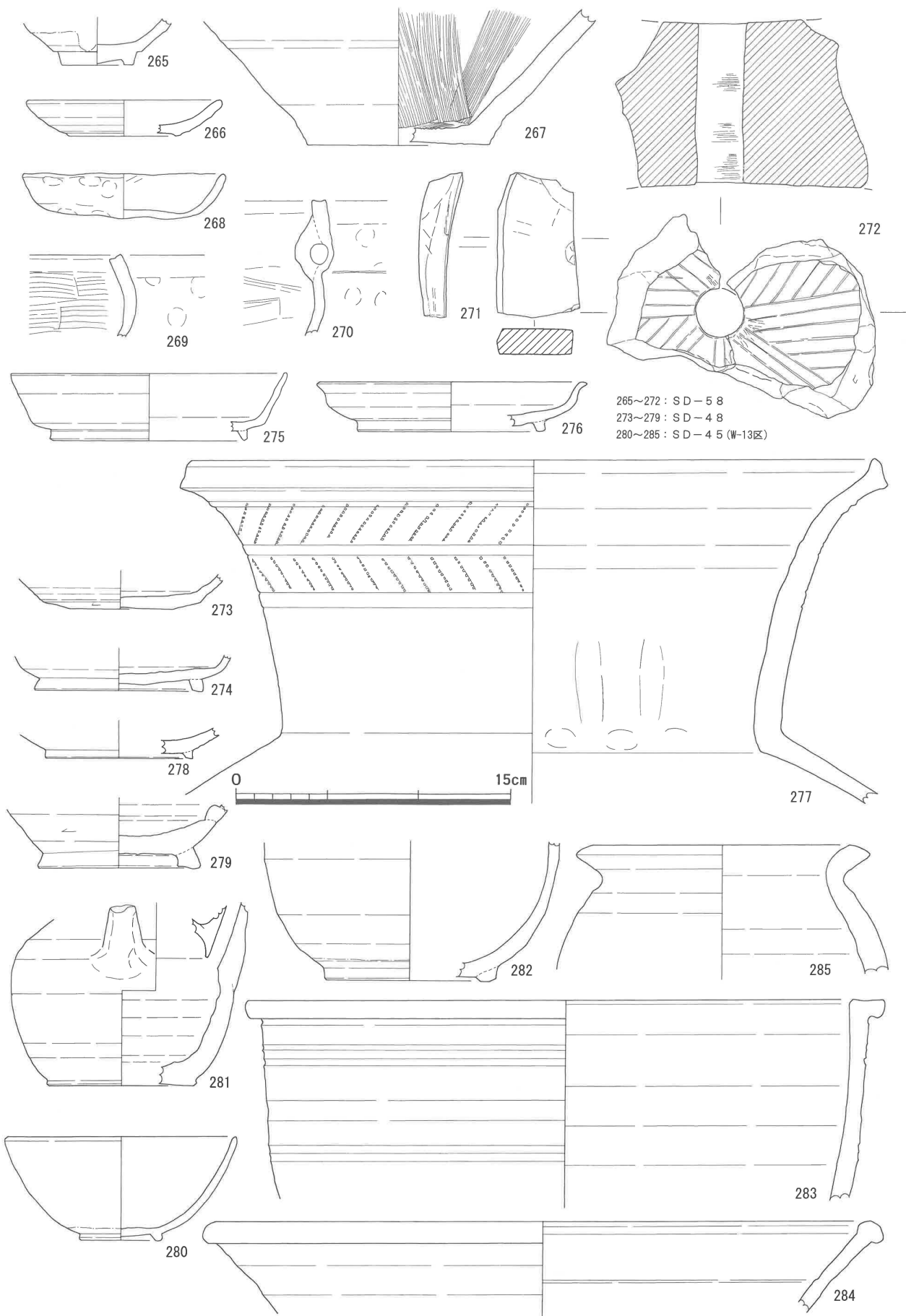
247は灰釉陶器碗で、三日月高台が付く。底部はヘラケズリで、内面にはハケ塗りと思われる灰釉が見られる。K-90窯式に併行するものであろう。

SD-61 (248~252)

248・249・251は陶器である。248は腰鏝茶碗で、高台部は削り出しで体部は内弯気味に立ち上がる。内面に灰釉、外面に鉄釉が掛かる。249は菊皿で、高台部は削り出し。底部外面を除いて内外面に灰釉が掛かる。251は小壺の底部片と考えられ、高台部は削り出し。外面に長石釉が掛かる。これらは、249は17世紀代、これ以外は18世紀代のものであろう。

250は白磁型打紅皿で、口縁端部は僅かに面となる。18世紀後半以降のものであろう。252は土師器焙烙で、口縁部は内弯気味に短く立ち上がり端部は面となる。口縁端ヨコナデ、内面板ナデ、外面ナデで底部付近はヘラケズリである。

SD-55 (253~261)



第47図 出土遺物実測図-23 (1 / 3)

253～258は陶器である。253は天目茶碗で、口縁部は内弯気味に伸び端部を小さく外反させる。内外面に鉄釉が掛かる。254は丸碗で、口縁部は内弯気味に立ち上がる。内外面に鉄釉が掛かる。255・256は碗で、高台部は削り出し。255は高台付近を除いて灰釉が掛かる。256は長石釉が内外面に掛かる。257は丸皿で、高台部は削り出し。高台付近を除いて鉄釉が掛かる。258は折縁深皿と考えられ、口縁部は大きく開き端部は小さく屈曲して受け口状となる。内外面に灰釉が掛かる。258は古瀬戸後期、257は16世紀後半、これ以外は17～18世紀のものであろう。

259～261は土師器である。259・260は小皿で、口縁部を僅かに立ち上げる。内面ナデ、外面ナデ・指押さえによる調整。261は半球形鍋で、口縁部は内弯気味に伸び端部は面となる。口縁端部ヨコナデ、内面板ナデ、外面ナデ・指押さえ。これらは、16～17世紀のものであろう。

SD-56 (262～264)

262～264は陶器である。262・263は丸皿で、口縁部は小さく立ち上がる。いずれも内外面に灰釉が掛かる。264は播鉢で、体部は外上方に直線的に伸び端部は小さく受け口状となる。これらは、18世紀後半のものであろう。

SD-58 (265～272)

265～267は陶器である。265は碗で、高台部は削り出し。内外面鉄釉で、高台付近は錆釉の化粧掛け。266は志野丸皿で、高台は僅かに削り出す。267は播鉢で、底部は平坦で糸切り痕が残る。これらは、17世紀前半のものであろう。

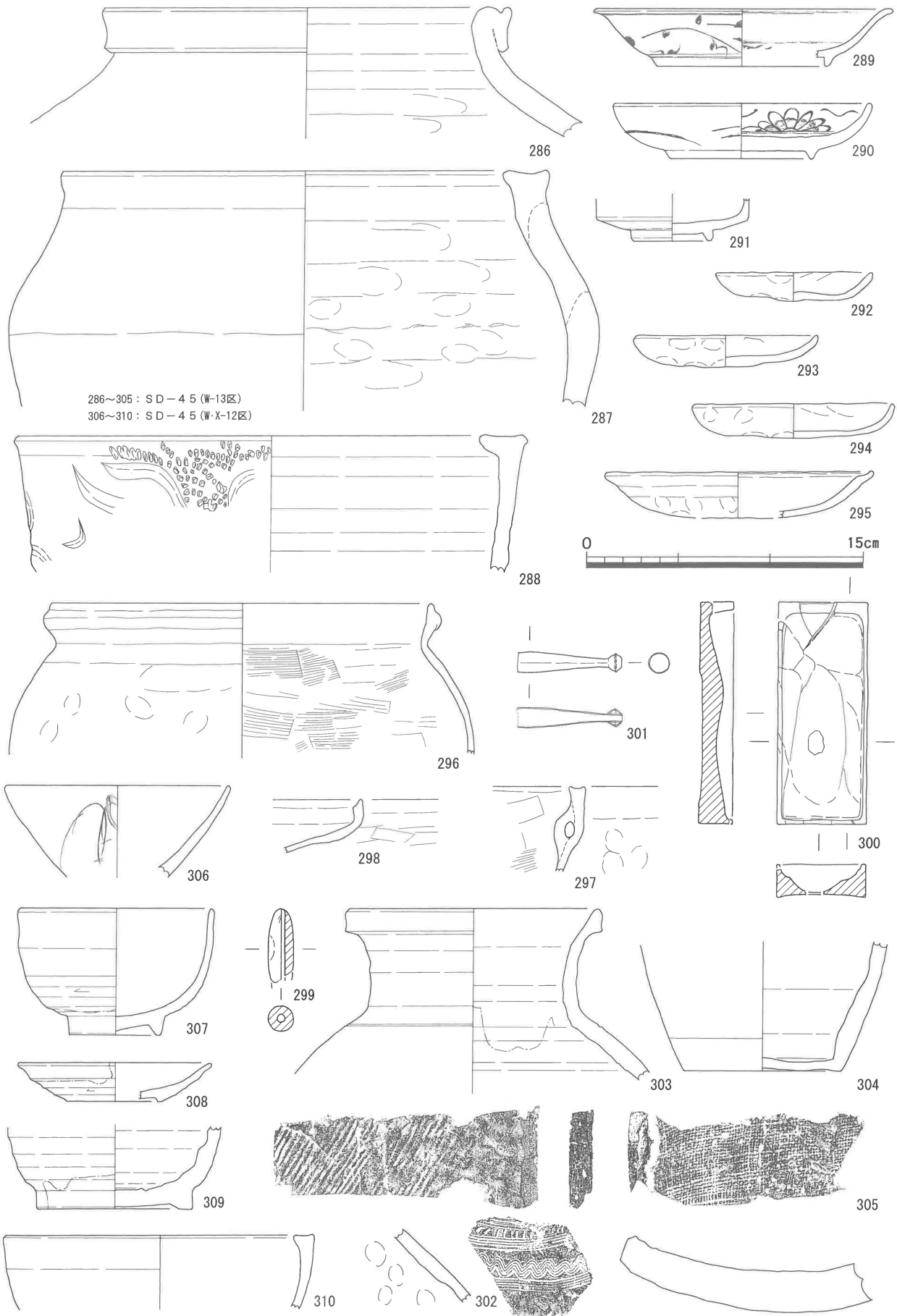
268～270は土師器である。268は小皿で、底部には凹凸が見られる。内面ナデ、外面ナデ・指押さえ。269は半球形鍋で、口縁部は内弯気味に伸び端部は内傾した面となる。口縁端部ヨコナデ、内面板ナデ、外面ナデ・指押さえ。270は内弯形鍋で、口縁部は垂直気味となり端部は面となる。口縁端部ヨコナデ、内面板ナデ、外面はナデ・指押さえで、ヘラ描きによる沈線が頸部に施される。これら土師器は、16世紀代のものであろう。

271は凝灰岩製の砥石で、小口面以外は全て使用されている。272は玄武岩製と考えられる石臼で、上臼に当たる部分である。下部は凹状になり播り目が施されている。

SD-48 (273～279)

273～277は須恵器である。273は無台坏で、底部は平坦で口縁部は緩やかに立ち上がる。底部外面回転ヘラケズリ、これ以外は回転ナデによる調整。274・275は有台坏で、平坦な底部から口縁部は稜をもって立ち上がり端部は丸く収める。274の高台は四角く、275の高台はやや細長い。底部外面回転ヘラケズリ、これ以外は回転ナデによる調整。276は有台皿で、口縁部は緩やかに立ち上がり端部は屈曲して外方に開く。底部外面回転ヘラケズリ後ナデ、これ以外は回転ナデによる調整。277は甕で、口縁部は緩やかに外反し、端部は外傾した面となる。外面には沈線や櫛刺突文列が施される。

278は灰釉陶器碗で、高台部は角高台となる。内外面に灰釉がハケ塗りされる。底部外面の調整は釉のためはっきりしないが回転ヘラケズリであろう。K-14窯式に特徴的なものである。279は同壺



第48図 出土遺物実測図-24 (1 / 3)

で、しっかりした四角い高台が付く。底部及び外面は回転ヘラケズリ、内面は回転ナデによる調整。外面に灰釉が掛かる。これら須恵器及び灰釉陶器は、9世紀前半のものであろう。

SD-45 (280~320)

280~288は陶器である。280は柳茶碗で、口縁部は内弯気味に立ち上がる。高台部削り出し。高台付近を除いて灰釉が掛かる。281は汁次で、体部は球形気味で胴部付近に注口が付く。内外面に鉄釉が掛かる。282は片口と考えられ、高台部は貼り付けによる。高台付近を除いて鉄釉が掛かる。283は古瀬戸桶と考えられ、口縁端部は屈折して平坦面をなす。内外面に鉄釉が掛かる。284は播鉢で、端部は肥厚して丸くなる。285~287は常滑窯産で、285は壺で口縁部は外反し端部は外傾した面となる。286は甕で、口縁端部を折り返して外側に面を作る。287も甕で、口縁部が内弯気味に伸び端部は平坦面となる。288は水甕で、口縁端部は広く平坦な面となる。外面には文様が刻まれ、内外面に灰釉が掛かる。283・286は15世紀後半、これ以外は18世紀後半のものであろう。

289~291は磁器である。289は染付端反皿で、290は染付丸皿である。いずれも高台部は削り出し。291は箱形湯呑で、口縁部は垂直気味に伸びる。これらは、18世紀後半のものであろう。

292~298は土師器である。292~294は小皿で、口縁部は小さく立ち上がる。内面ナデ、外面ナデ・指押さえによる調整。295は皿で、口縁端部をヨコナデによって屈曲させる。296はくの字形鍋で、頸部の屈曲は弱い。口縁部ヨコナデ、体部内面板ナデ、外面ナデ・指押さえ。297は半球形鍋で、口縁部は垂直気味に伸び端部は平坦となる。口縁端部ヨコナデ、内面板ナデ、外面ナデ・指押さえ。298は焙烙で、口縁部は短く立ち上がり端部は段となる。口縁端部ヨコナデ、内面ナデ、外面はヘラケズリである。296・297は16世紀代、298は17~18世紀のものであろう。

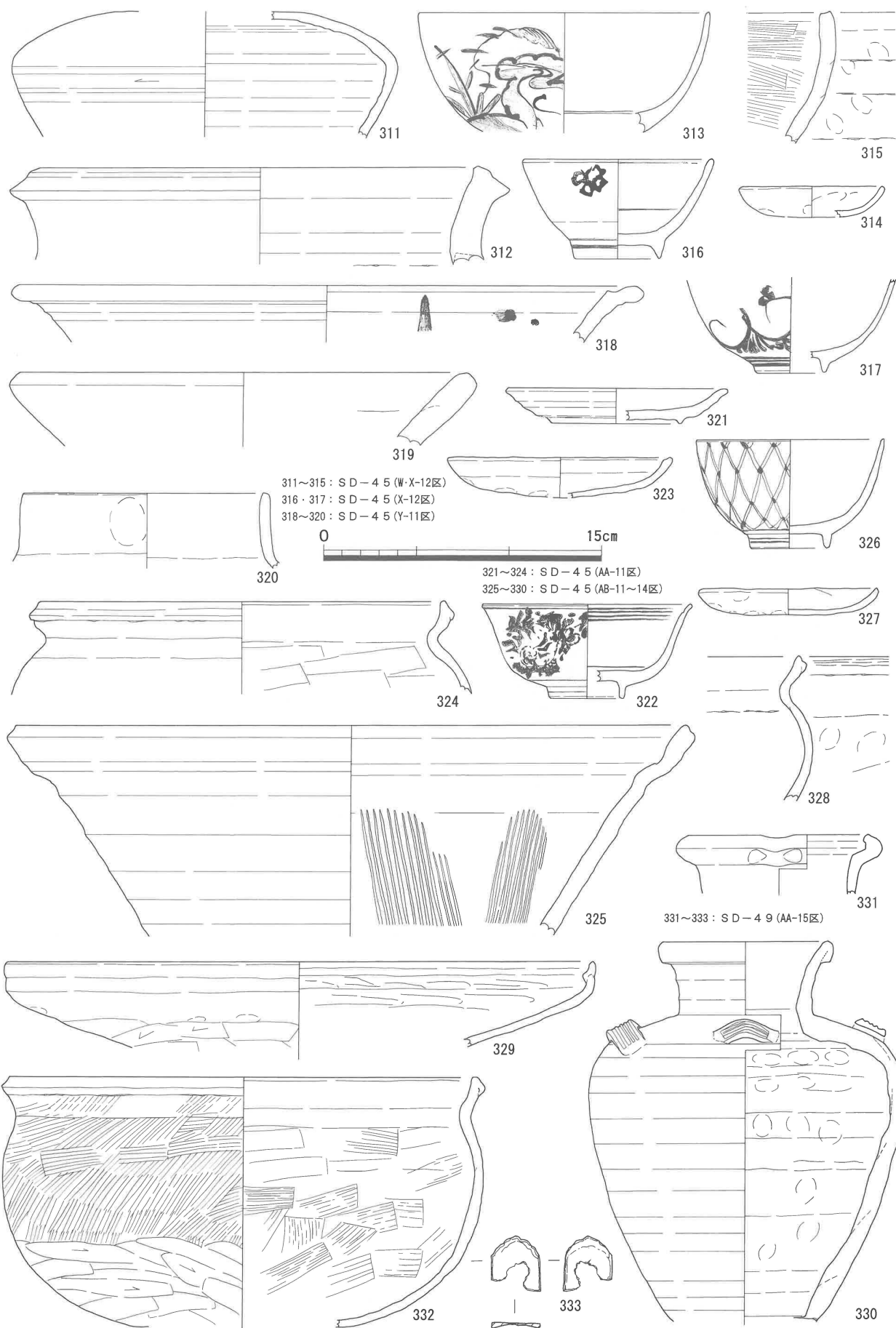
299は土錘で、ナデ・指押さえによる成形。300は凝灰質泥岩製と考えられる硯で、中央部は使用によって穴が開いたのであろう。301は銅製の煙管吸口である。302は弥生土器壺で、肩部には櫛描による波状文や横線文、櫛刺突文が見られる。弥生中期のものであろう。

303は古瀬戸四耳壺で、肩部はなで肩となり口縁部は緩やかに外反する。内外面回転ナデによる調整で、口縁部から外面に灰釉が掛かる。304は同瓶子で、底部は平坦で体部は直線的に立ち上がる。底部は回転ヘラケズリで、外面には灰釉が掛かる。これらは、古瀬戸後期のものであろう。

305は平瓦で、凹面に布目痕、凸面に平行タタキが見られる。側面は面取りが行われる。模骨痕はなく、一枚づくりによるものであろう。

306~312は陶器である。306は柳茶碗で、口縁部は比較的まっすぐに伸びる。内外面に灰釉が掛かる。307は丸碗で、高台部は削り出し。内外面は鉄釉が掛かり、高台付近は露胎となる。308は丸皿で、高台部削り込み。底部付近を除いて灰釉が掛かる。309は壺で、高台部を僅かに削り出す。内外面に鉄釉が掛かる。310は片口で、口縁部は内弯気味で端部は広く面となる。内外面に灰釉が掛かる。311は漚瓶と考えられ、体部はやや肩が張り上部は緩やかな丸味となる。体部外面下半は回転ヘラケズリ、これ以外は回転ナデによる調整で、内外面に灰釉が掛かる。312は常滑窯産甕で、口縁部は僅かに外反して端部は外傾した面となる。これら陶器は、18世紀~19世紀前半のものであろう。

313は磁器染付丸碗で、口縁部は大きく弯曲する。19世紀前半のものであろう。314は土師器小皿で、



第49图 出土遺物実測図一25 (1 / 3)

口縁部は小さく立ち上がる。内面に煤が付着しており、灯明皿として使用されたのであろう。内面ナデ、外面ナデ・指押さえによる調整。315は同半球形鍋で、口縁部は内弯気味に伸び端部は面となる。口縁端部ヨコナデ、内面板ナデ、外面はナデ・指押さえであるが接合痕が良く残る。

316は陶器染付広東碗で、高台はやや低く削り出す。317は磁器碗で、体部は内弯気味に立ち上がる。いずれも19世紀前半のものであろう。

318は陶器折縁鉢で、口縁部は屈折して水平気味となり端部は丸く収める。内外面に灰釉が掛かり、内面に鉄絵も見られる。17世紀代のものであろう。319は常滑窯産鉢で、口縁部外上方へ広がり端部は丸く収める。口縁部は回転ナデによる調整。320は土師器茶釜形鍋で、口縁部は垂直気味に伸び端部は僅かに面となる。口縁部ヨコナデ。

321は陶器丸皿で、口縁部は緩やかに立ち上がり端部は外方に摘んでいる。内外面に灰釉が掛かり、内面には鉄釉が付く。16世紀後半のものであろう。322は磁器染付端反碗で、高台部削り出し。18世紀後半のものであろう。323は土師器皿で、口縁部はヨコナデを施す。内面や口縁端部に煤が付着する。324は土師器くの字形鍋で、頸部は比較的屈曲する。口縁部ヨコナデ、体部内面板ナデ、外面ナデである。16世紀代のものであろう。

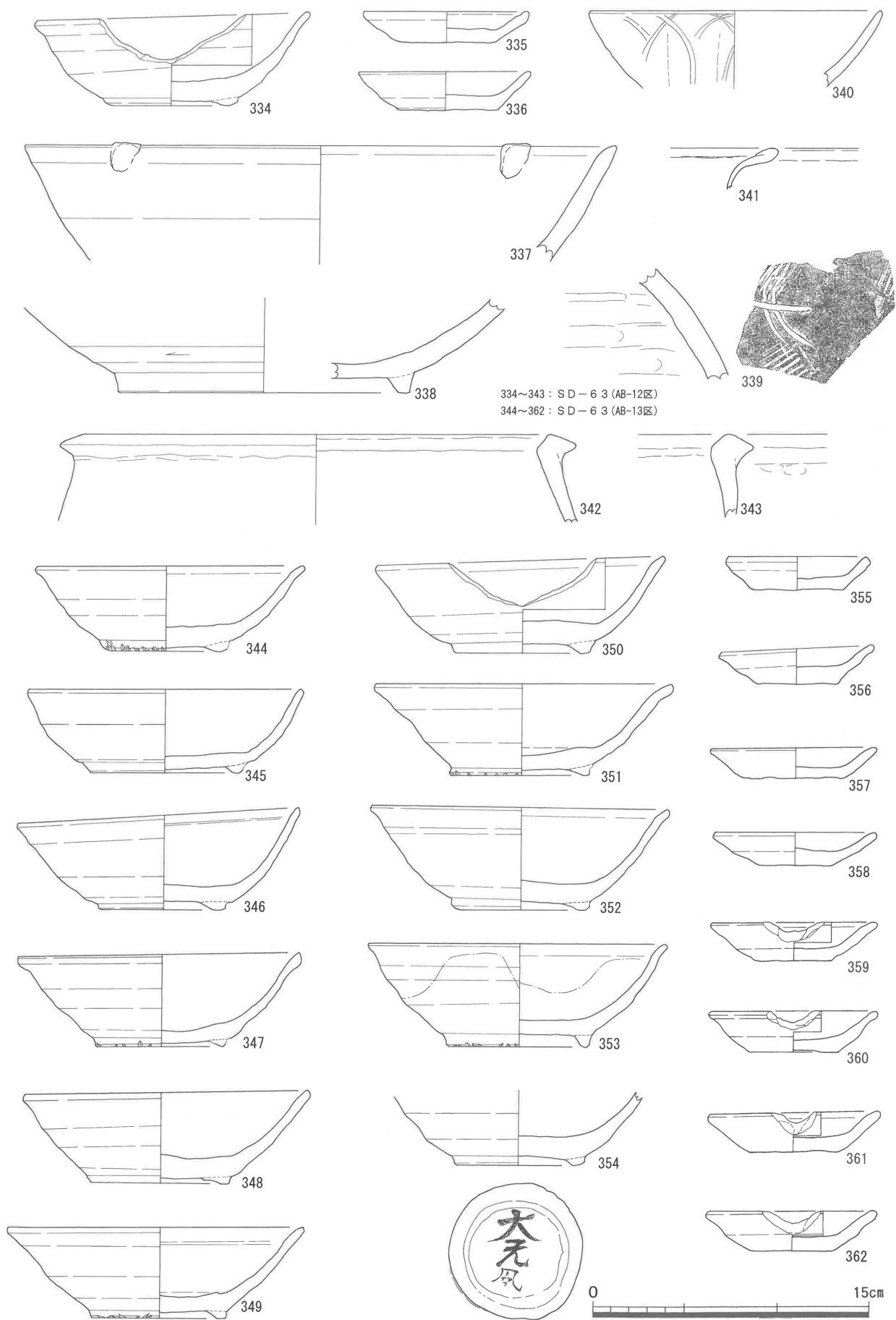
325は陶器播鉢で、口縁部は直線的に伸び端部近くで僅かに屈曲して面となる。体部外面下半回転ヘラケズリ、これ以外は回転ナデによる調整。326は磁器丸碗で、口縁部は内弯気味に立ち上がる。これらは、18世紀後半のものであろう。327は土師器小皿で、口縁部は僅かに立ち上がる。内面ナデ、外面ナデ・指押さえ。328は同くの字形鍋で、頸部は比較的屈曲する。口縁部ヨコナデ、体部内面板ナデ、外面ナデである。16世紀代のものであろう。329は同焙烙で、口縁部は小さく立ち上がり端部は段となる。口縁部ヨコナデ、内面ナデ、外面下半はヘラケズリである。18世紀後半のものであろう。330は古瀬戸四耳壺で、口縁端部は折り返して玉縁状となる。肩部には4～5条の小突線を配した平耳が付く。古瀬戸前期のものであろう。

SD-49 (331～333)

331は古瀬戸片口瓶と考えられ、口縁端部は受け口状に屈曲する。内外面回転ナデによる調整で、灰釉が全体に掛かる。古瀬戸後期のものであろう。332は土師器くの字形鍋で、体部はやや偏平で頸部の屈曲は比較的弱い。口縁部ヨコナデ、体部内面板ナデ、外面はハケメで下半はヘラケズリが施される。16世紀代のものであろう。333は不明銅製品で、一辺は波状に加工されそのすぐ内側にも線刻で波状に表現されている。両側面は直線的に伸びている。

SD-63 (334～402)

334～339は灰釉系陶器である。334は碗で、高台は低く偏平である。口縁部は緩やかに立ち上がり、端部は外反気味で丸く収める。底部外面糸切り後ナデ、これ以外は回転ナデによる調整。口縁部を大きく打ち欠いており、灯明具への転用と考えられる。335・336は小皿で、底部は広く平坦で口縁部は短く立ち上がる。底部外面糸切り、これ以外は回転ナデ。337・338は片口鉢で、高台は断面台形でしっかりしている。口縁部は内弯気味に立ち上がり、端部はやや尖る。輪花も見られる。底部近くは回



第50図 出土遺物実測図一26 (1 / 3)

転ヘラケズリ、これ以外は回転ナデによる調整。339は甕体部片で、外面には平行タタキやヘラ描きの文様が見られる。内面はヨコナデ調整。340は青磁碗で、口縁部は内弯気味に立ち上がる。陰刻の蓮弁文が薄く施される。

341～343は土師器である。341は伊勢型鍋で、口縁部は大きく外反し端部は内側に折り返す。ヨコナデ調整と考えられるが摩滅が著しい。342・343は清郷型鍋で、体部はやや内傾し口縁部は短く「く」の字状に屈折する。端部は断面三角形で鏝状となる。口縁端ヨコナデ、内外面ナデによる調整。

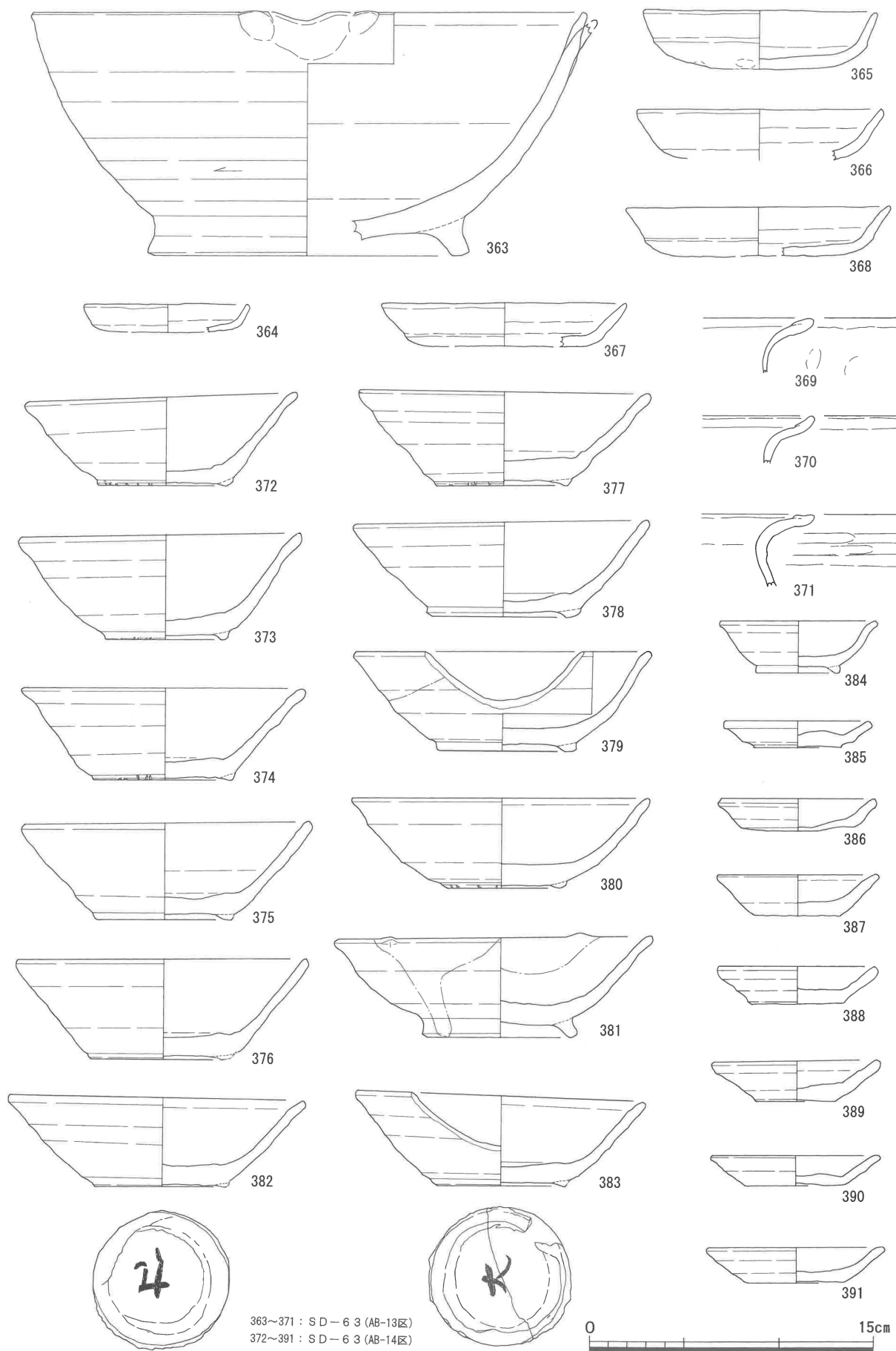
342・343は10世紀代、334～341は13世紀後半のものであろう。

344～363は灰釉系陶器である。344～354は碗で、底部は比較的平坦で、高台は偏平となった断面三角形のものが多く。接地面には靨痕(344・347・349・351・353)や砂粒痕(346・348・350・354)が見られる。口縁部は内弯気味に立ち上がり端部は僅かに外反するものが多いが、外反せず丸く収めるもの(345・346)もある。なお、353はやや高台が高く、口縁部に灰釉が掛かる。また、口縁部を大きく打ち欠いたもの(349・350)や内面に煤が付着したもの(345)などは、灯明具への転用と考えられる。さらに、354の底部外面には「大无□」と墨書が残る。□は「風」「凧」であろうか。355～362は小皿で、底部は比較的広く平坦で、口縁部との境もはっきりしている。口縁部は外上方へ短く伸び、端部は丸く収めるものが多い。底部外面は糸切り、これ以外は回転ナデによる調整。359～362については、口縁部を打ち欠いており、碗と同様に灯明具への転用であろう。但し、煤の付着するものは見られない。363は片口鉢で、高台は断面長方形でしっかりしており、接地面には砂粒痕が見られる。底部から口縁部にかけて緩やかに開き、端部は細く尖る。体部外面下半が回転ヘラケズリ、これ以外は回転ナデによる調整。

364～371は土師器である。364は小皿、365～368は皿である。底部は比較的広く平坦で、口縁部は緩やかに立ち上がり端部は丸く収める。いずれも口縁部のみを強くヨコナデしているため、外反気味となる。これ以外はナデ・指押さえによる調整。369～371は伊勢型鍋で、口縁部は大きく外反し端部は内側に折り返している。口縁部はヨコナデによる調整で、頸部外面には指押さえも見られる。

353はやや古く位置付けられるが、これ以外の344～352・354～371は13世紀後半のものであろう。

372～396は灰釉系陶器である。372～383は碗で、底部は比較的平坦で、高台は偏平となった断面三角形のものが多く。接地面には靨痕や砂粒痕が見られる。口縁部は直線的に伸びるもの(372・374など)や内弯気味に立ち上がり端部は僅かに外反するもの(379・380など)がある。なお、381は高台が断面台形で高く、口縁部には灰釉が掛かり端部に輪花が見られる。379も灰釉が掛かる。また、口縁部を大きく打ち欠いたもの(379・383)や内面に煤が付着したもの(372・376・377・380)などは、灯明具への転用と考えられる。さらに、382の底部外面には「九」、383には「大」と墨書が残る。384は小碗で、丸味を帯びた高台が付く。口縁端部は外反気味となる。底部外面糸切り、これ以外は回転ナデによる調整。385～391は小皿で、底部は比較的広く平坦で、口縁部との境もはっきりしている。口縁部は外上方へ短く伸びるが、低く広がるもの(385・386・390)や比較的狭く高く伸びるもの(387・388)がある。端部は丸く収めるものが多い。いずれも底部外面は糸切り、これ以外は回転ナデによる調整。392は片口鉢で、高台はなく底部は平坦である。口縁部は直線的に伸び端部は肥厚し外傾した丸い面となる。底部外面糸切り、底部内面不定ナデ、これ以外は回転ナデによる調整。



第51図 出土遺物実測図一27 (1 / 3)

393は壺で、底部は上げ底気味で、肩部はなで肩となる。頸部は緩やかに外反し口縁端部は僅かに折り返して丸くなる。体部外面下半回転ヘラケズリ、これ以外は回転ナデによる調整。口縁部から肩部にかけて灰釉が掛かる。394～396は甕である。394は肩部が張って口縁部が大きく外反し、端部は丸く収めている。395は体部中位が張って口縁部は緩やかに外反し、端部は上方に摘み上げている。394・396の底部はいずれも平坦である。調整は、口縁部付近ヨコナデ、体部は内面ナデ・ヨコナデ・指押さえ、外面板ナデ、平行タタキなどである。396の内面にはカキメ状の調整が見られる。いずれも、口縁部から肩部にかけて灰釉が厚く掛かる。

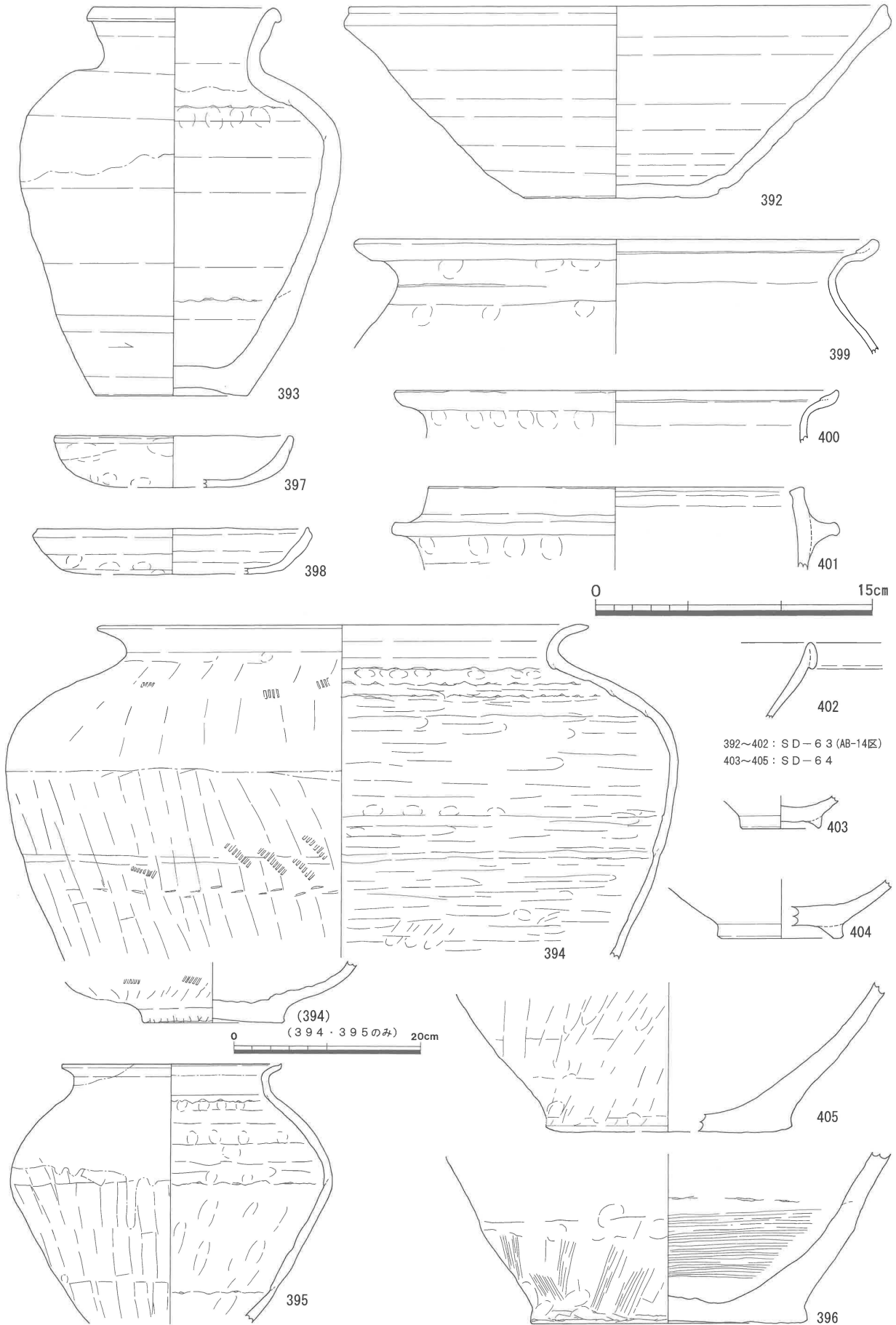
397～401は土師器である。397・398は皿で、いずれも口縁部は緩やかに立ち上がる。397は内面ナデ、外面ナデ・指押さえでヨコナデはない。398は口縁部を強くヨコナデし端部を摘み上げている。399・400は伊勢型鍋で、口縁部は大きく外反し端部は内側に折り返している。口縁部から体部内面はヨコナデで、頸部外面には指押さえが顕著に見られる。401は羽釜で、口縁部は内弯気味に伸び端部は面となる。端部よりやや下がった位置に短く厚手の鏝が付き、その端部は面となる。口縁端部ヨコナデ、これ以外はナデで、鏝下部には指押さえが見られる。402は白磁碗で、口縁端部を折返し玉縁状となる。

379・381・384・394・395・402はやや古く12世紀後半、これ以外の372～378・380・382・383・385～393・396～401は13世紀後半に位置付けられるのものであろう。

SD-64 (403～405)

403～405は灰釉系陶器である。403は小碗で、高台は断面三角形でしっかりとしている。底部外面糸切り後ナデ、これ以外は回転ナデによる調整。404は碗で、高台は断面台形で比較的しっかりとしている。底部外面糸切り後ナデ、これ以外は回転ナデによる調整。内面に灰釉が掛かる。405は甕で、底部は平坦で体部は内弯気味に立ち上がる。底部外面未調整、内面ナデ、外面ナデである。これらは、12世紀後半のものであろう。

注1 出土遺物の編年的な位置付けについては、第3章3の注1に示した文献を主に参考にしている。



第52図 出土遺物実測図-28 (1 / 3 · 1 / 6)

第3表 出土遺物 (SD) 観察表

図版-遺物No	地区	遺構	器種	分類	口径	器高	底径	その他	胎土	焼成	色調	調整等	備考	
37-	1	AB-8	SD-01	T	碗		(3.1)	3.7		密	良好	淡褐色	体部外面回転ヘラケズリ	内外面に灰釉
	2	AB-8	SD-01	T	丸碗	11.8	7.2	4.8		密	良好	淡乳褐色	高台部削り出し	内外面に鉄釉
	3	AB-8	SD-01	T	天目茶碗	11.8	(5.0)			密	良好	淡灰褐色	内外面回転ナデ	内外面に鉄釉
	4	AB-9	SD-01	T	瓶類		(2.9)	5.2		密	良好	淡灰褐色	体部外面回転ヘラケズリ	外面に灰釉
	5	AB-8	SD-01	P	碗	14.9	8.0	3.8		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	口縁端部に自然釉
	6	AB-8	SD-01	P	小皿	8.4	1.9	5.4		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り後ナデ	
	7	AB-8	SD-01	P	片口鉢	26.5	(6.1)			密	良好	淡灰色	内外面回転ナデ	北部系?
	8	AB-8	SD-01	P	片口鉢		(5.1)	11.9		密	良好	淡灰褐色	体部外面回転ヘラケズリ	
	9	AB-9	SD-01	P	壺		(7.4)	7.5		密	良好	淡灰色	体部外面回転ヘラケズリ	渥美窯産?
	10	AA-8	SD-04	T	小坏	5.7	3.1	2.9		密	良好	淡褐色	体部外面下半回転ヘラケズリ	内外面に鉄釉
	11	AA-8	SD-04	T	鬘盥	短径5.8	4.5	短底径5.7		密	良好	淡灰褐色	底部外面に布目痕	内外面に灰釉
	12	AA-8	SD-04	T	灯明受皿	8.4	1.7	6.2	最大径10.9	密	良好	淡灰褐色	体部外面下半回転ヘラケズリ	内外面に鉄釉
	13	Z-8	SD-04	T	蓋	8.0	3.2		最大径11.2	密	良好	淡灰白色	天井部外面回転ヘラケズリ	外面に鉄釉
	14	AA-8	SD-04	T	鉢	12.5	6.2	13.0		密	良好	淡赤褐色	体部外面下半板ナデ	常滑窯産
	15	Z-8	SD-04	Z	広東碗	11.6	6.3	5.8		緻密	良好	淡灰白色	高台部削り出し	染付広東碗
	16	AA-9	SD-04	R	砥石	長8.8	幅3.8	厚3.0	重量100g				全面に使用痕あり	石質-凝灰岩
	17	AA-9	SD-05	T	德利		(17.1)	6.0	最大径8.8	密	良好	淡灰褐色	体部外面下半回転ヘラケズリ	外面に灰釉
	18	AA-9	SD-05	T	搦鉢	33.8	14.2	14.4		密	良好	淡褐色	体部外面回転ヘラケズリ	内外面に鉄釉
	19	AA-9	SD-05	T	練鉢	35.0	(7.9)			密	良好	淡褐色	口縁部回転ナデ	内外面に鉄釉
	20	AA-9	SD-05	Z	丸碗	9.2	4.8	3.7		密	良好	淡灰白色	高台部削り出し	染付丸碗
	21	AA-9	SD-05	Z	広東碗	10.8	6.5	5.5		密	良好	淡灰白色	高台部削り出し	染付広東碗
	22	AA-9	SD-05	H	焙烙	31.3	(3.8)			密	良好	淡茶褐色	口縁端部ヨコナデ	外面に煤付着
38-	23	Y-9	SD-09	P	碗		(1.7)	7.2		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	高台に砂粒痕
	24	Y-9	SD-09	R	剥片	長6.8	幅3.4		重量24.0g					石質-流紋岩質凝灰岩?
	25	X-9	SD-12	T	端反皿	11.7	(2.3)			密	良好	淡乳褐色	内外面回転ナデ	内外面に灰釉
	26	X-9	SD-12	H	小皿	9.4	(2.0)			密	良好	淡褐色	体部外面ナデ・指押さえ	
	27	X-9	SD-12	H	皿	12.6	(1.8)			密	良好	淡褐色	口縁部ヨコナデ	
	28	X-9	SD-12	H	鍋	26.4	(6.9)			密	良好	茶褐色	体部内面板ナデ	体部外面に煤付着
	29	W-8	SD-17	T	天目茶碗	12.0	(5.1)			密	良好	淡褐色	体部外面下半回転ヘラケズリ	内外面に鉄釉
	30	W-8	SD-17	T	天目茶碗	12.2	(5.5)			密	良好	淡褐色	体部外面下半回転ヘラケズリ	内外面に鉄釉
	31	W-8	SD-17	T	碗		(2.4)	3.6		密	良好	淡褐色	内反り高台	内外面に鉄釉
	32	W-8	SD-17	T	碗		(2.8)	4.4		密	良好	淡褐色	体部外面下半回転ヘラケズリ	内外面に鉄釉
	33	W-8	SD-17	T	丸皿	10.2	1.9	5.6		密	良好	淡褐色	体部外面下半回転ヘラケズリ	内外面に長石釉
	34	W-8	SD-17	T	德利		(7.4)			密	良好	淡灰褐色	内外面回転ナデ	内面一部及び外面に灰釉
	35	W-8	SD-17	T	搦鉢		(4.7)			密	良好	淡褐色	内外面回転ナデ	内外面に鉄釉
	36	W-8	SD-17	H	小皿	10.2	(2.2)			密	良好	淡褐色	外面ナデ・指押さえ	
	37	W-8	SD-17	H	小皿	10.4	(2.3)			密	良好	淡褐色	外面ナデ・指押さえ	
	38	W-8	SD-17	H	鍋		(4.7)			密	良好	淡褐色	鍔部ヨコナデ	茶釜形
	39	W-7	SD-17	H	鍋		(2.7)			密	やや不良	淡褐色	口縁部ヨコナデ	くの字形
	40	W-8	SD-17	H	鍋	25.6	(3.4)			密	良好	淡褐色	口縁端部ヨコナデ	半球形
	41	X-9	SD-18	T	筒形香炉		(3.8)	5.6		密	良好	淡褐色	高台部削り出し	内外面に鉄釉-筒形香炉
	42	X-8	SD-18	T	搦鉢		(3.6)	10.6		密	良好	淡赤褐色	底部外面糸切り	内外面に鉄釉
	43	W-8	SD-18	H	小皿	10.2	1.9			密	良好	淡褐色	外面ナデ・指押さえ	
	44	X-8	SD-18	H	鍋		(6.0)			密	良好	淡褐色	口縁端部ヨコナデ	体部外面に煤付着
	45	X-8.9	SD-20	T	天目茶碗	11.0	(5.0)			密	良好	淡灰褐色	体部外面下半回転ヘラケズリ	内外面に鉄釉
	46	X-8.9	SD-20	T	碗		(3.4)	4.7		密	良好	淡灰褐色	高台部削り出し	内外面に鉄釉
	47	X-8.9	SD-20	T	丸皿		(1.1)	5.6		密	良好	淡褐色	高台部削り出し	内外面に灰釉
	48	X-8.9	SD-20	H	小皿	10.0	2.4			密	良好	淡褐色	外面ナデ・指押さえ	
	49	X-8.9	SD-20	H	鍋		(4.2)			密	良好	淡褐色	口縁端部ヨコナデ	体部外面に煤付着
	50	X-8.9	SD-20	H	鍋		(5.2)			密	良好	淡褐色	体部内面板ナデ	体部外面に煤付着
	51	W-10	SD-22	T	天目茶碗	11.2	(6.5)			密	良好	淡褐色	体部外面下半回転ヘラケズリ	内外面に鉄釉
	52	W-10	SD-22	T	天目茶碗	11.0	6.1	3.6		密	良好	淡灰褐色	高台部削り出し	内外面に鉄釉
	53	U-10	SD-22	T	丸碗		(5.8)	5.3		密	良好	淡褐色	高台部削り出し	内外面に鉄釉
	54	W-10	SD-22	T	皿		(1.1)	5.6		密	良好	淡褐色	高台部削り込み	内外面に灰釉
55	U-9.10	SD-22	T	輪禿皿	17.2	4.7	5.4		密	良好	淡褐色	高台部削り出し	内外面に灰釉	
56	U-10	SD-22	T	香炉	11.9	4.2	6.9		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	口縁部外面に鉄釉	
57	U-9	SD-22	T	搦鉢		(6.3)			密	良好	淡褐色	内外面回転ナデ	内外面に鉄釉	
58	W-10	SD-22	T	広口壺	19.4	(5.6)			やや粗雑	良好	暗灰色	口縁部回転ナデ	常滑窯産	
59	U-9	SD-22	T	広口壺	20.5	(8.1)			密	良好	暗灰色	口縁部回転ナデ	常滑窯産	
60	W-10	SD-22	T	甕		(8.9)			密	良好	淡青灰色	内外面回転ナデ	常滑窯産	
39-	61	U-9	SD-22	T	壺		(7.3)	15.6		密	良好	暗灰色	体部外面回転ヘラケズリ	高台部貼り付け
	62	U-10	SD-22	H	皿	12.3	(1.9)			密	良好	淡赤褐色	口縁端部ヨコナデ	
	63	U-10	SD-22	H	皿	12.7	1.8			密	良好	淡赤褐色	口縁部ヨコナデ	
	64	U-10	SD-22	H	鍋	21.6	(6.4)		最大径23.0	密	良好	淡褐色	体部内面下半ヘラケズリ	体部外面に煤付着
	65	V-9	SD-22	H	鍋		(2.1)			密	良好	淡茶褐色	口縁部ヨコナデ	
	66	W-10	SD-22	H	鍋		(4.2)			密	良好	淡褐色	口縁端部ヨコナデ	体部外面に煤付着
	67	U-9	SD-22	P	碗		(2.5)			密	良好	淡灰色	高台部貼り付け	
	68	V-9	SD-22	P	小皿	9.2	2.0	4.5		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り後ナデ	
	69	T-12	SD-28	T	丸碗	9.6	6.0	4.7		密	良好	淡灰色	高台部削り出し	内面灰釉+外面鉄釉掛け分け
	70	T-12	SD-28	T	丸碗	11.4	(6.2)			密	良好	淡灰色	体部外面下半回転ヘラケズリ	内面灰釉+外面鉄釉掛け分け

図版-遺物No.	地区	遺構	器種	分類	口径	器高	底径	その他	胎土	焼成	色調	調整等	備考
39-71	T-12	SD-28	T	丸碗	11.3	6.8	5.3		密	良好	淡灰褐色	高台部削り出し	内外面に鉄釉
72	T-12	SD-28	T	丸碗	11.0	6.9	5.0		密	良好	淡褐色	高台部削り出し	内外面に鉄釉
73	T-12	SD-28	T	広東碗	9.7	5.7	4.8		密	良好	淡灰色	高台部削り出し	染付広東碗
74	T-12	SD-28	T	菊皿	12.5	3.8	7.6		密	良好	淡灰色	底部外面回転ヘラケズリ後ナデ	内外面に灰釉
75	T-12	SD-28	T	播鉢	30.5	12.4	10.4		密	良好	淡褐色	底部外面糸切り	内外面に鉄釉
76	T-12	SD-28	H	小皿	10.7	(1.7)			密	良好	淡褐色	外面ナデ・指押さえ	内面に煤付着
77	T-12	SD-28	H	鍋	20.4	(10.2)		最大径21.0	密	良好	明褐色	体部外面下半ヘラケズリ	体部外面に煤付着
78	T-12	SD-28	H	鍋	17.3	(5.1)			密	良好	淡褐色	体部内面板ナデ	
79	T-12	SD-28	H	鍋		(5.3)		最大径21.2	密	良好	淡褐色	体部内面丁寧なナデ	鋳部より下半に煤付着
80	T-12	SD-28	H	焙烙	33.6	(3.7)			密	良好	淡茶褐色	口縁端部ヨコナデ	体部外面に煤付着
81	T-12	SD-28	P	碗	16.2	6.8	5.2		密	良好	淡灰色	高台部貼り付け	口縁部に灰釉
82	T-12	SD-28	R	石塔		(13.2)		最大幅9.0				空風輪	石質-凝灰質砂岩
83	T-13	SD-28	T	天目茶碗	12.4	(5.6)			密	良好	淡褐色	体部外面下半回転ヘラケズリ	内外面に鉄釉
84	T-13	SD-28	T	箱形湯呑	6.9	5.4	3.5		密	良好	淡灰色	高台部削り出し	染付箱形湯呑
85	T-13	SD-28	T	箱形湯呑	6.9	5.7	4.0		密	良好	淡灰褐色	高台部削り出し	染付箱形湯呑
86	T-13	SD-28	T	広東碗	10.5	6.9	5.7		密	良好	淡灰色	高台部削り出し	染付広東碗
40-87	T-13	SD-28	T	筒形香炉		(3.3)	10.7		密	良好	淡灰色	底部外面回転ヘラケズリ	内外面に鉄釉
88	T-13	SD-28	T	菊皿	12.7	2.6	7.3		密	良好	淡褐色	高台部削り出し	内外面に長石釉
89	T-13	SD-28	T	德利	2.5	(12.6)		最大径10.6	密	良好	淡灰褐色	内外面回転ナデ	内外面に鉄釉
90	T-13	SD-28	T	秉燭		(3.1)	5.3		密	良好	淡褐色	底部外面糸切り	
91	T-13	SD-28	T	播鉢	33.8	17.3	14.8		密	良好	淡褐色	体部外面下半回転ヘラケズリ	内外面に鉄釉
92	T-13	SD-28	T	広口壺	17.0	(4.6)			密	良好	暗灰色	口縁部回転ナデ	常滑窯産
93	T-13	SD-28	T	甕		(12.2)			密	良好	暗灰色	口縁部回転ナデ	常滑窯産
94	T-13	SD-28	H	小皿	9.6	1.8			密	良好	淡赤褐色	口縁端部ヨコナデ	
95	T-13	SD-28	H	鍋	13.3	(5.3)			密	良好	淡褐色	口縁部ヨコナデ	
96	T-13	SD-28	H	鍋	32.4	(6.0)			密	良好	淡褐色	体部内面板ナデ	体部外面に煤付着
97	T-13	SD-28	P	小皿	7.7	1.8	5.6		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	
98	T-13	SD-28	Z	碗		(2.5)			密	良好	淡灰白色	内外面回転ナデ	中国製白磁碗
99	T-14	SD-28	T	天目茶碗	12.0	(5.5)			密	良好	淡褐色	体部外面下半回転ヘラケズリ	内外面に鉄釉
100	T-14	SD-28	T	天目茶碗	10.9	(4.3)			密	良好	淡灰色	内外面回転ナデ	内外面に鉄釉
101	T-14	SD-28	T	広口壺	18.5	(11.2)			密	良好	淡灰色	体部内面指押さえ・ヨコナデ	常滑窯産
102	T-14	SD-28	T	甕	33.0	(9.2)			密	良好	淡灰色	口縁部回転ナデ	常滑窯産
103	T-14	SD-28	H	鍋	29.0	(5.6)			密	良好	淡褐色	口縁端部ヨコナデ	
104	T-14	SD-28	D	土錘	長(6.6)	最大径2.5	孔径1.1	重量36.4g	密	良好	暗灰色	ナデ・指押さえによる整形	
105	T-14	SD-28	S	甕		(4.5)			密	良好	淡灰色	内外面回転ナデ	体部外面に波状文
106	T-15	SD-28	T	丸碗	12.3	8.5	6.3		密	良好	淡灰褐色	体部外面下半回転ヘラケズリ	内外面に灰釉
107	T-15	SD-28	H	鍋	20.4	(7.6)			密	良好	淡褐色	体部内面板ナデ	体部外面に煤付着
41-108	T-U-16	SD-28	S	甕	24.7	(3.8)			密	良好	淡灰色	内外面回転ナデ	
109	T-U-16	SD-28	P	小皿	8.3	2.2	5.4		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	
110	T-U-16	SD-28	P	甕	28.2	(8.3)		胴部径22.8	密	良好	淡灰色	体部内面ナデ・指押さえ	
111	T-U-16	SD-28	T	有耳壺	8.9	(5.8)		最大径13.5	密	良好	淡灰色	内外面回転ナデ	内外面に鉄釉
112	T-U-16	SD-28	H	鍋	21.2	(5.2)			密	良好	明褐色	口縁端部ヨコナデ	
113	T-U-16	SD-28	D	土錘	長6.3	最大径2.0	孔径0.7	重量27.2g	密	良好	灰白色	ナデ・指押さえによる整形	
114	T-U-17	SD-28	T	甕		(8.5)	13.0		やや粗雑	良好	暗灰色	体部内面板ナデ	常滑窯産
115	T-U-17	SD-28	H	鍋		(6.3)			密	良好	淡褐色	体部内面ナデ	
116	T-U-17	SD-28	R	磨製石斧	長16.6	幅5.1	厚3.6	重量48.0g					石質-塩基性岩
117	T-14	SD-28-2	T	緑釉小皿	9.9	2.0	5.1		密	良好	淡褐色	底部外面糸切り	口縁端部に灰釉-古瀬戸
118	T-13	SD-28-2	P	碗		(1.8)	7.3		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り後ナデ	
119	T-14	SD-28-2	P	碗		(2.4)	9.0		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	
120	T-13	SD-28-2	P	碗		(1.3)	7.4		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り後ナデ	無高台
121	T-13	SD-28-2	S	鉄鉢	21.6	(6.4)			密	良好	淡灰色	内外面回転ナデ	
122	T-14	SD-28-2	H	鍋	26.3	(4.3)			密	良好	淡茶褐色	体部内面ナデ・板ナデ	外面に煤付着
123	T-14	SD-28-2	H	鍋	23.2	(5.1)			密	良好	淡褐色	体部内面ナデ	外面に煤付着
124	T-13	SD-28-2	H	鍋	23.0	(4.0)			密	良好	淡褐色	口縁部外面ナデ・指押さえ	外面に煤付着
125	T-14	SD-28-3	H	緑釉小皿	11.5	(2.5)			密	良好	淡褐色	内外面回転ナデ	口縁端部に灰釉-古瀬戸
126	T-14	SD-28-3	T	瓶子		(6.1)	9.5		密	良好	淡灰色	体部外面回転ヘラケズリ後ナデ	外面に灰釉-古瀬戸
127	T-14-15	SD-28-3	H	皿	14.0	2.1			密	良好	淡乳褐色	口縁部ヨコナデ	
128	T-14-15	SD-28-3	H	鍋	21.2	(4.5)			密	良好	淡褐色	口縁端部ヨコナデ	体部外面に煤付着
129	T-14	SD-28-3	H	鍋	18.8	(5.8)		最大径20.4	密	良好	淡褐色	体部内面ナデ・板ナデ	口縁部外面煤付着
42-130	T-12	SD-29	T	丸皿	12.2	(2.6)			密	良好	淡灰褐色	内外面回転ナデ	内外面に長石釉
131	T-12	SD-29	T	播鉢	30.6	(4.0)			密	良好	淡褐色	内外面回転ナデ	内外面に鉄釉
132	T-12	SD-29	T	甕	28.0	(9.0)			密	良好	暗茶灰色	内外面回転ナデ	
133	T-12	SD-29	Z	白磁皿	7.4	1.8	4.3		密	良好	淡灰白色	高台部削り出し	
134	T-12	SD-29	H	鍋	26.4	(6.2)			密	良好	淡褐色	口縁部ヨコナデ	外面に煤付着
135	T-12	SD-29	H	鍋	25.2	(6.3)			密	良好	淡褐色	体部内面板ナデ	外面に煤付着
136	T-12	SD-29	H	鍋	29.6	(5.4)			密	良好	淡褐色	体部内面板ナデ	
137	T-12	SD-29	R	片口鉢	26.0	11.9	15.8					体部外面に加工痕	石質-凝灰質砂岩
138	T-12	SD-29	P	碗		(3.5)	9.8		密	良好	淡灰色	底部外面に丁寧なナデ	口縁部に灰釉
139	T-12	SD-29	P	碗		(2.7)	6.8		密	良好	淡灰色	底部外面ナデ	
140	T-12	SD-29	P	小皿		(1.0)	5.2		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	

図版-遺物No	地区	遺構	器種	分類	口径	器高	底径	その他	胎土	焼成	色調	調整等	備考
42-141	U-12	SD-29	T	皿		(1.4)	6.6		密	良好	淡灰色	高台部削り出し	内外面に長石釉
142	U-12	SD-29	H	皿	12.2	1.8			密	良好	淡褐色	口縁端部ヨコナデ	
143	U-12	SD-29	H	鍋	22.8	(4.3)			密	良好	淡茶褐色	口縁端部ヨコナデ	外面に煤付着
144	U-12	SD-29	H	鍋		(6.0)			密	良好	淡褐色	体部内面板ナデ	
145	U-12	SD-29	P	碗		(2.8)	7.0		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り後ナデ	口縁部内面に灰釉
146	V-12	SD-29	H	鍋	12.8	(4.1)			密	やや不良	淡褐色	口縁部ヨコナデ	
147	V-12	SD-29	H	鍋		(4.3)			密	良好	淡褐色	口縁部ヨコナデ	
148	V-12	SD-31	T	播鉢		(3.8)			密	良好	淡赤褐色	口縁部回転ナデ	内外面に鉄釉
149	V-12	SD-31	T	火鉢		(2.6)			密	良好	淡赤褐色	口縁部ヨコナデ	
150	V-12	SD-31	H	小皿	8.3	1.6			密	良好	淡赤褐色	外面ナデ・指押さえ	
151	V-12	SD-31	H	小皿	9.2	(2.1)			密	良好	淡赤褐色	外面ナデ・指押さえ	
152	V-12	SD-31	H	鍋	26.4	(5.3)			密	良好	淡乳褐色	体部内面板ナデ	
43-153	V-12	SD-30	T	皿		(1.5)	3.6		密	良好	淡灰色	高台部削り出し	内外面に灰釉
154	V-12	SD-30	T	播鉢	33.2	(5.4)			密	良好	淡褐色	口縁部回転ナデ	内外面に鉄釉
155	V-12	SD-30	T	火鉢	20.8	(3.4)			密	良好	淡褐色	口縁部回転ナデ、内面ヨコナデ	
156	V-12	SD-30	T	壺	20.6	(7.3)			密	良好	灰色	口縁部回転ナデ	常滑窯産
157	V-12	SD-30	T	甕	40.6	(10.0)			密	良好	淡灰褐色	口縁部回転ナデ	常滑窯産
158	V-12	SD-30	Z	端反碗	10.8	(4.4)			密	良好	淡灰白色	内外面回転ナデ	染付端反碗
159	V-12	SD-30	H	鍋		(3.8)			密	やや不良	淡乳褐色	口縁部ヨコナデ	外面に煤付着
160	V-12	SD-30	P	碗	16.4	4.4	7.0		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り後ナデ	内面に煤、灯明具に転用
161	V-12	SD-30	P	小皿	8.4	1.9	5.4		密	良好	淡灰色	底部外面ヘラケズリ	
162	W-12	SD-30	T	稜皿	9.8	2.2	6.0		密	良好	淡灰褐色	高台部削り込み	大窯-内外面に鉄釉
163	W-12	SD-30	T	広口壺	24.6	(8.7)			密	良好	灰褐色	内外面回転ナデ	常滑窯産
164	W-12	SD-30	H	鍋		(5.4)			密	良好	淡褐色	体部内面板ナデ	
165	W-12	SD-30	H	鍋		(5.0)			密	良好	淡茶褐色	口縁端部ヨコナデ	外面に煤付着
166	W-12	SD-30	H	鍋		(4.5)			密	良好	淡茶褐色	口縁端部ヨコナデ	外面に煤付着
167	W-13	SD-30	Z	端反皿	14.2	4.3	7.5		緻密	良好	淡灰白色	高台部削り出し	染付端反皿
168	W-13	SD-30	Z	湯呑	7.8	(3.3)			緻密	良好	淡灰白色	口縁部回転ヨコナデ	染付筒形湯呑
169	W-13	SD-30	Z	碗		(2.0)	4.6		密	良好	淡灰白色	高台部削り出し	染付碗
170	W-13	SD-30	T	天目茶碗	12.2	(4.3)			密	良好	淡褐色	口縁部回転ナデ	内外面に鉄釉
171	W-13	SD-30	T	平碗	14.8	(3.3)			密	良好	淡灰色	口縁部回転ナデ	内外面に灰釉
172	W-13	SD-30	T	筒形湯呑		(2.6)	4.6		密	良好	淡灰色	高台部削り出し	内外面に灰釉
173	W-13	SD-30	T	平碗	16.4	(3.0)			密	良好	淡灰色	体部外面下半回転ヘラケズリ	古瀬戸-口縁部に灰釉
174	W-13	SD-30	T	縁軸小皿?		(1.6)	5.4		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	古瀬戸-口縁部内面に灰釉
175	W-13	SD-30	T	壺	13.8	(5.7)			密	良好	淡茶褐色	口縁部回転ナデ	口縁部に鉄釉
176	W-13	SD-30	T	播鉢	33.6	(3.1)			密	良好	淡褐色	口縁部回転ナデ	古瀬戸-内外面に鉄釉
177	W-13	SD-30	T	広口壺	12.6	(4.1)			密	良好	灰色	口縁部回転ナデ	内外面に鉄釉
178	W-13	SD-30	T	壺	12.4	(20.1)		最大径27.0	密	良好	灰色	体部外面にカキメ	常滑窯産
44-179	W-13	SD-30	T	広口壺	11.2	(6.2)			密	良好	暗灰褐色	口縁部回転ナデ	常滑窯産
180	W-13	SD-30	T	甕	16.2	(5.6)			密	良好	暗灰褐色	体部内面指押さえ	常滑窯産
181	W-13	SD-30	T	広口壺	19.8	(7.6)			密	良好	茶褐色	体部内面指押さえ・ヨコナデ	常滑窯産
182	W-13	SD-30	T	甕	39.4	(8.4)			密	良好	暗褐色	口縁部回転ナデ	常滑窯産
183	W-13	SD-30	T	甕	32.6	(8.6)			密	良好	淡赤褐色	体部内面指押さえ・ヨコナデ	常滑窯産
184	W-13	SD-30	T	甕	30.2	(22.2)		最大径35.6	密	良好	赤褐色	体部外面板ナデ・ナデ	常滑窯産
185	W-13	SD-30	H	小皿	10.6	(2.5)			密	良好	淡褐色	外面ナデ・指押さえ	
186	W-13	SD-30	H	小皿	7.5	1.4			密	良好	淡褐色	外面ナデ・指押さえ	
187	W-13	SD-30	H	皿	15.4	(2.3)			密	良好	淡褐色	口縁端部ヨコナデ	
188	W-13	SD-30	H	皿	15.8	(2.2)			密	良好	淡褐色	口縁端部ヨコナデ	
189	W-13	SD-30	H	鍋	12.4	(4.7)			密	良好	淡褐色	体部内面ハケメ	
190	W-13	SD-30	H	鍋	19.8	(3.8)			密	良好	淡乳褐色	口縁部ヨコナデ	
191	W-13	SD-30	H	鍋		(7.5)			密	良好	淡褐色	口縁端部ヨコナデ	外面に煤付着
192	W-13	SD-30	Y	甕		(3.0)			密	良好	暗黄褐色	外面櫛状工具によるハケメ	瓜嚮式
193	W-13	SD-30	Y	高坏		(8.6)			密	良好	淡褐色	脚部内面にシボリメ	山中式
194	W-13	SD-30	S	高坏		(5.9)			密	良好	淡灰色	内外面回転ナデ	
195	W-13	SD-30	K	碗		(2.6)			密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	内面に灰釉
196	W-13	SD-30	T	四耳壺		(9.3)		最大径24.2	密	良好	淡灰色	内外面回転ナデ	外面に灰釉-古瀬戸
197	W-13	SD-30	N	平瓦				厚1.8-2.4	密	良好	淡灰色	凸面平行タタキ	凹面に布目
198	U-15	SD-32	P	碗		(2.2)	7.4		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り後ナデ	
199	U-15	SD-32	H	鍋		(2.8)			密	良好	淡褐色	口縁部ヨコナデ	
200	T-15	SD-33	T	天目茶碗	10.8	(5.2)			密	良好	淡褐色	体部外面下半回転ヘラケズリ	内外面に鉄釉
201	U-15	SD-33	T	甕		(4.6)			密	良好	淡灰色	口縁部回転ナデ	常滑窯産
202	U-15	SD-33	H	鍋		(4.7)			密	やや不良	淡褐色	体部内面板ナデ	
203	V-15	SD-33	H	鍋		(6.2)			密	良好	淡乳褐色	口縁部ヨコナデ	
204	V-15	SD-33	H	鍋	15.2	(4.3)			密	良好	淡乳褐色	体部内面板ナデ・ナデ	体部外面に煤付着
205	U-15	SD-33	H	鍋		(5.3)			密	良好	淡褐色	口縁端部ヨコナデ	外面に煤付着
206	T-15	SD-33	H	鍋		(4.0)			密	良好	淡褐色	口縁端部ヨコナデ	外面に煤付着
207	V-15	SD-33	P	碗	15.0	(2.4)			密	良好	淡灰色	口縁部回転ナデ	口縁端部に輪花
208	U-15	SD-33	P	甕	28.0	(6.6)		胴部径23.8	密	良好	淡灰色	口縁部回転ナデ	口縁部に自然釉
45-209	U-15	SD-34	T	碗		(3.1)	4.2		密	良好	淡褐色	高台部削り出し	内外面に鉄釉
210	U-15	SD-34	T	縁軸小皿	11.2	(2.2)			密	良好	淡灰色	口縁部回転ナデ	口縁部に灰釉

図版-遺物No	地区	遺構	器種	分類	口径	器高	底径	その他	胎土	焼成	色調	調整等	備考
45-211	U-15	SD-34	T	丸皿	11.3	2.2	7.2		密	良好	淡褐色	体部外面下半回転ヘラケズリ	内外面に長石釉
212	U-15	SD-34	T	壺	10.0	(2.8)			やや粗雑	良好	淡灰色	口縁部回転ナデ	常滑窯産
213	U-15	SD-34	T	片口鉢		(4.3)			密	良好	暗褐色	口縁部回転ナデ	常滑窯産
214	U-15	SD-34	T	播鉢	32.8	(8.5)			密	良好	淡褐色	内外面回転ナデ	内外面に鉄釉
215	U-15	SD-34	T	甕	26.7	(9.7)			やや粗雑	良好	淡灰褐色	体部内面ナデ・指押さえ	常滑窯産
216	U-15	SD-34	T	甕	23.7	(8.1)			密	良好	淡青灰色	口縁部回転ナデ	常滑窯産
217	U-15	SD-34	T	甕	28.3	(8.1)			密	良好	暗灰色	口縁部回転ナデ	常滑窯産
218	V-15	SD-34	T	甕	29.3	(7.6)			密	良好	淡茶褐色	口縁部回転ナデ	常滑窯産
219	U-15	SD-34	Z	湯呑		(5.6)	3.8		密	良好	淡灰白色	高台部削り出し	染付箱形湯呑
220	U-15	SD-34	H	小皿	11.9	(2.1)			密	良好	淡褐色	外面ナデ・指押さえ	
221	U-15	SD-34	H	鍋	28.2	(5.9)		胴径28.0	密	良好	淡褐色	体部内面ナデ・板ナデ	
222	U-15	SD-34	H	鍋	26.6	(4.0)			密	良好	淡褐色	体部内面板ナデ	
223	U-15	SD-34	H	鍋	24.8	(5.8)			密	良好	淡褐色	口縁部ヨコナデ	
224	U-15	SD-34	R	砥石	長(7.4)	幅(4.3)	厚2.5	重量7.5g				各面に使用痕	石質-凝灰岩
225	V-15	SD-34	P	碗		(2.2)	8.8		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	外面に灰釉
226	U-15	SD-34	P	碗		(3.0)	7.2		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	
227	U-15	SD-34	P	小皿		(1.6)	4.1		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	
228	U-15	SD-34	Z	碗		(3.4)			密	良好	淡灰色	口縁部回転ナデ	中国製白磁碗
229	U-15	SD-34	T	壺/瓶類		(8.3)	8.4		密	良好	灰色	底部外面糸切り	外面に灰釉-古瀬戸
46-230	U-15	SD-37	T	播鉢		(4.7)			密	良好	淡褐色	口縁部回転ナデ	内外面に鉄釉
231	V-15	SD-37	H	小皿		(2.0)			密	良好	淡赤褐色	外面ナデ・指押さえ	
232	V-15	SD-37	H	鍋	21.6	(8.2)			密	良好	淡褐色	体部内面板ナデ	
233	U-15	SD-37	H	鍋	22.0	(3.4)			密	良好	淡乳褐色	体部内面板ナデ	
234	V-15	SD-37	H	鍋	16.7	(3.1)			密	良好	淡乳褐色	口縁部ヨコナデ	
235	U-15	SD-37	P	碗		(1.9)	8.8		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り後ナデ	
236	V-15	SD-37	P	小碗		(1.2)	3.8		密	良好	淡灰色	高台部貼り付けナデ	
237	U-16	SD-38	T	丸皿		(1.9)			密	良好	淡灰色	体部外面下半回転ヘラケズリ	内外面に長石釉
238	U-16	SD-38	H	小皿	10.0	(1.9)			密	良好	淡褐色	外面ナデ・指押さえ	
239	U-16	SD-38	H	鍋		(4.2)			密	良好	淡赤褐色	口縁部ヨコナデ	
240	U-16	SD-38	H	鍋	25.4	(5.9)			密	やや不良	淡褐色	体部内面板ナデ	
241	U-17	SD-40	T	播鉢		(6.0)	9.0		密	良好	淡褐色	底部外面糸切り	内外面に鉄釉
242	U-17	SD-40	H	小皿	10.2	2.0			密	良好	淡赤褐色	外面ナデ・指押さえ	
243	U-17	SD-40	H	鍋		(2.7)			密	良好	淡褐色	口縁部ヨコナデ	外面に煤付着
244	V-17	SD-41	H	小皿	10.8	1.8			密	良好	淡褐色	外面ナデ・指押さえ	
245	V-17	SD-41	H	鍋	28.8	(6.4)			やや粗雑	良好	淡茶褐色	体部内面板ナデ	外面に煤付着
246	V-17	SD-41	H	鍋	21.8	(7.3)			密	良好	淡乳褐色	体部外面ナデ・指押さえ	
247	Z-10-11	SD-59	K	碗		(2.7)	7.3		密	良好	淡灰色	底部外面回転ヘラケズリ	内面に灰釉
248	AA-10	SD-61	T	腰鎗茶碗		(3.2)	4.0		密	良好	淡灰褐色	体部外面下半回転ヘラケズリ	内面灰釉+外面鉄釉
249	AA-10	SD-61	T	菊皿	12.6	3.2	7.3		密	良好	淡灰褐色	高台部削り出し	内外面に灰釉
250	AA-10	SD-61	Z	紅皿	4.6	1.4	1.4		密	良好	淡灰白色	台部削り出し	白磁型打紅皿
251	AA-10	SD-61	T	小壺		(3.1)	4.0		密	良好	淡乳褐色	高台部削り出し	体部外面に長石釉
252	AA-10	SD-61	H	焙烙		(3.7)			密	良好	淡赤褐色	口縁部ヨコナデ	外面に煤付着
253	W-13	SD-55	T	天目茶碗	11.8	(4.2)			密	良好	淡褐色	内外面回転ナデ	内外面に鉄釉
254	W-13	SD-55	T	丸碗	12.4	(3.7)			密	良好	淡灰色	内外面回転ナデ	内外面に鉄釉
255	W-13	SD-55	T	碗		(2.7)	5.4		密	良好	淡灰色	高台部削り出し	内外面に灰釉
256	W-13	SD-55	T	碗		(1.8)	3.6		密	良好	淡灰褐色	高台部削り出し	内外面に長石釉
257	W-13	SD-55	T	丸皿	11.5	2.0	5.8		密	良好	淡灰褐色	高台部削り出し	内外面に鉄釉
258	W-13	SD-55	T	折縁深皿	33.6	(3.4)			密	良好	淡灰色	内外面回転ナデ	古瀬戸-内外面に灰釉
259	W-13	SD-55	H	小皿	9.2	1.8			密	良好	淡褐色	外面ナデ・指押さえ	
260	W-13	SD-55	H	小皿	11.6	(1.8)			密	良好	淡褐色	外面ナデ・指押さえ	
261	W-13	SD-55	H	鍋		(6.4)			密	良好	暗褐色	口縁部ヨコナデ	外面に煤付着
262	W-14	SD-56	T	丸皿	10.2	(1.7)			密	良好	淡灰色	口縁部回転ナデ	内外面に灰釉
263	W-14	SD-56	T	丸皿	10.4	(1.4)			密	良好	灰色	口縁部回転ナデ	内外面に鉄釉
264	W-13	SD-56	T	播鉢		(10.0)			やや粗雑	良好	淡灰褐色	体部外面下半回転ヘラケズリ	内外面に鉄釉
47-265	W-15	SD-58	T	碗		(2.6)	3.9		密	良好	淡褐色	高台部削り出し	内外面に鉄釉
266	W-15	SD-58	T	丸皿	10.2	2.0	5.8		密	良好	淡灰色	体部外面下半回転ヘラケズリ	内外面に長石釉
267	X-15	SD-58	T	播鉢		(7.4)	9.8		密	良好	淡灰褐色	底部外面糸切り	内外面に鉄釉
268	X-15	SD-58	H	小皿	10.8	2.5			密	良好	淡赤褐色	外面ナデ・指押さえ	
269	Y-15	SD-58	H	鍋		(4.5)			密	良好	淡褐色	口縁部ヨコナデ	外面に煤付着
270	X-15	SD-58	H	鍋		(7.4)			密	良好	淡褐色	口縁部ヨコナデ	外面に煤付着
271	W-15	SD-58	R	砥石	長(7.9)	幅4.2		重量7.9g				各面に使用痕	石質-凝灰岩
272	X-15	SD-58	R	石臼	厚9.2	孔径2.6						上臼	石質-玄武岩?
273	AA-14	SD-48	S	無台坏		(1.8)	5.4		密	良好	灰色	底部外面回転ヘラケズリ	
274	AA-15	SD-48	S	有台坏		(2.0)	8.9		密	良好	灰色	底部外面回転ヘラケズリ	
275	AA-15	SD-48	S	有台坏	14.8	3.7	10.3		密	良好	淡灰色	内外面回転ナデ	
276	AA-14	SD-48	S	有台皿	14.2	2.7	9.8		密	良好	淡灰色	内外面回転ナデ	
277	AA-14	SD-48	S	甕	36.8	(18.9)		胴径27.2	密	良好	淡灰色	体部内面ヘラケズリ後ナデ	
278	AA-15	SD-48	K	碗		(1.7)	7.8		密	良好	淡灰色	内外面回転ナデ	内外面に灰釉
279	AA-15	SD-48	K	壺		(3.5)	8.6		密	良好	淡灰色	底部外面回転ヘラケズリ後ナデ	外面に灰釉
280	W-13	SD-45	T	柳茶碗	12.4	5.7	4.2		密	良好	淡灰色	高台部削り出し	

図版-遺物No	地区	遺構	器種	分類	口径	器高	底径	その他	胎土	焼成	色調	調整等	備考				
47-281	W-13	SD-45	T	汁次		(10.0)	7.8	最大径12.0	密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	内外面に鉄釉				
				片口		(7.7)	8.6		密	良好	淡灰褐色	高台部貼り付け	内外面に鉄釉				
				桶	34.6	(11.0)		密	良好	暗灰褐色	内外面回転ナデ	古瀬戸-内外面に鉄釉					
				播鉢	35.6	(5.0)		密	良好	淡褐色	内外面回転ナデ	内外面に鉄釉					
				壺	14.2	(7.0)		密	良好	朱赤色	口縁部回転ナデ	常滑窯産					
48-286	W-13	SD-45	T	甕	21.8	(7.2)		密	良好	暗灰色	体部内面ヨコナデ・ナデ	常滑窯産					
				甕	26.0	(12.9)		密	良好	赤褐色	体部内面ヨコナデ・指押さえ	常滑窯産					
				水甕	27.2	(7.5)		密	良好	淡灰色	口縁部回転ナデ	内外面に灰釉					
				Z 端反皿	15.6	3.1	9.0	密	良好	淡灰色	高台部削り出し	染付端反皿					
				Z 丸皿	13.8	3.0	7.6	密	良好	淡灰色	高台部削り出し	染付丸皿					
				Z 湯呑		(2.4)	4.2	密	良好	淡灰色	高台部削り出し	箱形湯呑					
				H 小皿	8.2	1.6		密	良好	淡赤褐色	外面ナデ・指押さえ						
				H 小皿	9.8	1.8		密	良好	淡褐色	外面ナデ・指押さえ						
				H 小皿	10.6	1.9		密	良好	淡褐色	外面ナデ・指押さえ						
				H 皿	14.2	(2.5)		密	良好	淡乳褐色	口縁部ヨコナデ						
				H 鍋	20.4	(8.2)		密	良好	淡乳褐色	体部内面板ナデ						
				H 鍋		(4.6)		密	良好	淡褐色	口縁部ヨコナデ						
				H 焙烙		(2.9)		密	良好	淡茶褐色	口縁部ヨコナデ						
				D 土錘	長(4.1)	最大径1.4	孔径0.4	重量6.3g	密	良好	淡褐色	ナデ・指押さえによる整形					
				R 硯	長12.1	幅4.8	厚1.8						石質-凝灰質泥岩?				
				I 煙管吸口	長(5.7)	最大径1.1		重量3.4g									
				Y 壺		(4.0)		密	良好	淡褐色	体部内面ナデ・指押さえ						
				T 四耳壺	13.4	(9.4)		密	良好	淡灰色	内外面回転ナデ	古瀬戸-内外面に灰釉					
				T 瓶子		(7.1)	8.4	頸部径11.1	密	良好	淡灰色	体部外面回転ヘラケズリ	古瀬戸-外面に灰釉				
				N 平瓦				厚1.8~2.3	密	良好	淡灰色	凸面平行タキ	凹面に布目				
				T 柳茶碗	12.0	(5.0)		密	良好	淡灰色	口縁部回転ナデ						
				T 丸碗	10.3	6.9	4.8	密	良好	淡灰褐色	体部外面下半回転ヘラケズリ	内外面に鉄釉					
				T 丸皿	10.2	2.1	5.0	密	良好	灰色	体部外面下半回転ヘラケズリ	内外面に灰釉					
				T 壺		(4.5)	8.2	密	良好	淡灰色	高台部削り出し	内外面に鉄釉					
				T 片口	16.6	(4.0)		密	良好	淡灰色	口縁部回転ナデ	内外面に灰釉					
				49-311	W-X-12	SD-45	T	瘦瓶		(6.8)		最大径20.9	密	良好	淡灰色	体部外面下半回転ヘラケズリ	内外面に灰釉
								T 壺	23.6	(5.3)		密	良好	淡灰色	口縁部回転ナデ	常滑窯産	
								Z 丸碗	15.6	(6.5)		密	良好	淡灰白色	内外面回転ナデ	染付丸碗	
								H 小皿	7.6	(1.7)		密	良好	淡褐色	外面ナデ・指押さえ	口縁部内面に煤付着	
H 鍋		(6.7)						密	良好	淡褐色	口縁部ヨコナデ						
T 広東碗	10.2	5.4	4.6					密	良好	淡灰褐色	高台部削り出し	染付広東碗					
Z 碗		(5.0)	3.6					密	良好	淡灰白色	高台部削り出し	染付丸碗?					
T 折縁鉢	33.2	(3.1)						密・精良	良好	淡灰褐色	口縁部回転ナデ	内外面に灰釉-鉄絵鉢?					
T 鉢	24.2	(3.9)						密	良好	赤褐色	口縁部回転ナデ	常滑窯産					
H 鍋	13.0	(4.1)						密	やや不良	淡褐色	口縁部ヨコナデ						
T 丸皿	11.9	1.9	7.1					密	良好	淡灰白色	高台部削り出し	内外面に灰釉					
Z 端反碗	11.2	5.1	4.0					密	良好	淡灰白色	高台部削り出し	染付端反碗					
H 皿	12.0	(2.1)						密	良好	淡赤褐色	口縁部ヨコナデ	口縁部に煤付着					
H 鍋	21.8	(5.1)						密	良好	淡褐色	体部内面板ナデ						
T 播鉢	36.0	(11.4)						密	良好	淡褐色	体部外面下半回転ヘラケズリ	内外面に鉄釉					
Z 丸碗	10.1	5.9	4.0					密	良好	淡灰白色	高台部削り出し	染付丸碗					
H 小皿	9.4	1.4						密	良好	淡褐色	外面ナデ・指押さえ						
H 鍋		(7.8)						密	良好	淡褐色	体部内面ナデ	外面に煤付着					
H 焙烙	31.6	(4.6)						密	良好	淡赤褐色	体部外面下半ヘラケズリ	外面に煤付着					
T 四耳壺	8.8	(20.7)						最大径17.0	密	良好	淡灰褐色	体部外面回転ヘラケズリ	外面に灰釉				
T 片口瓶	9.6	(3.2)						密	良好	淡灰褐色	口縁部回転ナデ	古瀬戸-内外面に灰釉					
H 鍋	25.2	(13.6)						最大径25.8	密	良好	淡褐色	体部外面下半ヘラケズリ	外面に煤付着				
I 不明	長(3.0)	幅2.6	厚0.3									連弧状の線が見られる	銅製				
50-334	AB-12	SD-63下層	P					碗	14.7	4.8	6.2		密	良好	淡灰色	高台部に砂粒痕	口縁部打ち欠き
								小皿	8.8	1.7	5.0		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	
								小皿	9.1	2.1	5.3		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	
								片口鉢	31.9	(6.3)		密	良好	暗灰色	口縁部回転ナデ	口縁部に輪花	
								片口鉢		(5.1)	15.6		密	良好	淡灰色	体部外面下半回転ヘラケズリ	
								甕		(5.8)		密	良好	淡灰色	体部内面ヨコナデ	体部外面にヘラ描き	
				Z 碗	15.8	(4.2)		密	良好	淡灰色	外面に蓮弁文の陰刻	青磁碗					
				H 鍋		(2.3)		やや粗雑	やや不良	淡茶褐色	内外面摩滅著しい	伊勢型鍋					
				H 鍋	25.2	(4.8)		密	良好	暗茶褐色	口縁部ヨコナデ	清郷型鍋					
				H 鍋		(4.5)		やや粗雑	良好	暗茶褐色	体部内外面ナデ	清郷型鍋					
				P 碗	14.5	4.7	5.8		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り後ナデ	高台部に初殻痕				
				P 碗	14.8	4.6	8.1		密	良好	灰色	底部外面糸切り後ナデ	内面に煤付着				
				P 碗	15.2	5.2	6.0		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	高台部に砂粒痕				
				P 碗	15.2	5.0	6.9		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	高台部に初殻痕				
				P 碗	15.4	5.0	7.4		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	高台部に砂粒痕				
				P 碗	15.9	5.0	7.2		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	高台部に初殻痕				
				P 碗	15.6	5.1	7.2		密	良好	淡灰色	高台部に砂粒痕	口縁部打ち欠き				

図版-遺物No	地区	遺構	器種	分類	口径	器高	底径	その他	胎土	焼成	色調	調整等	備考
50-351	AB-13	SD-63下層	P	碗	16.1	5.0	7.4		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	高台部に粗殻痕
352	AB-13	SD-63下層	P	碗	16.1	5.7	6.3		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	
353	AB-13	SD-63下層	P	碗	16.2	5.6	7.4		密	良好	淡灰色	高台部に粗殻痕	口縁部に灰釉
354	AB-13	SD-63下層	P	碗		(4.2)	6.0		密	良好	灰色	高台部に砂粒痕	底部外面に墨書
355	AB-13	SD-63下層	P	小皿	7.4	1.8	4.9		やや粗雑	良好	淡灰色	底部外面糸切り	
356	AB-13	SD-63下層	P	小皿	8.1	1.9	4.3		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	
357	AB-13	SD-63下層	P	小皿	8.6	1.7	5.5		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	
358	AB-13	SD-63下層	P	小皿	8.6	1.8	3.8		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	
359	AB-13	SD-63下層	P	小皿	8.8	2.1	3.9		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	口縁部打ち欠き
360	AB-13	SD-63下層	P	小皿	8.9	2.2	4.8		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	口縁部打ち欠き
361	AB-13	SD-63下層	P	小皿	9.1	2.2	4.9		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	口縁部打ち欠き
362	AB-13	SD-63下層	P	小皿	9.9	2.2	4.4		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	口縁部打ち欠き
51-363	AB-13	SD-63下層	P	片口鉢	29.2	12.9	16.0		密	良好	淡灰色	体部外面下半回転ヘラケズリ	高台部に砂粒痕
364	AB-13	SD-63下層	H	小皿	8.6	(1.5)			密	良好	明褐色	口縁部ヨコナデ	
365	AB-13	SD-63下層	H	皿	12.2	3.2			密	やや不良	明褐色	口縁部ヨコナデ	
366	AB-13	SD-63下層	H	皿	12.8	(2.6)			密	良好	明褐色	口縁部ヨコナデ	
367	AB-13	SD-63下層	H	皿	12.8	(2.3)			密	良好	明褐色	口縁部ヨコナデ	
368	AB-13	SD-63下層	H	皿	13.8	(2.6)			密	良好	明褐色	口縁部ヨコナデ	
369	AB-13	SD-63下層	H	鍋		(3.0)			やや粗雑	良好	淡茶褐色	口縁部ヨコナデ	外面に煤付着-伊勢型鍋
370	AB-13	SD-63下層	H	鍋		(2.6)			やや粗雑	良好	淡褐色	内外面摩滅著しい	伊勢型鍋
371	AB-13	SD-63下層	H	鍋		(3.9)			密	やや不良	淡褐色	口縁部ヨコナデ	伊勢型鍋
372	AB-14	SD-63下層	P	碗	14.3	4.7	6.8		密	良好	淡灰色	高台部に粗殻痕	内面に煤付着
373	AB-14	SD-63下層	P	碗	14.8	5.6	6.3		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	高台部に粗殻痕
374	AB-14	SD-63下層	P	碗	14.9	4.9	7.2		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	高台部に粗殻痕
375	AB-14	SD-63下層	P	碗	15.1	5.2	7.2		密	良好	灰白色	底部外面糸切り	高台部に砂粒痕
376	AB-14	SD-63下層	P	碗	15.2	5.3	7.2		密	良好	淡灰色	高台部に砂粒痕	内面に煤付着
377	AB-14	SD-63下層	P	碗	15.2	5.0	6.9		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	内面に煤付着
378	AB-14	SD-63下層	P	碗	15.4	5.1	7.3		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	2次焼成を受けている
379	AB-14	SD-63下層	P	碗	15.5	5.4	7.0		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	口縁部打ち欠き
380	AB-14	SD-63下層	P	碗	15.6	4.8	5.9		やや粗雑	良好	淡灰色	底部外面糸切り後ナデ	内面に煤付着
381	AB-14	SD-63下層	P	碗	16.5	5.3	7.5		密	良好	淡灰色	口縁端部に輪花	口縁部に灰釉
382	AB-14	SD-63	P	碗	15.5	4.8	6.9		密	良好	淡灰色	高台部に砂粒痕	底部外面に墨書
383	AB-14	SD-63	P	碗	15.2	4.7	6.6		密	良好	淡灰色	口縁部打ち欠き	底部外面に墨書
384	AB-14	SD-63下層	P	小碗	8.0	2.8	4.3		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	
385	AB-14	SD-63下層	P	小皿	7.5	1.4	4.5		やや粗雑	良好	淡灰色	底部外面糸切り	
386	AB-14	SD-63下層	P	小皿	8.1	1.8	5.9		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	
387	AB-14	SD-63下層	P	小皿	8.2	2.2	4.6		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り後ヘラケズリ	
388	AB-14	SD-63下層	P	小皿	8.2	2.0	4.8		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	
389	AB-14	SD-63下層	P	小皿	8.5	2.1	4.3		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	
390	AB-14	SD-63下層	P	小皿	8.8	1.6	5.0		やや粗雑	良好	淡灰色	底部外面糸切り	
391	AB-14	SD-63下層	P	小皿	9.0	1.9	5.0		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り	
52-392	AB-14	SD-63下層	P	片口鉢	28.9	10.4	9.8		やや粗雑	良好	灰色	底部外面糸切り	
393	AB-14	SD-63下層	P	壺	9.7	21.1	8.2	最大径17.2	密	良好	灰色	体部外面下半回転ヘラケズリ	口縁部に灰釉
394	AB-14	SD-63下層	P	甕	50.8	(43.4)	14.9	最大径72.4	密	良好	淡灰褐色	体部外面タタキ後板ナデ	
395	AB-14	SD-63下層	P	甕	23.6	(28.4)		最大径34.6	密	良好	淡灰色	体部外面下半板ナデ	
396	AB-14	SD-63下層	P	甕		(9.2)	14.4		密	良好	淡灰色	底部外面ナデ	常滑窯産
397	AB-14	SD-63下層	H	皿	12.8	(2.8)			密	良好	淡褐色	外面ナデ・指押さえ	
398	AB-14	SD-63下層	H	皿	14.6	(2.5)			密	良好	淡褐色	口縁部ヨコナデ	
399	AB-14	SD-63下層	H	鍋	27.6	(6.2)		胴部径23.6	密	良好	淡茶褐色	口縁部ヨコナデ	外面に煤付着-伊勢型鍋
400	AB-14	SD-63下層	H	鍋	23.7	(2.9)			やや粗雑	やや不良	淡茶褐色	頸部外面指押さえ	伊勢型鍋
401	AB-14	SD-63下層	H	羽釜	19.8	(4.5)			やや粗雑	良好	暗茶褐色	口縁部ヨコナデ	外面に煤付着
402	AB-14	SD-63下層	Z	碗		(4.1)			密	良好	淡灰色	口縁部回転ヨコナデ	白磁碗
403	AB-11	SD-64	P	小碗		(1.7)	4.1		密	良好	淡灰色	底部外面糸切り後ナデ	
404	AB-11	SD-64	P	碗		(3.2)	5.8		密	良好	灰白色	底部外面糸切り後ナデ	
405	AB-11	SD-64	P	甕		(8.1)	13.2		密	良好	淡灰色	体部外面板ナデ・ナデ	

※器種記号 H-土師器 S-須恵器 K-灰釉陶器 D-土製品 R-石器・石製品 P-灰釉系陶器 T-陶器 Z-磁器 I-金属製品
 J-縄文土器・条痕文土器 Y-弥生土器 N-瓦・瓦質土器
 法量の単位はcm、()は残存数値。底径には、脚部径や高台径を含む。